

青森県立美術館

年報

平成26年度

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

- 006 企画展
- 035 常設展

学芸

- 044 美術資料収集
- 045 美術資料貸出状況
- 047 作品保存修復

教育普及

- 050 普及プログラム
- 054 スクールプログラム
- 056 サポートスタッフ
- 057 メンバーシッププログラム

パフォーミングアーツ

- 060 演劇
- 064 ダンス
- 069 音楽
- 074 映画

サービス等

- 080 貸館
- 082 図書室
- 083 キッズルーム
- 084 博物館実習

資料

- 088 広報
- 089 広聴
- 090 入館者数
- 091 運営予算・決算
- 092 組織
- 093 関係規程等
- 097 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

1990年3月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年1月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始
1996年2月	総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う
2005年9月20日	美術館竣工
2006年3月17日	「運営諮問会議」設置
2006年4月1日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年6月13日	開館プレス発表開催
2006年7月13日	開館（館長 三村申吾）
2007年7月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録（青森県教育委員会告示第11号）
2007年9月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置
2008年7月19日	あおり犬屋外連絡通路開通
2008年7月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年1月1日	新館長 鷹山ひばり 就任
2010年5月7日	入館者150万人達成
2010年7月8日	あおり犬えさ皿完成
2011年7月11日	入館者200万人達成
2011年7月13日	開館5周年
2012年11月14日	入館者250万人達成
2013年11月14日	入館者300万人達成

展覧会

企画展

工藤哲巳展

美少女展

関野準一郎展

常設展

第1期—第4期

青森 EARTH

凡例

- 1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ×縦×横、cm）、所蔵先の順に記した。
- 2 掲載記事は新聞記事のみを記載している。

あなたの肖像－工藤哲巳回顧展

開催概要

会期：2014年4月12日（土）－6月8日（日）

開催日数：54日間

主催：工藤哲巳展実行委員会（青森県立美術館、五所川原市教育委員会、青森県観光連盟）、国立国際美術館、東京国立近代美術館

共催：東奥日報社

協力：日本航空、青い森鉄道

後援：青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、エフエム青森、弘前市、青森県教育委員会

観覧料：一般 1,200（1,000）円、高大生 900（700）円、小中生 300（200）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

入場者数

5,056人

関連企画

（1）シンポジウム「縄文の構造＝天皇制の構造＝現代日本の構造」

大阪万博「お祭り広場」の設計者であり特異な縄文論で知られる上田篤氏と、工藤哲巳研究の第一人者として知られる島敦彦氏を迎えて、「縄文」や「天皇」をテーマに掲げるようになった80年代の工藤哲巳、について語った。

日時：4月12日（土）13:00－14:30

会場：青森県立美術館シアター

パネリスト：

上田篤（京都精華大学名誉教授）

島敦彦（国立国際美術館学芸課長）

飯田高誉（青森県立図書館近代文学館室長）

参加者数：51人

（2）トークセッション「工藤哲巳と津軽」

工藤哲巳と交流のあった青森の作家・太田美知氏をお招きし、少年期と80年代を青森で過ごし、晩年津軽や縄文をモチーフに取り上げるようになった工藤哲巳にとって青森はなんだったのかを考察した。

日時：4月27日（日）13:30－15:00

会場：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：38人

（3）映画上映「脱皮の記念碑」

工藤哲巳が1969年に鋸山（千葉県）で岩壁モニュメントを製作した際の記録映画を上映した。また、映画終了後にギャラリートークを実施した。

日時：4月29日（火・祝）

13:30－ 上映

14:30－ ギャラリートーク

会場：青森県立美術館シアター、展示室

参加者数：40人

（4）担当学芸員によるギャラリートーク

日時：4月19日（土）、5月3日（土）、10日（土）、17日（土）、24日（土）、31日（土）、6月7日（土）

各日とも14:00－

場所：青森県立美術館展示室

参加者数：115人

展覧会カタログ

仕様：B5判変形、625頁

企画・構成：

島敦彦、中井康之（国立国際美術館）

樹田倫広（東京国立近代美術館）

飯田高誉、池田亨（青森県立美術館）

編集：島敦彦、中井康之、樹田倫広、大谷省吾、飯田高誉、池田亨、岡部るい、福元崇志、宮田有香

編集助言：工藤弘子

デザイン：西岡勉

発行：国立国際美術館、公益財団法人ダイキン工業振興財団



ポスター



展示風景

©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2013

工藤哲巳（1935-1990）は、大阪に生まれ、少年期を父の出身地青森で暮らし、1945年に父が早世した後、母の郷里岡山で高校までを過ごした。東京藝術大学在学中から、戦後の前衛美術の牙城であった読売アンデパンダン展に出品し、篠原有司男や荒川修作らとともに「反芸術」世代の代表格となったが、1962年に第2回国際青年美術家展での大賞受賞を機に、渡仏。その後約20年、パリを本拠にヨーロッパを中心に文明批評的な視点と科学的な思考とを結びつけた独自の世界を展開した。

1970年代の中頃からは、攻撃の目標が芸術家自身に向けられ、一転して内省的、自画像的な作品が現れる。1980年代に入ると、たびたび帰国し、講演やシンポジウム、パフォーマンスを盛んに行い、日本の社会構造を根幹から見つめなおす作品を展開した。1987年には母校の東京藝術大学の教授に就任したが、1990年11月12日に55歳の若さで他界した。

本展は、国立国際美術館、東京国立近代美術館、青森県立美術館、三館の共同企画による大回顧展である。初期の絵画から、鳥籠や水槽をはじめとした多彩なオブジェやデッサン、1994

年の回顧展では紹介できなかったデッキチェアや乳母車を用いた1960年代半ばの充実した作品群、さらにハプニングやパフォーマンスの記録写真や関連資料をふんだんに盛り込んで紹介しており、国内美術館所蔵の作品をほとんど網羅するほか、欧米各地の美術館やコレクターなどから借用した日本初公開作品を含む約200点の作品によって、工藤哲巳30年余りにわたる活動を包括的に展示した。青森県立美術館からも50点近く所蔵するコレクションのほとんどを出品しており、郷土の作家の仕事の検証および発信として高い意義を持つ展覧会となった。

青森会場では、常設展で五所川原市出身の父・工藤正義の作品（弘前市立博物館蔵）を展示し、哲巳の芸術が津軽から受けた影響についても紹介した。

出品作品

I 1956 - 1962 「反芸術」から「インボ哲学」まで

融合反応 585B

1955-56

油彩、合板、他

青森県立美術館

精神に於ける流動とその凝集性

1956

木、釘

広島市現代美術館

精神に於ける流動とその凝集性

1957-58

木材、紐、釘、他

個人蔵

増殖性連鎖反応

1957-58

ラッカー、エナメル、紐、合板

千葉市美術館

精神に於ける流動とその凝集性

1958

水彩、綿布

青森県立美術館

精神に於ける流動とその凝集性 No.5811

1958

水性絵具（オーナメントカラー）、布

広島市現代美術館

平面循環体に於ける増殖性連鎖反応

1958

油彩、合板

原美術館（東京）

限定ブルーに於ける増殖性連鎖反応

1958

アクリル板、木、棕櫚縄、ビニールホース

いわき市立美術館

循環体に於ける融合反応

1958-59

彩色した紐、鉄、ビニールチューブ、木綿手袋、

エナメル塗料、棕櫚縄

東京都現代美術館

[作品]

1959

樹脂系絵具、アクリル板

奈良県立美術館

増殖性連鎖反応 -1

1959

油彩、カンバス

青森県立美術館

インボ哲学

1959

竹、棕櫚縄、縄、絵具、樹脂、木

個人蔵

循環体内で加速加圧された増殖性連鎖反応

1959

紐、絵具、合板、他

浅川コレクション（足利市立美術館寄託）

[作品]

1960

油彩、カンバス

個人蔵

増殖性連鎖反応 -2

1960

油彩、カンバス

青森県立美術館

限定ブルーに於ける増殖性連鎖反応

1960

ラッカー、合板

個人蔵

X型基本体に於ける増殖性連鎖反応

1960

紐、鉄、ビニールチューブ、タワシ

東京都現代美術館

集合増殖

1960

紐、縄、フィルムカートリッジ、電球、合成

樹脂、合板

青森県立美術館

インボ哲学

1960-61

木、プラスチックのボウル、ポリエステル、

電球、毛髪、縄、絵具、布、シリンドー（不

織布）、接着剤

青森県立美術館

黒メカから白メカへ、それから…

1961

紐、パトローネ、合成樹脂、合板、他

青森県立美術館

[作品]

1961

プラスチック、紐、合板、他

富山県立近代美術館、瀧口修造コレクション

インボ哲学—インボ分布図とその飽和部分に

於ける保護ドームの発生

1961-62

プラスチックのボウル、紙、綿、電球、紐、

プラスチック、ポリエステル、ダクトテープ、

雑誌の切り抜き

ウォーカー・アート・センター（ミネアポリス）

II 1962 - 1969

「あなたの肖像」から「放射能による養殖」まで

（パリへ渡ってからの時期）

あなたの肖像 1962

1962

木、ベグボード、絵具、金属、毛髪、樹脂

個人蔵

コンプレックスのルーレット

1962

木、金属、プラスチック、印刷物、ルーレット、

他

倉敷市立美術館

さいころの中の自給自足

1962

彩色された木箱、水切り、毛髪、プラスチック

容器、ティーストレーナー

青森県立美術館

あなたの偶像

1962

木、銅鉄、ガラス瓶、ビニール製、人形、注

射器、ワックス、毛髪、他

東京国立近代美術館

モルモット関係

1962

彩色された木箱、プラスチックのボウル、瓶、

ビニール製人形、注射器、バイアル瓶、温度

計、水、真空管、ビニールチューブ

青森県立美術館

インスタント・スパーム

1962

金色のスーツケース、紙、ゴム、プラスチック、

綿

国立国際美術館

ヒューマニズムの壇話

1962

ガラス瓶、ビニール製人形、水、顔料

個人蔵

サイバネティック・アート

1963

彩色された木箱、ガラス瓶、釘、雑誌の切り

抜き、ピンポン玉、毛髪

クリストフ・ガイヤール・ギャラリー（パリ）

あなたの肖像

1963

木、プラスチック、ポリエステル

高松市美術館

あなたは変態しつつある -D

1964

彩色された木箱、ポリエステル、樹脂、タバ

コ、ラジオ、バッテリー

青森県立美術館

無題

1964

彩色された木箱、造花、温度計、綿、プラスチック

、ポリエステル、樹脂、人工毛髪、顔料

青森県立美術館

愛

1964

椅子、綿、プラスチック、電子回路図、毛髪、

ビニールチューブ、彩色された木箱、音（モー

ルス信号）

倉敷市立美術館

あなたの肖像

1964

ビーチチェア、綿、プラスチック、ポリエステル

、電子回路図、樹脂、水簾、雑誌、接着剤

青森県立美術館

あなたの肖像

1963-65

ビーチチェア、プラスチック、ポリエステル

青森県立美術館

「脱皮」の記念品

1965

ビニール、リボン、他

青森県立美術館

「脱皮」の記念品

ホモ・サビエンス 1965 パリ

1965

木、ビニール、他

青森県立美術館

「脱皮」の記念品

ホモ・サビエンス 1965 パリ

1965

木、ビニール、他

青森県立美術館

あなたの肖像

1965

樹脂、ワックス、鏡、雑誌、合板、他

千葉市美術館

郷愁病用、あなたの居間に

1965

木、金属、プラスチック

青森県立美術館

あなたの肖像

1965

鳥籠、綿、プラスチック、ポリエステル、

合成樹脂

青森県立美術館

あなたの肖像

1966

彩色された木箱、鳥籠、綿、プラスチック、

ポリエステル、鎖、レシート、トラムのチケット

、コンドーム、留金、サングラス、衣類、

毛髪、ズック靴、紐、他

千葉市美術館

あなたの肖像 5月
1966
鳥籠、バラソル、デッキチェア、木、布、鉄、プラスチック、ポリエステル、他
S.M.A.K. ゲント現代美術館（ベルギー）

「脱皮」の記念品
1967
鳥籠、ブラックライト、他
米津画廊

あなたの肖像 '67
1967
乳母車、傘、綿、プラスチック、ポリエステル、樹脂、接着剤、鎖、チューブ、絵具
青森県立美術館

養殖・郷愁病用・あなたの居間に
1967-68
鳥籠、綿、プラスチック、ポリエステル、造花、真空管、鎖、人工土
青森県立美術館

「脱皮」の記念品
1967-68
鳥籠、綿、プラスチック、他
青森県立美術館

放射能による養殖
1967-68
彩色された木、プレキシグラス、グロメット、綿、プラスチック、ポリエステル、トランジスタ、人工芝
青森県立美術館

放射能による養殖（小さな温室、オレンジ、緑）
1968
プラスチック、ポリエステル、プレキシグラス、他
国立国際美術館

若い世代への讃歌一藁は開く
1968
乳母車、傘、靴、紙袋、綿、プラスチック、ポリエステル、ストロボライト
東京都現代美術館

電子回路の中における放射能による養殖
1968
プラスチック、ポリエステル、プレキシグラス、他
米津画廊

電子回路の中における放射能による養殖
1968
木、ランプ、プラスチック、ポリエステル、プレキシグラス
アムステルダム市立美術館

養殖
1968
造花、植木鉢、綿、プラスチック、合成樹脂、ポリエステル、人工土、人工毛髪、真空管
青森県立美術館

「脱皮」の記念品・郷愁病用・あなたの居間に
1968-69
鳥籠、合成樹脂、毛髪
青森県立美術館

Ⅲ 1969 — 1970 一時帰国、《脱皮の記念碑》の制作

脱皮の記念碑
1969
石膏、合板
青森県立美術館

巨大なサナギの化石予想図 A 現在発掘中・鋸山にて
1969
フェルトペン、蛍光顔料、紙
青森県立美術館

巨大なサナギの化石予想図 B 現在発掘中・鋸山にて
1969
フェルトペン、蛍光顔料、紙
青森県立美術館

巨大なサナギの化石予想図 C 現在発掘中・鋸山にて
1969
フェルトペン、蛍光顔料、紙
青森県立美術館

あなたの肖像
1969-70
鳥籠、造花、錠剤、他
個人蔵

ブラック・ボックス
1970
オブジェ、印刷、紙、写真
個人蔵

題名不詳
1970
紙粘土
青森県立美術館

広島化石／脱皮の記念品
1960-70
プラスチック、綿、キーホルダー
個人蔵

Ⅳ 1970 — 1975 「イヨネスコの肖像」から「環境汚染—養殖—新しいエコロジー」まで

「脱皮」の記念品と新しい世代
1970
鳥籠、造花、人工皮膚、鉄、プラスチック、他
個人蔵（ゲント現代美術館へ長期貸与）

シーラカンス
1970
鳥籠、丸薬、鉄、プラスチック
個人蔵

アイロンをかけられたベニス
1970年
綿、プラスチック、水彩
国立国際美術館寄託

自然による養殖とそれを見ている人々
1970
プラスチックのバケツ、人工土、綿、プラスチック、ポリエステル、樹脂、接着剤、絵具、毛髪、ねじ
個人蔵

自然による養殖とそれを見ている人々
1970
プラスチックのバケツ、鏡、毛髪、ねじ、かたつむりの殻、接着剤、絵具
個人蔵

自然による養殖とそれを見ている人々
1970-71
プラスチックのバケツ、人工土、プラスチック、鏡、トランジスタ
個人蔵

電子回路の中における放射能による養殖
1970
プラスチックのボウル、木、綿、プラスチック、ポリエステル、人工毛髪、電子回路図、人工土、おもちゃの鼠、トランジスタ、絵具
青森県立美術館

イヨネスコの肖像
1970-71
椅子、造花、バケツ、木、金属、プラスチック、他
京都国立近代美術館

自然による養殖とそれを見ている人々
1970
プラスチックのボウル、綿、プラスチック、ポリエステル、人工土、接着剤、かたつむりの殻、温度計、木、毛髪、絵具
青森県立美術館

自然による養殖とそれを見ている人々
1971
プラスチックのボウル、綿、プラスチック、ポリエステル、人工植物、人工土、真空管、毛髪、おもちゃのヘビ、絵具
個人蔵

イヨネスコの肖像—あなたの肖像（コンピュータ翻訳絵画）
1971
NECO プリント、布
青森県立美術館

コンピュータ・ペインティング
1971
NECO プリント、布
倉敷市立美術館

環境汚染—養殖—新しいエコロジー
1971
木、人工土、プラスチック
青森県立美術館

題名不詳
1967-72
鳥籠、プラスチック、他
個人蔵

オリンピックの表彰台（環境汚染のオリンピック—環境汚染のゲーム—予感の芸術）
1970-72
彩色された木とベゴボード、綿、プラスチック、ポリエステル、接着剤、鳥籠、造花、おもちゃの鳥、鎖、ルアー、針金、ビニールチューブ
ウォーカー・アート・センター（ミネアポリス）

あなたの肖像—人間の尊厳
1972
帽子、プラスチック
個人蔵

あなたの肖像
1972
帽子、プラスチック
個人蔵

あなたの肖像—人間の尊厳
1972
帽子、プラスチック
青森県立美術館

あなたの肖像
1972
帽子、プラスチック
青森県立美術館

あなたの肖像
1972
帽子、プラスチック
青森県立美術館

環境汚染
1971-73
プラスチック、造花、人工芝、他
個人蔵

快適な生活、5室、閑静、集中暖房、電子制御、ジム有、陽光、花と公書の小庭、諸税、消費税、諸費込
1972-73
鳥籠、木、プラスチック、ポリエステル、釘
個人蔵

環境汚染—養殖—新しいエコロジー—アンダーグラウンド
1972-73
木、金属、造花、人工土、おもちゃの鳥、樹脂、接着剤、電線、ねじ、綿、プラスチック、ポリエステル、ブラックライト、温度計、絵具、毛髪、プレキシグラス
ニューヨーク近代美術館

花 1973 植木鉢、造花、樹脂、綿、他 米津画廊	広島 of 化石 (4) 1976 紙、エンボス、手彩色 高松市美術館	芸術家の肖像。バリの仏陀 1976 鳥籠、人工土、綿、プラスチック、ポリエ テル、樹脂、造花、糸、接着剤 青森県立美術館	プログラムされた未来と記録された記憶の間 での瞑想 1978 鳥籠、合成樹脂、糸、他 倉敷市立美術館
あなたの肖像—種馬の自由 1973 箱、プラスチック、真空管、他 米津画廊	広島 of 化石 (5) 1976 紙、エンボス、手彩色 高松市美術館	芸術家と評論家との間の挑発的コミュニケー ション 1976 木箱、紙、写真、綿、魚の目、郵便スタンプ、 タイプライターのインク、鉛筆、紙 個人蔵	遺伝染色体の雨の中で啓示を待つ 1979 鳥籠、義眼、糸、木、プラスチック 国立国際美術館
あなたの肖像 1970-1974 1970-74 水槽、人工土、綿、プラスチック、ポリエス テル、樹脂、人工植物、ルアー、おもちゃの ヒトデ、トランジスタ、温度計、毛髪、接着 剤、絵具 青森県立美術館	V 1975 — 1979 「危機の中の芸術家の肖像」 から「遺伝染色体の雨の中で 啓示を待つ」まで 危機の中の芸術家の肖像 1976 鳥籠、プラスチック、ポリエステル、毛糸、 編み棒、他 福島県立美術館	バリの仏陀 1977 鳥籠、綿、プラスチック、ポリエステル、樹 脂、毛糸、絵具 倉敷市立美術館	遺伝染色体の雨の中で啓示を待つ 1979 鳥籠、糸、木、プラスチック 東京都現代美術館
あなたの肖像 1974 鳥籠、石膏、合成樹脂 横浜美術館	危機の中の芸術家の肖像 1976 鳥籠、綿、プラスチック、ポリエステル、毛 糸、編み棒、造花、おもちゃの鳥、おもちゃ のネズミ、温度計、植木鉢、真空管、トラン ジスタ、毛髪 国立国際美術館	バリの仏陀 1977 鳥籠、造花、糸、プラスチック、他 青森県立美術館	遺伝染色体の中の散歩 1979 鳥籠、プラスチック、糸、木 いわき市立美術館
脱皮の記念品 1974 蟬の抜け殻、テキスト、厚紙 個人蔵	危機の中の芸術家の肖像 1976 鳥籠、綿、プラスチック、ポリエステル、毛 糸、編み棒、造花、おもちゃの鳥、おもちゃ のネズミ、温度計、植木鉢、真空管、トラン ジスタ、毛髪 国立国際美術館	プログラムされた未来と記録された記憶の間 での瞑想 1977 鳥籠、糸、他 宮城県美術館	遺伝染色体による無限の綾取り 1979 鳥籠、糸、木、プラスチック、他 青森県立美術館
環境汚染—養殖—新しいエコロジー 1974 シルクスクリーン、紙 国立国際美術館	芸術家の肖像 1976 3つの籠、3つの義眼、蛍光ピンク、黒、青 個人蔵	無限の糸の中のマルセル・デュシャン。 プログラムされた未来と記録された記憶の間 での瞑想 1977 鳥籠、樹脂、糸、ワックス、他 愛知県美術館	未来と過去の間での遺伝染色体による綾取り 1979 鳥籠、顔、義手 和歌山県立近代美術館
わが愛—ヒロシマ 1970-75 茶碗（備前焼）、プラスチック、他 広島市現代美術館	芸術家の肖像 1976 3つの籠、3つの義眼、おもちゃの蠅、緑、 オレンジ、青、ピンク 個人蔵	私のアトリエの北窓からの訪問者 1972-77 個人蔵	遺伝染色体の雨の中で啓示を待つ 1979 鳥籠、義眼、糸、木、プラスチック 徳島県立近代美術館
人間という種の保存の奴隷（鳥籠—エスカル ゴ）—コンピュータ・ペインティング 1972-75 NECO プリント、布 国立国際美術館	芸術家の肖像 1976 4つの義眼、おもちゃの蠅、螺旋状のピンク ブルー 49.0 × 49.0 × 8.0 個人蔵	日本人は毎日こんな絵を食べている—どう思 いますか？ 1977 厚紙に貼られた海苔、テキスト 個人蔵	遺伝染色体による無限の綾取り 1979 義眼、糸、プラスチック、他 米津画廊
危機の中の芸術家の肖像 1975 鳥籠、綿、プラスチック、ポリエステル、毛 糸、編み棒、おもちゃの鳥、たばこ、硬貨 倉敷市立美術館	カゴの中のカゴの中のカゴ 1976 鳥籠、綿、プラスチック、ポリエステル、絵具 青森県立美術館	工藤の徴 1977 袋に入った工藤哲巳の毛髪、テキスト、厚紙 個人蔵	灯は消えず—遺伝染色体の迷路の中で 1979 鳥籠、糸、プラスチック 富山県立近代美術館
広島 of 化石 (1) 1976 紙、エンボス、手彩色 高松市美術館	無題 1976 造花、合板、他 青森県立美術館	危機の中の芸術家の肖像 1978 鳥籠、綿、プラスチック、ポリエステル、樹 脂、毛糸、編み棒、おもちゃの鳥、硬貨、錠 剤、毛髪、接着剤 青森県立美術館	石油と放射能による遺伝染色体の染めなおし 1979 鳥籠、木、プラスチック、金属 個人蔵
広島 of 化石 (2) 1976 紙、エンボス、手彩色 高松市美術館	プログラムされた未来と記録された記憶の間 での瞑想 1976 木、合成樹脂、糸、他 倉敷市立美術館	危機の中の芸術家の肖像 1978 鳥籠、毛糸、温度計、タバコ、編み棒、他 個人蔵	石油と放射能の間での瞑想 1979 鳥籠、糸、プラスチック、絵具 福岡市美術館
広島 of 化石 (3) 1976 紙、エンボス、手彩色 高松市美術館			未来と過去とのエンドレステープの間での 瞑想 1979 鳥籠、録音テープ、糸 青森県立美術館

水槽の中のあなたの肖像 1970-80 イオネスコのマスク、鈴蘭、木、プラスチック、 水槽、他 国立国際美術館	二つのブラックホールを渡るアナターホーホ ケキョ 1980 銅版、色紙 個人蔵	無題 1982 色鉛筆、短冊 一般財団法人草月会	縄文の構造 = 天皇制の構造 = 現代日本の構造 (天皇制の構造について一聖なるブラック ホール) 1983年 木、糸、接着剤 国立国際美術館
VI 1980 - 1990 「パラダイス」から「天皇制 の構造」、そして「前衛芸術 家の魂」まで	花とブラックホールとの間の距離 1980-81 糸、ホワイトパネル 個人蔵	水平線のかなたへ 1982 水彩、パステル、色紙 一般財団法人草月会 (千葉市美術館寄託品)	人生のドップラー効果透明ブルーの輪になる 可能性は一億分の一の確率 1983 木、糸、接着剤 青森県立美術館
マザー・コンプレックス・パラダイス 1980 鳥籠、糸、木、プラスチック、他 高松市美術館	二つの軸とコミュニケーション 1980 木、糸、毛糸、接着剤 国立国際美術館	メタンガスとは逆の方向へ一億分の一の可 能性の為に 1982 色鉛筆、色紙 個人蔵	人生のドップラー効果、君の立つ場所は… 1983 プラスチック、糸、接着剤 個人蔵
マザー・コンプレックス・パラダイス 1980 鳥籠、糸、木、プラスチック、他 個人蔵	人間とトランジスタとの共生 1980-81 鳥籠、マスク、義眼、人工大脳、タバコ、 プラスチック、鈴蘭、電子回路、他 国立国際美術館	色紙の中のブラックホール-1 1982 鉛筆、色紙(無地) 個人蔵	意志の方向に対し直角に現れるもの 1984 絵筆、津軽塗、糸、接着剤 個人蔵
パラダイス 1980 鳥籠、プラスチック、義眼、造花、他 大分市美術館	記憶 1980-81 木、プラスチック、糸 個人蔵	ブラックホールとワルツをどうぞ… 1982 木、糸、プラスチック 個人蔵	幻 1984 シルクスクリーン、色紙 個人蔵
パラダイス 1980 鳥籠、木、糸、プラスチック、他 個人蔵	東洋—西洋、ブラックホール構造—腸詰構造 1980-81 木、糸、プラスチック 高松市美術館	例えば東京—バリ、真空軸と磁気軸について 1982 木、糸、樹脂、接着剤 個人蔵	谷中の空の下縄文の精子がさまよう A (弘前の空の下縄文と津軽の魂がさまよう) 1984 糸、接着剤 個人蔵
パラダイス 1980 鳥籠、電子回路図、鈴蘭、義眼、糸、コイン、 葉、樹脂、他 米津画廊	遠くから来た組み合わせとその寿命 1981 木、糸、アクリル、写真 一般財団法人草月会	ブラックホールとその周辺 B (除夜の鐘の余 韻の構造と天皇制) 1982 木、糸、接着剤、金属 個人蔵	谷中の空の下縄文の精子がさまよう B (弘前の空の下縄文と津軽の魂がさまよう) 1984 糸、接着剤 個人蔵
パラダイス—汚染による非性的再生産 1980 鳥籠、プラスチック、綿、トランジスタ、他 宮城県美術館	2つの軸 1981 木、糸、プラスチック 個人蔵	例えば東京—バリ、真空軸と磁気軸について 1982-83 木、糸、樹脂、接着剤 一般財団法人草月会	縄文の雪 (1) 1984 水彩、パステル、紙 一般財団法人草月会
プログラムされた未来と記録された記憶の間 での綾取り 1980 鳥籠、木、樹脂、他 一般財団法人草月会 (千葉市美術館寄託品)	人生カセット A 1981 金属、糸、プラスチック 個人蔵	ブラックホールとその周辺 A (除夜の鐘の余 韻の構造と天皇制) 1983 木、糸、接着剤 個人蔵	縄文の雪 (2) 1985 クレヨン、紙 個人蔵
記憶の独立 1980 木、糸、プラスチック、接着剤、絵具 目黒区美術館	人生カセット B 1981 金属、糸、プラスチック 一般財団法人草月会 (千葉市美術館寄託品)	人生とブラックホール 1983 ボール紙の筒、糸、木、プラスチック、サイ コロ 個人蔵	殺せば生きる (1) 1985 靱、木、糸、接着剤 一般財団法人草月会
記憶の綾取り 1980 木、人工土、綿、プラスチック、ポリエステル、 糸、接着剤 個人蔵	黒の中の白・白の中の黒 1981 金属、厚紙、糸、プラスチック 個人蔵	縄文の構造 = 天皇制の構造 = 現代日本の構 造 (天皇制の構造について一聖なるブラック ホール) 1983 木、糸、接着剤 個人蔵	殺せば生きる (3) 1985 靱、木、糸、接着剤 個人蔵
記憶の独立 1980 木、人造土、綿、プラスチック、ポリエステル、 樹脂、糸、絵具 国立国際美術館	題名不詳 1982 色鉛筆、短冊 個人蔵	存在の在り方についての考察 1982 色鉛筆、短冊 個人蔵	津軽とサクレクルの間で彷徨う 1985 水彩、クレヨン、紙 個人蔵

縄文の精子の生き残り

1985

糸、コード、接着剤

青森県立美術館

遺伝染色体と人魂

1986

糸、接着剤

個人蔵

遺伝染色体と人魂

1986

リリアン糸、接着剤、他

個人蔵

遺伝染色体と人魂

1986

糸、接着剤

個人蔵

遺伝染色体と人魂

1986

糸、接着剤

個人蔵

遺伝染色体と人魂

1986

糸、接着剤

個人蔵

遺伝染色体と人魂

1986

糸、接着剤

個人蔵

前衛芸術家の魂

1986

傘、頭蓋骨、綿、プラスチック、

ポリエステル、樹脂、糸、接着剤

青森県立美術館

若き芸大生の魂のために

1986-87

金屏風、傘、糸、接着剤、他

個人蔵

注

作者はすべて工藤哲巳

掲載記事

朝日新聞

2014年4月25日（金）

先鋭芸術家の歩みたどる

津軽育ち・工藤哲巳展、県立美術館で

東奥日報

2014年2月4日（火）

工藤哲巳「反芸術」の軌跡

東京・近美 きょうから回顧展 国内外作品

200点一堂に

2014年3月5日（水）

半世紀経てなお刺激的 工藤哲巳回顧展など

戦後の前衛美術に光

2014年4月12日（土）

「反芸術」貫く生涯 工藤哲巳展きょう開幕

県立美術館

2014年5月2日（金）

工藤哲巳回顧展関連シンポ 縄文、天皇…多

角的に 晩年の創作 背景探る

2014年5月15日（木）

あなたの肖像 県立美術館・工藤哲巳回顧展(上)

テクノロジーへの警告

2014年5月16日（金）

あなたの肖像 県立美術館・工藤哲巳回顧展(中)

「遺伝染色体」で人間問う

2014年5月17日（土）

あなたの肖像 県立美術館・工藤哲巳回顧展(下)

立ち昇る津軽、縄文の魂

陸奥新報

2014年2月21日（金）

五所川原出身、「反芸術」代表格 工藤哲巳

再評価の機運

東京で大規模回顧展

2014年3月14日（金）

初期から晩年、多彩に

県美 4～6月に工藤哲巳展

2014年4月12日（土）

国内初公開など200点 「あなたの肖像－工

藤哲巳回顧展」県美できょう開幕

読売新聞

2013年12月19日（木）

工藤哲巳 人間中心主義疑う

包括的に見詰め直す回顧展

河北新報

2014年5月22日（木）

あなたの肖像－工藤哲巳回顧展 文明批判と

土俗共存

毎日新聞

2014年4月12日（土）

県立美術館で工藤哲巳回顧展

美少女の美術史

少女について考えるための16の事柄

開催概要

会期：2014年7月12日（土）－9月7日（日）

開催日数：54日間

主催：美少女展青森実行委員会（青森県立美術館、青森朝日放送、株式会社リンクステーション、青森県観光連盟）

協賛：ヤマトロジスティクス株式会社、青森オフセット印刷株式会社

協力：株式会社アートボックス、青い森鉄道

助成：一般財団法人地域創造

後援：デーリー東北新聞社、東奥日報社、毎日新聞青森支局、陸奥新報社、青森県教育委員会

企画：トリメガ研究所

観覧料：一般1,500（1,200）円、高大生1,000（800）円、小中生「夏休みこども美術館デイ」により無料

※（ ）内は前売および20名以上の団体料金

入場者数

33,866人

関連企画

（1）ob 公開制作

現代美術家のob氏によるライブペインティングを実施した。

日時：7月1日（火）－7月31日（木）

会場：青森県立美術館1F エントランスギャラリー

（2）コスプレパフォーマンスステージ「6HP」

本展に展示された村上隆氏の「6HP」（シックス・ハート・プリンセス）に関連したコスプレイヤーによる演劇、ダンスからなるパフォーマンスステージを開催。村上氏、mebae氏、乾たつみ氏、中川大地氏、美矢知子氏によるトークショーも行った。

日時：7月12日（土）

15:00－16:00 トークショー

16:00－17:00 パフォーマンスステージ

会場：青森県立美術館シアター

ステージディレクター：乾たつみ（Cure）

監修：中川大地

キャラクターデザイン：mebae

原案&プロデュース：村上隆

制作：カイカイキキ

協力：Cure pixiv

参加者数：220人

（3）県美土曜ゼミ「美少女って何？」

本展の企画担当学芸員3名（青森県立美術館、静岡県立美術館、島根県立石見美術館）による、展覧会をめぐるトークショーを開催した。

日時：7月13日（日）13:30－15:00

会場：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：39人

（4）展覧会を親子で楽しむギャラリーツアー

小学生以上の親子を対象にギャラリーツアーを実施した。

日時：8月2日（土）、3日（日）、9日（土）、10日（日）、16日（土）、17日（日）、23日（土）、24日（日）

各日とも14:00－14:30

場所：青森県立美術館展示室

参加者数：63人

（5）なりきりワークショップ「美少女になりきる」

本展の担当学芸員によるレクチャーの後、思い思いの衣装に身を包んで「美少女」に変身し、「美少女」になりきって作品鑑賞と写真撮影を行った。

日時：8月10日（日）13:30－16:30

会場：青森県立美術館ワークショップA・B、展示室

参加者数：11人

（6）青森県立美術館お出かけ企画 in はっち 三上枝織さんと楽しむ美少女の美術史展

本展の見どころをスライドで紹介するとともに、青森県出身の声優三上枝織氏を迎えて、本展オリジナルアニメーション「女生徒」を津軽弁バージョンで会場で直接映像に声をあてながら上映した。上映後には三上氏のトークショーも実施した。

日時：8月24日（日）10:30－12:00

会場：八戸ポータルミュージアムはっちシアター2

参加者数：120人

展覧会カタログ

仕様：B5判、256頁

企画・構成：

「美少女の美術史」展実行委員会（青森県立美術館 工藤健志、島根県立石見美術館 川西由里、静岡県立美術館 村上敬）

編集：大橋博之

デザイン：塚原敬史（トリムデザイン）

発行：株式会社青幻舎



ポスター



展示風景

「美少女」は、世界から注目を集める日本の漫画・アニメにおける突出したモチーフである。これは現代に固有の現象ではなく、「少女」という存在は、古くから日本の芸術において重要な役割をはたしてきている。

本展は、現代の視覚文化と美術・文学・科学の歴史との関わりを探った「ロボットと美術～機械×身体×ビジュアルイメージ」展（2010年）の続編として開催。前回の「ロボット」に続いて、今回は「美少女」をテーマとし、美術のみならず、文学、漫画、アニメ、フィギュアなど様々な領域を横断しながら、「少女」という概念に投影された現代日本人の意識を探り、過去から現在に至る日本の文化を振り返ってみた。

「少女」という言葉じたいは江戸時代から用いられていたが、その概念は、明治32年に高等女学校令が公布され、結婚・出産や労働からの猶予を与えられた「女学生」という身分が生じ、同時期に次々と創刊された少女雑誌によって定着していった。彼女たちは社会的役割を与えられていない「空白」の存在であるがゆえに、当初は「清らかさ」や「無垢」といった意味づけ

がなされ、そこから「少女文化」が形成されていくことになったが、少女たちは文化を消費する対象となった一方、（主に男性的な視点によって）様々な欲望が投影される（すなわち消費される）存在ともなっていく。そして、「少女」が内包する意味は複雑に、多様に展開して現在に至っている。このように「少女」とは近代的な概念であり、それは近現代の日本の社会性や文化を検証するための絶好のモチーフともなる。

本展では「少女」という概念が確立する以前の江戸時代の浮世絵から、明治以降の日本画、洋画、そして現代美術、さらに明治期から戦後までの雑誌資料、「現代」を象徴する漫画、アニメ、フィギュアまで含めた、あらゆるジャンルの少女イメージを集め、「少女」というモチーフが持つ様々な要素を近現代の社会性と重ねあわせながら考察した。さらには表現のジャンルをないまぜにすることで、従来の美術史の記述や価値判断についても再考を促せればという狙いもあった。展示の中に様々なフックを作ることで、様々な「問題提起」と「考えるきっかけを与える」ことに重きをおいた企画と言える。

出品作品

Ob
こんどうまれてくときは
2014
パネル、キャンバス・アクリル

タカノ綾
精霊船ののって
2014
塩化ビニル樹脂、ナイロン、ポリウレタン
600.0 × 600.0 × 200.0

アイドル&ヒロイン

岡村政子
仙女伏姫幽窟において読経の図
1889
石版、手彩色、紙
36.8 × 26.3
郡山市立美術館

鏡木清方
美人図（足利銘仙ポスター原画）
1931
絹本着色 額装
104.5 × 50.0
足利市美術館
※ 1

北野恒富
現代美人之図（足利銘仙ポスター原画）
1928
絹本着色 額装
96.2 × 58.7
足利市美術館
※ 2

町田隆要
ポスター「いとう呉服店／東京上野／松坂屋」
1922
ポスター
106.3 × 74.7
京都工芸繊維大学芸術資料館
※ 1

多田北鳥
ポスター「特製 月桂冠 瓶詰 株式会社明治屋」
1929
ポスター
93.5 × 62.0
京都工芸繊維大学芸術資料館
※ 1

作者不詳
ポスター「特製月桂冠瓶詰、絶対防腐剤を含まず。株式会社明治屋」
1930
ポスター
93.8 × 63.3
京都工芸繊維大学芸術資料館
※ 1

作者不詳
ポスター「清涼飲料リボンシトロン」
1930 年頃
ポスター
101.7 × 66.3
京都工芸繊維大学芸術資料館
※ 1

高木保翠
ポスター「アサヒビール」
1930-31 年頃
ポスター
92.4 × 61.5
京都工芸繊維大学芸術資料館
※ 1

多田北鳥
ポスター「キリンビール、キリンレモン」
1932
ポスター
92.8 × 61.7
京都工芸繊維大学芸術資料館
※ 1

作者不詳（H.M.）
ポスター「高級ビール カスケード。日英醸造株式会社」
1930
ポスター
104.1 × 61.5
京都工芸繊維大学芸術資料館
※ 2

作者不詳
ポスター「銘酒東洋一、柴谷合名会社醸」
20 世紀初期
ポスター
93.1 × 63.5
京都工芸繊維大学芸術資料館
※ 2

作者不詳
ポスター「キリンビール」
1930 年頃
ポスター
94.1 × 63.3
京都工芸繊維大学芸術資料館
※ 2

鏡木清方
ポスター「足利本銘仙」
1931
ポスター
110.3 × 51.6
京都工芸繊維大学芸術資料館
※ 2

長谷川昇
ポスター「足利本銘仙」
1934
ポスター
93.1 × 61.7
京都工芸繊維大学芸術資料館
※ 2

榎本千花俊
滑れ銀嶺 歓喜を乗せて／鉄道省
1938
ポスター
105.3 × 72.4
京都工芸繊維大学芸術資料館
※ 2

田舎館村応援プロジェクト：いち姫

少女の一生

鏡木清方
少女出世双六
1908
巖谷小波案『少女世界』第 3 巻第 1 号付録
78.4 × 52.8
兵庫県立歴史博物館所蔵（入江コレクション）

榊原蕉園
少女遊戯すごろく
1910
巖谷小波案『少女世界』第 6 巻第 1 号付録
77.8 × 54.5
兵庫県立歴史博物館所蔵（入江コレクション）

本田庄田郎、吉岡千種
少女通学すごろく
1919
『少女世界』第 15 巻第 1 号付録
53.6 × 78.8
兵庫県立歴史博物館所蔵（入江コレクション）

須藤しげる
少女幸福双六
1930
『少女俱樂部』第 8 巻第 1 号付録
54.8 × 79.6
兵庫県立歴史博物館所蔵（入江コレクション）

うつくしきもの、それは少女

橋本明治
扇面古写経模写
1927
紙本着色、額
27.8 × 47.7
島根県立美術館

岡村政子
手鞠
1895
石版多色刷、紙
時事新報 1 月 1 日号付録
38.0 × 29.9
実践女子学園香雪記念資料館

深斎英泉
當世好物八契 芝居
1823
大判錦絵
千葉市美術館
※ 1

深斎英泉
美人會中鏡 時世六佳撰（娘）
1826 年頃
大判錦絵
37.4 × 25.3
千葉市美術館
※ 2

喜多川歌麿
花見遊行（五枚続のうち三枚続）
1790-1804
木版、紙
各 39.3 × 25.4
島根県立美術館
※ 1

鳥文斎栄之
孔雀船奏楽之図（三枚続）
寛政期
紙・木版
各 36.8 × 24.1
島根県立美術館
※ 2

長谷川利行
少女
1935
キャンバス・油彩
53.2 × 41.2
群馬県立近代美術館

松本かつぢ
長篇漫画物語り「?（なぞ）のクローバー」
1934
『少女の友』第 27 巻第 4 号特別大付録
30.2 × 22.0
兵庫県立歴史博物館所蔵（入江コレクション）

松本かつぢ
お山の一夏 板チョコ三人組
1936
『少女の友』第 29 巻第 8 号付録
17.4 × 12.2
兵庫県立歴史博物館所蔵（入江コレクション）

松本かつぢ
『少女の友』カット（5 点）
昭和初期
紙・インク、墨
弥生美術館

松本かつぢ
少女ユーモア小説 次女日記
1949
由利聖子著、東和社発行 書籍
13.4 × 12.9
兵庫県立歴史博物館所蔵（入江コレクション）

前川千帆 版書第2輯 唐もろこし 1933 紙・木版 12.4 × 12.2 青森県立美術館	松山賢 地図 (ポロシャツ) 2009 キャンバス・油彩 91.0 × 60.6 作家蔵	マックスファクトリー・浅井真紀 figma074 宮藤芳佳 (ストライクウィッチーズ) 2010 PCV、彩色 h:12.5 マックスファクトリー	黒田真徳 (マックスファクトリー) 1/7 本間芽衣子 (あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない) 2012 PCV、彩色 h:23.5 マックスファクトリー
前川千帆 雪の噴火湾 1931 紙・多色木版 28.5 × 40.1 青森県立美術館	智恵理 1/6 式波・アスカ・ラングレー 2011 PVC、彩色 h:27.0 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma091 綾波レイ プラグスーツ ver. (エヴァンゲリオン新劇場版:破) 2011 PCV、彩色 h:14.0 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma001 長門有希 制服 ver. (涼宮ハルヒの憂鬱) 2008 PCV、彩色 h:15.0 マックスファクトリー
楽しんじゃおう!			
池田蕉園 春流 20 世紀初期 絹本着色、軸 110.3 × 41.3 実践女子学園香雪記念資料館	智恵理 1/6 真希波・マリ・イラストリアス 2011 PVC、彩色 h:27.0 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma099 「高坂桐乃」(俺の妹がこんなに可愛いわけがない) 2011 PCV、彩色 h:13.5 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma012 柊つかさ 制服 ver. (TVアニメらき☆すた) 2008 PCV、彩色 h:13.5 マックスファクトリー
榎本千花俊 揚々戲 1932 絹本着色、額 221.2 × 173.6 鳥根県立石見美術館	智恵理 1/7 シェリル・ノーム (劇場版マクロスF ~イツワリノウタヒメ~) 2014 PCV、彩色 h:31.5 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma110 鹿目まどか (魔法少女まどか☆マギカ) 2011 PCV、彩色 h:12.5 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma059 琴吹紬 制服 ver. (けいおん!) 2010 PCV、彩色 h:13.5 マックスファクトリー
橋本花乃 七夕 1930-31 紙本着色、二曲一双 各 176.0 × 176.4 大阪市立近代美術館準備室 ※ 1	智恵理 1/10 ベルダンディー with ホーリーベル (ああっ女神さまっ) 2013 PCV、彩色 h:35.5 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma118 バマミ (魔法少女まどか☆マギカ) 2012 PCV、彩色 h:12.5 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma079 真希波・マリ・イラストリアス 新型プラグスーツ ver. (エヴァンゲリオン新劇場版:破) 2010 PCV、彩色 h:14.0 マックスファクトリー
柳橋扇面流遊女図屏風 江戸時代前期 紙本金地着色、六曲一隻 108.6 × 343.0 鳥根県立石見美術館 ※ 2	マックスファクトリー・浅井真紀 figma002 涼宮ハルヒ 制服 ver. (涼宮ハルヒの憂鬱) 2008 PCV、彩色 h:13.5 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma123 イカ娘 (侵略!イカ娘) 2012 PCV、彩色 h:12.0 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma084 式波・アスカ・ラングレー テストプラグスーツ ver. (エヴァンゲリオン新劇場版:破) 2011 PCV、彩色 h:14.5 マックスファクトリー
遊楽美人図 江戸時代初期 紙本着色、双幅 各 93.0 × 48.0 鳥根県立石見美術館 ※ 2	マックスファクトリー・浅井真紀 figma008 泉こなた 冬服 ver. (TVアニメらき☆すた) 2008 PCV、彩色 h:13.0 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma169 すーぱーそに子 虎パーカー ver. (すーぱーそに子) 2013 PCV、彩色 h:13.5 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma105 八九寺真宵 (化物語) 2011 PCV、彩色 h:12.0 マックスファクトリー
Mr. Goin To A Go-go!! 2014 キャンバス・アクリル 648.0 × 259.0	マックスファクトリー・浅井真紀 figma057 平沢唯 制服 ver. (けいおん!) 2010 PCV、彩色 h:13.5 マックスファクトリー	シャイニングウィザード@沢近 (マックスファクトリー) 1/7 サムライ (刀子) (セブンスドラゴン2020) 2012 PCV、彩色 h:26.5 マックスファクトリー	マックスファクトリー・浅井真紀 figma124 美樹さやか (魔法少女まどか☆マギカ) 2012 PCV、彩色 h:12.5 マックスファクトリー
松山賢 地図 (ビーチボール) 2009 キャンバス・油彩、アクリル 91.0 × 72.7 作家蔵	マックスファクトリー・浅井真紀 figma063 ラム (うる星やつら) 2010 PCV、彩色 h:14.0 マックスファクトリー		

マックスファクトリー・浅井真紀 figma165 アルティメットまどか (魔法少女まどか☆マギカ) 2013 PCV、彩色 h:12.5 マックスファクトリー	玉城末吉 箒椅子によれる少女 1934 紙本着色・額 141.0 × 62.0 京都市美術館 ※ 1	石黒賢一郎 真○○・マ○・イ○○○○○○○ 2010-11 板・油彩 91.0 × 45.0 ホキ美術館	桜文鳥 あかねちゃんとアヒルちゃん 2002 レジン、彩色 h:22.5 作家蔵
マックスファクトリー・浅井真紀 figma166 バマミ 制服 ver. (魔法少女まどか☆マギカ) 2013 PCV、彩色 h:12.5 マックスファクトリー	由里本景子 娘 1934 絹本着色・額 168.0 × 112.8 京都国立近代美術館 ※ 1	青島千穂 鶏っ子・希望ちゃん 2008 FRP、ラッカー 55.0 × 20.0 × 48.0	桜文鳥 メイ ver.1.1 2011 レジン、彩色 h:11.0 作家蔵
マックスファクトリー・浅井真紀 figma171 美樹さやか 制服 ver. (劇場版 魔法少女まどか☆マギカ) 2013 PCV、彩色 h:12.5 マックスファクトリー	由里本景子 単衣のおとめ 1933 絹本着色・額 176.0 × 115.0 京都市美術館 ※ 2	青島千穂 鶏っ子・説得ちゃん 2008 FRP、ラッカー 48.5 × 47.5 × 30.0	桜文鳥 ヴァルフォックス 2011 レジン、彩色 h:25.5 作家蔵
マックスファクトリー・浅井真紀 figma212 秋山優花里 (ガールズ & パンツァー) 2014 PCV、彩色 h:12.5 マックスファクトリー	椿貞雄 晴子像 1939 キャンバス・油彩 40.8 × 31.8 府中市美術館	青島千穂 蓮の子 2010 FRP、ラッカー 29.5 × 50.0 × 47.0	桜文鳥 リアルスケールヘッド A1 (RSH-A1) 2013-14 レジン、彩色 h:43.0 作家蔵
マックスファクトリー・浅井真紀 figma214 島風(艦隊これくしょん -艦これ-) 2014 PCV、彩色 h:13.0 マックスファクトリー	椿貞雄 朝子像 キャンバス・油彩 60.5 × 45.4 府中市美術館	青島千穂 蓮の子 2010 FRP、ラッカー 29.5 × 50.0 × 47.0	吾妻ひでお 『なご SOS』 ACT.5『なご初恋』原画 (『ポップコーン』1980年12月号) 1980 紙・インク 各 36.1 × 25.6
マックスファクトリー・浅井真紀 figma221 武部沙織 (ガールズ&パンツァー) 2014 PCV、彩色 h:12.0 マックスファクトリー	吉井忠 少女 (都市) 1941 キャンバス・油彩 54.5 × 45.7 府中市美術館	永島信也 KING × QUEEN 2011 黄楊、サティーン、岩絵具 5.0 × 3.7 × 3.0 個人蔵	谷口真人 Untitled 2014 木製フレーム鏡、アクリルボードにアクリル 絵具、グリースペンシル 204 × 124 × 45.0 個人蔵
マックスファクトリー・浅井真紀 figmaSP-020 ミサカ(とある魔術の禁書目録) 2011 PCV、彩色 h:13.5 マックスファクトリー	金子園義 EROTICISM 1965-66 板・油彩 40.7 × 31.8 個人蔵	永島信也 日を招く宴の踊り子 2014 鹿角、べっ甲、岩絵具 6.4 × 3.9 × 2.3 個人蔵	BOME うさぎ1号 1993 レジン・彩色 h:20.0 海洋堂
観用少女と、見つめ返す少女 菊池契月 友禪の少女 1933 絹本着色・額 152.0 × 88.0 京都市美術館 ※ 2	四谷シモン Portrait d'une petite fille 1982 ミクストメディア h:111.0 個人蔵	永島信也 女神校生 2014 黄楊、べっ甲、岩絵具 5.7 × 4.0 × 3.1 個人蔵	BOME 1/5 ミンキーモモ 1992 レジン・彩色 h:23.0 海洋堂
	山本タカト アリスの選択 2014 紙・アクリル 30.0 × 30.0 個人蔵	大嶋優木 『週間わたしのおにいちゃん』付属フィギュア 2004 個人蔵	BOME MON-SIEUR BOME COLLECTION 鬼娘 PVC/ABS、彩色 h:24.0 海洋堂

BOME MON-SIEUR BOME COLLECTION AF かすみ KASUMI White Ver. (DEAD OR ALIVE) 2006 PVC/ABS、彩色 h :21.0 海洋堂	永島信也 Flowerly 2010 黄楊、ウォルナット、岩絵具 6.5 × 3.0 × 1.8 個人蔵	熊澤未来子 侵食 2009 パネル・ジェッソ、鉛筆 227.3 × 324.0 高橋コレクション	白瀧幾之助 編み物をする少女 1895 キャンバス・油彩 89.5 × 54.2 郡山市立美術館
BOME MON-SIEUR BOME COLLECTION タカヤノリコ (OVA トップをねらえ!) 2006 PVC/ABS、彩色 h :23.0 海洋堂	永島信也 鳳凰の抱擁 2012 黄楊、ガラス、岩絵具 6.3 × 5.6 × 4.5 個人蔵	味戸ケイコ 透きとおる愛 A 1989 紙・鉛筆、水彩 40.0 × 55.0 作家蔵	矢崎千代二 教鷗 1900 キャンバス・油彩 73.7 × 58.8 東京藝術大学大学美術館
BOME MON-SIEUR BOME COLLECTION ノノバスターマシン7号(OVA トップをねらえ!2) 2007 PVC/ABS、彩色 h :22.0 海洋堂	永島信也 源に生まれしもの 2013 鹿角、ペッ甲 5.4 × 3.3 × 2.5 個人蔵	味戸ケイコ 透きとおる愛 B 1989 紙・鉛筆、水彩 40.0 × 55.0 作家蔵	霜鳥之彦 少女 (休憩) 1926 キャンバス・油彩 72.7 × 100.0 京都市美術館
BOME MON-SIEUR BOME COLLECTION まじかるカナン・カーマイン(まじかるカナン) 2006 PVC/ABS、彩色 h :22.0 海洋堂	永島信也 闇に溶けゆく 2011 黄楊、ウォルナット、タイガーアイ、岩絵具 5.5 × 2.5 × 2.8 個人蔵	松山賢 いきものカード (クワガタ) 2007 キャンバス・油彩 145.5 × 145.5 個人蔵	和田英作 少女新聞を読む 1897 キャンバス・油彩 54.8 × 84.5 東京藝術大学大学美術館
BOME MON-SIEUR BOME COLLECTION ミスティー・メイ (おたくのビデオ) 2007 PVC/ABS、彩色 h :8.5 海洋堂	丸尾末広 少女椿 2009 紙・アクリル、ペン 34.5 × 24.0 作家蔵	菊池契月 少女 1932 絹本着色・額 118.5 × 145.5 京都市美術館 ※ 1	小館善四郎 おペンきょう 1945-46 キャンバス・油彩 53.0 × 65.0 青森県立美術館
永島信也 歌姫 2014 黄楊 個人蔵	真昼の夢 有島生馬 三姉妹 1940 油彩・キャンバス 53.5 × 72.6 府中市美術館	高橋成薇 秋立つ (旧題・立つ女) 1928 絹本着色・額 197.0 × 82.0 大阪市立近代美術館準備室 ※ 2	中村宏 遠足 1967 キャンバス・油彩 80.5 × 116.5 板橋区立美術館
永島信也 深海の夢路 2013 鹿角、琥珀、ペッ甲、へご 6.5 × 2.8 × 2.1 京都清宗根付館	松村綾子 少女・金魚鉢 1937 油彩・キャンバス 96.8 × 130.5 星野画廊	お部屋で／お庭で 柳江 夏苑の少女 大正時代頃 絹本着色・軸 123.3 × 56.3 星野画廊	ガールの誕生 —少女文化・戦前編 松斎吟光 大日本束髪図解 1885 大判錦絵3枚続 36.0 × 72.5 青木コレクション (千葉市美術館寄託) ※ 1
永島信也 深更の竜少女 2012 黒檀、金パール粉 5.2 × 4.0 × 3.2 個人蔵	森口裕二 檸檬 2013 キャンバス・アクリルガッシュ 60.0 × 32.5 個人蔵	牧野虎雄 庭の少女 (中庭) 1921 キャンバス・油彩 94.8 × 111 東京都現代美術館	五代歌川国政 婦人束髪鬘附 1885 大判錦絵 36.0 × 25.5 青木コレクション (千葉市美術館寄託) ※ 2
永島信也 扶間の竜人 2011 黄楊、岩絵具 h :16.0 個人蔵	工藤麻紀子 おどろぼうのよる 2012 油彩・キャンバス 130.5 × 162.0 作家蔵		

山本昇雲 今すがた おどろき 1906 大判錦絵 37.3 × 25.4 千葉市美術館 ※ 1	落谷虹児 縫いとり 1926 『少女倶楽部』大正 15 年 5 月号 18.9 × 12.8 弥生美術館	松本かつぢ 小さいお姉さま 昭和初期 出典不明、口絵 19.5 × 24.2 弥生美術館	中原淳一 乙女の港 1947 川端康成著、ヒマワリ社発行 書籍 25.3 × 18.4 兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
山本昇雲 今すがた ゆり園 1906 大判錦絵 37.7 × 25.5 千葉市美術館 ※ 1	落谷虹児 「風の音信」 1926 インク、墨、紙 18.9 × 12.8 弥生美術館	松本かつぢ アベ・マリア 1932 『少女画報』昭和 5 年 7 月号口絵 17.4 × 11.7 弥生美術館	中原淳一 七つの蕾 1949 松田璋子著、ヒマワリ社発行 書籍 12.4 × 13.0 兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
山本昇雲 今すがた 花やしき 1909 大判錦絵 37.2 × 25.5 千葉市美術館 ※ 2	落谷虹児 そして今年も逝く 1937 『令女界』16 卷 12 号 [1937 年 12 月 1 日発行] 18.1 × 12.2 個人蔵	落谷虹児 「月の中の顔」挿絵 紙、インク、墨 弥生美術館	中原淳一 「ひまわり」 雑誌 (5 冊) 島根県立石見美術館
山本昇雲 今すがた すずしの顔 1907 大判錦絵 36.8 × 25.5 千葉市美術館 ※ 2	落谷虹児 お店の嬢さん 1938 『令女界』17 卷 12 号 [1938 年 12 月 1 日発行] 18.2 × 12.1 個人蔵	松本かつぢ 少女ユーモア小説 次女日記 1949 由利聖子著、東和社発行 書籍 13.4 × 12.9 兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)	中原淳一 宝塚をとめ 1940 宝塚少女歌劇生徒写真集 宝塚少女歌劇団発行 33.7 × 25.1 兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
北沢映月 娘 1935 紙本着色、二曲屏風 148.0 × 184.0 京都市美術館 ※ 1	落谷虹児 星からの音信 1938 『令女界』17 卷 11 号 [1938 年 11 月 1 日発行] 19.0 × 26.7 個人蔵	松本かつぢ ひとり唄う 昭和初期 弥生美術館	加藤まさを 新版まさを叙情便箋 49 青葉の頃 日出づる國社発行 兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
島成園 若き婦人 1929 絹本着色、軸 150.0 × 41.5 大阪市立美術館 ※ 2	落谷虹児 慰問品売り場にて 1938 『少女倶楽部』16 卷 15 号 [1938 年 12 月 1 日発行] 16.7 × 12.8 個人蔵	久保田清春 令女便箋 第 10 集 雨あがり 日出づる國社発行 兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)	加藤まさを 花物語便箋第二集 23 紅薔薇白薔薇 日出づる國社発行 兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
榎本千花俊 口紅を描く 1935 絹本着色、軸 139.6 × 56.8 島根県立石見美術館 ※ 2	高島華宵 楽しいハイキング 昭和初期 便箋表紙絵 13.0 × 19.0 弥生美術館	高島華宵 加藤まさを 深谷美保子 少女の友特製封筒 昭和初期 『少女の友』付録 兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)	高島華宵 加藤まさを 額 214.0 × 151.0 京都市美術館 ※ 1
竹久夢二 『婦人グラフ』表紙 昭和初期 雑誌 (4 点) 島根県立石見美術館	高島華宵 清きたより 昭和初期 紙・水彩、墨 30.5 × 24.1 弥生美術館	中原淳一 サフランの歌 1949 松田璋子著、ヒマワリ社発行 書籍 12.2 × 13.0 兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)	菊池華秋 雪晴 1938 絹本着色、額 189.8 × 202.2 島根県立石見美術館 ※ 2
	高島華宵 緑衣の少女 昭和初期 便箋表紙絵 13.0 × 19.0 弥生美術館	中原淳一 思い出の虹 1949 C.&M.Lamb 著、橋爪常子訳 『ひまわり』6 月 18.0 × 12.6 兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)	村上隆 シックス♡プリンセス：仲良し 2012 フレームにマウントしたキャンバス・アクリル 2750 × 2148
		中原淳一 暁の聖歌 1937 吉屋信子著 『少女の友』第 30 卷第 4 号付録 19.0 × 13.2 兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)	村上隆 シックス♡プリンセス：戦闘態勢 2012 フレームにマウントしたキャンバス・アクリル 2140 × 2700

村上隆 6♡Princess by Takashi Murakami for Shu Uemura 2013 映像	アニメ「リボンの騎士」オープニング 1967 映像 1分43秒 わたなべひろし、けいこ 魔法のプリンセス ミンキーモモ（『マイア ニメ』1985年7月号表紙） 1982 プロダクションリード（旧社名：葦プロダク ション）	赤塚不二夫 『ひみつのアッコちゃん』（『りぼん』1962年 6月号原画） 1962 紙・ペン 25.0×17.0 フジオプロ	内藤ルネ 少女Ⅲ 2003 紙・パステル 26.0×23.0 株式会社ルネ
村上隆 コスプレパフォーマンスステージ「6HP・起」 あらすじアニメ 2014 映像	わたなべひろし、けいこ 魔法のプリンセス ミンキーモモ（『マイア ニメ』1985年7月号表紙） 1982 プロダクションリード（旧社名：葦プロダク ション）	赤塚不二夫 『ひみつのアッコちゃん』単行本 きんらん社・1巻（出版年不明） 曙出版・4巻（出版年不明） 虫プロ商事・2巻（1969年刊） 曙出版・5巻（1974年刊） 大都社・2巻（1980年刊） フジオプロ	内藤ルネ インディアンの子 人形 2001 31.0×11.0×5.0 株式会社ルネ
村上隆 〈6HP〉抱き枕 個人蔵 高橋しん 『最終兵器彼女』2巻表紙イラスト 2000 高橋しん事務所 高橋しん flower（『最終兵器彼女』7巻表紙イラスト） 2001 高橋しん事務所 高橋しん TVアニメ「最終兵器彼女」DVD Vol. 1 スペシャル版全5巻収納ボックス用イラスト 2002 市立士別図書館	わたなべひろし、けいこ 魔法のプリンセス ミンキーモモ（マジカル ボックスPART2表紙） 1992 プロダクションリード（旧社名：葦プロダク ション） 魔法のプリンセス ミンキーモモ オープニング 1982 映像 プロダクションリード（旧社名：葦プロダク ション）	「ひみつのアッコちゃん」オープニング 映像 東映アニメーション ひみつのアッコちゃん テクマクマヤコンコンバウト 1969 直径9.0 フジオプロ	内藤ルネ 紙くず入れ 1961 『少女』第17巻第5号付録、光文社 40.0×25.5 株式会社ルネ 内藤ルネ 紙製お買物ぶくろ 1967 『女学生の友』第13巻第4号付録、小学館 31.0×14.0×7.0 株式会社ルネ
高橋しん アニメ版「最終兵器彼女」DVD スペシャル バリューBOX（東北新社）用イラスト 2006 市立士別図書館 高橋しん 実写版「最終兵器彼女」アルティメットエディ ション（初回限定生産）BOX（小学館東映 ビデオ）用イラスト 2006 市立士別図書館 高橋しん 「最終兵器彼女」扉用イラスト（ビッグ・コミッ ク・スピリッツ2000年15号） 2000 市立士別図書館	高田明美 Make up（魔法の天使クリィミーマミ） 1984 カラーインク、パステル、色鉛筆 47.2×37.0 株式会社びえろ（旧社名：株式会社スタジオ びえろ） 高田明美 フェザースターへの扉（魔法の天使クリィ ミーマミ） 1985 カラーインク、パステル、修正ホワイト 42.0×54.5 株式会社びえろ（旧社名：株式会社スタジオ びえろ） 魔法の天使 クリィミーマミ オープニング、エンディング 1983 映像 株式会社びえろ（旧社名：株式会社スタジオ びえろ）	高橋真琴 『デラックスマーガレット』1973年夏の号 表紙原画 1973 紙・水彩 25.8×18.2 真琴画廊 高橋真琴 フランス恭和暦の少女 霧月 1995 紙・水彩 26.0×23.0 真琴画廊 高橋真琴 クリスタル・ファンタジー 2002 紙・水彩 26.0×25.0 真琴画廊 内藤ルネ 少女とライオン 1973 キャンバス・油彩 41.0×32.0 株式会社ルネ	内藤ルネ ジュニアのふくろ 1958 『少女』第14巻第6号付録、光文社 36.0×19.0×6.0 株式会社ルネ 内藤ルネ 壁掛けレターセット 1961 『女学生の友』第12巻第5号付録、小学館 24.0×18.0 株式会社ルネ 内藤ルネ 『ジュニアそれいゆ』第32号表紙絵をモチー フとした内藤ルネによる後年の模写 1960 紙・水彩 33.5×48.0 株式会社ルネ 内藤ルネ 『ジュニアそれいゆ』第34号表紙絵をモチー フとした内藤ルネによる後年の模写 2003 紙・ジュークレー 25.0×35.0 株式会社ルネ 内藤ルネ 『ジュニアそれいゆ』第35号表紙絵をモチー フとした内藤ルネによる後年の模写 2003 紙・ジュークレー 25.0×35.0 株式会社ルネ
魔法少女と変身願望			
手塚治虫 『リボンの騎士』『なかよし』1946年6月号 ふろく表紙絵 1946 紙・鉛筆、水彩 42.0×29.7 リボンの騎士 完全復刻版『りぼんの騎士（なかよし版）』 スペシャルBOX 2009	魔法のプリンセス ミンキーモモ（『マイア ニメ』1985年7月号表紙） 1982 プロダクションリード（旧社名：葦プロダク ション） わたなべひろし、けいこ 魔法のプリンセス ミンキーモモ（マジカル ボックスPART2表紙） 1992 プロダクションリード（旧社名：葦プロダク ション） 魔法のプリンセス ミンキーモモ オープニング 1982 映像 プロダクションリード（旧社名：葦プロダク ション）	赤塚不二夫 『ひみつのアッコちゃん』（『りぼん』1963年 3月号扉原画） 1963 紙・ペン、水彩（単行本化の際に着色） 35.0×23.0 フジオプロ	内藤ルネ 少女Ⅲ 2003 紙・パステル 26.0×23.0 株式会社ルネ 内藤ルネ インディアンの子 人形 2001 31.0×11.0×5.0 株式会社ルネ 内藤ルネ 紙くず入れ 1961 『少女』第17巻第5号付録、光文社 40.0×25.5 株式会社ルネ 内藤ルネ 紙製お買物ぶくろ 1967 『女学生の友』第13巻第4号付録、小学館 31.0×14.0×7.0 株式会社ルネ 内藤ルネ ジュニアのふくろ 1958 『少女』第14巻第6号付録、光文社 36.0×19.0×6.0 株式会社ルネ 内藤ルネ 壁掛けレターセット 1961 『女学生の友』第12巻第5号付録、小学館 24.0×18.0 株式会社ルネ 内藤ルネ 『ジュニアそれいゆ』第32号表紙絵をモチー フとした内藤ルネによる後年の模写 1960 紙・水彩 33.5×48.0 株式会社ルネ 内藤ルネ 『ジュニアそれいゆ』第34号表紙絵をモチー フとした内藤ルネによる後年の模写 2003 紙・ジュークレー 25.0×35.0 株式会社ルネ 内藤ルネ 『ジュニアそれいゆ』第35号表紙絵をモチー フとした内藤ルネによる後年の模写 2003 紙・ジュークレー 25.0×35.0 株式会社ルネ

『ジュニアそれいゆ』9月号 1959 ひまわり社 20.5 × 22 × 1.5 株式会社ルネ	内藤ルネ クロンボとブローチ 1961 『小学2年生』第17巻第7号付録、小学館 26.5 × 10.5 株式会社ルネ	水森亜土 イラスト 紙・ペン、水彩 11.5 × 10.5 劇団未来劇場	水森亜土 水森亜土 FANCY GIFT 18.0 × 20.0 × 5.0 劇団未来劇場
『ジュニアそれいゆ』4月号 1960 ひまわり社 20.5 × 22 × 1.5 株式会社ルネ	内藤ルネ 春のチャームリングブック 10.5 × 21.0 株式会社ルネ	水森亜土 イラスト 紙・ペン、水彩 15.5 × 8.0 劇団未来劇場	水森亜土 TRIM・CAN 22.5 × 10.0 劇団未来劇場
『ジュニアそれいゆ』10月号 1960 ひまわり社 20.5 × 22 × 1.5 株式会社ルネ	内藤ルネ ひとみバッグ 1958 『ひとみ』第1巻第2号付録、秋田書店 37.0 × 19.5 × 9.0 株式会社ルネ	水森亜土 イラスト 紙・ペン、水彩 16.5 × 11.0 劇団未来劇場	里吉しげみ・小林亜星・水森亜土 バラコンペ！ 1970年代 LPレコード 31.5 × 31.5 劇団未来劇場
『私の部屋』第9号 1973 婦人生活社 30 × 21 × 1 株式会社ルネ	内藤ルネ ファミリアのアップリケ 広告ちらし 20.0 × 28.5 株式会社ルネ	水森亜土 イラスト 紙・ペン、水彩 19.5 × 14.5 劇団未来劇場	陸奥A子 A子のファッションドールワードローブ 1979 『りぼん』昭和54年2月号ふろく ドール15.9 × 11.0 ワードローブ20.7 × 12.0 弥生美術館
『私の部屋』第17号 1975 婦人生活社 30 × 21 × 1 株式会社ルネ	内藤ルネ まちぼうけルルちゃん 人形 2001 43.0 × 15.0 × 7.0 株式会社ルネ	水森亜土 イラスト 紙・ペン、水彩 27.0 × 19.5 劇団未来劇場	田淵由美子 ドリーミー・レターセット 1979 『りぼん』昭和54年11月号ふろく タトウ18.1 × 25.1 便箋17.0 × 12.3 弥生美術館
内藤ルネ アルプスの少女ハイジ 人形 2001 32.0 × 18.0 × 5.0 株式会社ルネ	内藤ルネ ルネ先生のびんせん 1958 『少女ブック』第8巻第6号付録、集英社 20.0 × 15.0 株式会社ルネ	水森亜土 イラスト 紙・ペン、水彩 19.5 × 14.0 劇団未来劇場	太刀掛秀子 花ぶらんこトランプ 1979 『りぼん』昭和54年1月号ふろく 箱7.8 × 5.3 × 0.9 トランプ7.4 × 5.0 弥生美術館
内藤ルネ 歌のアルバム 1958 『少女ブック』第8巻第14号付録、集英社 21.0 × 10.0 株式会社ルネ	内藤ルネ ルネ先生手芸人形 1960 『ひとみ』第3巻第5号付録、秋田書店 17.0 × 25.0 株式会社ルネ	水森亜土 イラスト 紙・ペン、水彩 25.5 × 19.5 劇団未来劇場	岡本光博 ST#88 Japanese Minimal Painting 8 1998-2014 シルクスクリーン、キャンバス 124.0 × 114.0 作家蔵
内藤ルネ 王子と少女(2点組) 11.5 × 8.0 株式会社ルネ	内藤ルネ ルネ先生のびんせん 『少女クラブ』付録、講談社 17.0 × 17.0 株式会社ルネ	水森亜土 『少女フレンド』1974年5月号、1975年 4月号、1975年12月号 1974-75 雑誌 各25.8 × 18.0 劇団未来劇場	作家蔵 岡本光博 ST#98 Japanese Minimal Painting 13 1998-2014 キャンバス・シルクスクリーン 124.0 × 114.0 作家蔵
内藤ルネ オードリィ・ヘップバーン 人形 2001 38.5 × 10.5 × 3.5 株式会社ルネ	水森亜土 イラスト 紙・ペン、水彩 20.5 × 16.5 劇団未来劇場	水森亜土 人形 ソフトビニール 14.5 × 8.5 × 7.0 劇団未来劇場	あさぎりタ 「なな色マジック」紙箱 1987 『なかよし』昭和62年3月号ふろく 弥生美術館
内藤ルネ おしゃれバッグ 1962 『少女クラブ』第40巻第5号付録、講談社 31.0 × 14.0 × 7.0 株式会社ルネ	水森亜土 イラスト 紙・ペン、水彩 17.5 × 13.0 劇団未来劇場	水森亜土 人形 陶器 13.0 × 8.5 × 6.5 劇団未来劇場	いがらしゆみこ 「キャンディ・キャンディ」ノートブック 昭和50年代 『なかよし』ふろく 弥生美術館
		水森亜土 デュボアー「亜土ミニミニセット」 17.0 × 13.5 × 2.5 劇団未来劇場	

いがらしゆみこ、ほか
『なかよし』オリジナル ジャンボアイロン
プリント
1979
『なかよし』昭和54年4月号ふろく
弥生美術館

伊藤彦造
彦造画箋傑作集 第11集第26編 薔薇の
行方
五社堂発行
兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)

たかなし・しずえ
「おはよう！スパンク」したじき
1981頃
『なかよし』ふろく
弥生美術館

陸奥A子
雛ちゃんビッグ・ノート
1980
『りぼん』昭和55年5月号ふろく
弥生美術館

陸奥A子
ラブリー・ピンナップ
1979
『りぼん』昭和54年4月号ふろく
弥生美術館

陸奥A子、ほか
アイビーまんが家 ビューティフルイラスト集
『りぼん』ふろく
弥生美術館

コスチュームプレイ

鈴木春信
見立寒山拾得
1765
中判錦絵
26.9×19.6
千葉市美術館
※1

長澤蘆雪
大原女
1793年頃
絹本着色
130.3×83.2
静岡県立美術館
※2

岡本大更
京の町へ
1916
絹本着色・軸
175.0×71.9
星野画廊
※1

鏡木清方
菊花節
1942
絹本着色・軸
130.0×58.0
京都国立近代美術館
※1

岡田幽明
鸚鵡
大正前期頃
絹本着色・軸
157.7×70.3
星野画廊

北野以悦
春
1931
絹本着色・額
191.0×142.0
鳥根県立石見美術館
※2

島成園
上海娘
1925年頃
絹本着色・軸
132.0×39.8
大阪市立美術館
※2

高島華宵
胡蝶
大正末・昭和初期
便箋表紙絵
21.8×14.5
弥生美術館

高島華宵
爽涼
昭和初期
便箋表紙絵
20.7×14.8
弥生美術館

高島華宵
光
昭和初期
紙・水彩・墨
24.8×18.0
弥生美術館

中澤弘光
舞子
キャンバス・油彩
44.2×32.0
府中市美術館

トミーテック
鉄道むすめ
トミーテック

乙女の憂い

三谷十糸子
春来る（春想）
1947
紙本着色・額
192.0×66.5
京都市美術館
※1

加藤まさを
《花のころろ》第一集
絵はがき4枚組
藤枝市郷土博物館・文学館

加藤まさを
《花の精》第一集
絵はがき3枚
藤枝市郷土博物館・文学館

加藤まさを
《花の精》第三集
絵はがき3枚
藤枝市郷土博物館・文学館

加藤まさを
《おち葉》
絵はがき4枚組
藤枝市郷土博物館・文学館

竹久夢二
春のおくりもの
1928
木版（刊本）
19.2×14.0×3.0
うらわ美術館

竹久夢二
露台薄暮
1928
木版（刊本）
19.2×14.0×2.8
うらわ美術館

竹久夢二
アデュー
1928
『少女の友』第20巻第7号
16.0×23.0
弥生美術館

竹久夢二
白梅
1928
『少女世界』昭和2年2月
16.5×12.0
弥生美術館

イヂチアキコ
真夜中 /midnight
2014
パネル・岩絵具、箔
33.4×24.3
個人蔵

イヂチアキコ
I have everything
2012
パネル・岩絵具、箔
45.5×45.5
個人蔵

唐仁原希
秘密は話さない方がいい。
2013
キャンバス・油彩
194.0×324.0
作家蔵

唐仁原希
優しさにさようなら
2013
キャンバス・油彩
90.9×72.2
作家蔵

タカノ綾
サフラン、セサミ、アーモンド、クローバー、
マヌカ、バグス、光
2014
油彩・キャンバス
1168×1170
個人蔵

ob
彼女のくちびるに紅をさし、失敗して笑った。
2013
キャンバス・アクリル
130.3×97.0

ob
光が私をみつめる
2013
キャンバス・アクリル、油絵具
116.8×65.1

村山加奈恵
eternally of beauty
2013
インクジェットプリント
サイズ可変
作家蔵

志村貴子
『青い花』単行本第7巻総扉原画
2012
紙・水彩
34.3×25.2
太田出版

志村貴子
『青い花』単行本第8巻総扉原画
2013
紙・水彩
41.0×31.0
太田出版

志村貴子
『青い花』単行本第1巻第6話扉原画
2006
紙、インク・マーカー
36.3 × 25.6
太田出版

志村貴子
『青い花』単行本第2巻第13話扉原画
2006
紙、インク・マーカー
36.3 × 25.6
太田出版

林静一
怨霊血染めの十字架（発見の会、1970年）
1970
紙・シルクスクリーン
74.8 × 54.0
ポスターハリスカンパニー

新作アニメーション
女生徒
2014
映像
14分

有明淑の日記（レブリカ）
1938
青森県近代文学館

太宰治
『美少女』（『皮膚と心』竹村書房）
1940
青森県近代文学館

塚原重義
《女生徒》イラスト
作家蔵

東京モノノケ
《女生徒》イラスト
作家蔵

宵町めめ
《女生徒》イラスト
作家蔵

佐竹 慎
《女生徒》のための少女図
2014
紙・水彩
作家蔵

六治郎（辻村聡志）
1/35『昭和初期の女学生』
2014
レジン、彩色
アートボックス

祈りと神秘

大津絵 藤娘
17世紀
紙本着色
50.6 × 23.0
浜松市美術館
※1

湯浅一郎
巫女
1905
キャンバス・油彩
81.6 × 61.0
群馬県立近代美術館

塚本茂
千人針を縫う
1943
キャンバス・油彩
117.0 × 90.0
群馬県立近代美術館

東郷青児
ナース像
1974
キャンバス・油彩
100.0 × 72.8
日本赤十字社

有元利夫
花吹
1975
キャンバス・油彩
145.5 × 89.4
三番町小川美術館

藤野一友
祈り
1957
キャンバス・油彩
65.0 × 33.5
東京オペラシティアートギャラリー

吉岡正人
呼ぶ声がする
1998
キャンバス・油彩、テンペラ
117.0 × 91.0
東京オペラシティアートギャラリー

O Jun
ハネルコ
2011
紙に顔料
171 × 120cm
個人蔵

高木正勝
Bloomy Girls
2005
映像
5分22秒
山本現代

高木正勝
girls
2003
映像
4分50秒
山本現代

音楽少女

鈴木春信
琴を弾く美人
1767年頃
中判錦絵
28.4 × 20.6
千葉市美術館
※2

金陵
龍上美人図
明治後期
絹本着色、軸
122.4 × 41.1
星野画廊

橋本明治
七五三
1928
絹本着色、額
145.0 × 86.0
島根県立美術館
※1

藤島武二
音楽六題（鼓）
1901-06
紙・水彩
8.9 × 8.1
ひろしま美術館
※1

藤島武二
音楽六題（笛）
1901-06
紙・水彩
9.3 × 8.0
ひろしま美術館
※1

藤島武二
音楽六題（琵琶）
1901-06
紙・水彩
9.1 × 8.0
ひろしま美術館
※1

藤島武二
音楽六題（ピアノ）
1901-06
紙・水彩
9.3 × 8.3
ひろしま美術館
※2

藤島武二
音楽六題（ヴァイオリン）
1901-06
紙・水彩
8.5 × 8.5
ひろしま美術館
※2

藤島武二
音楽六題（三味線）
1901-06
紙・水彩
7.1 × 8.2
ひろしま美術館
※2

山本大貴
Hear no evil II
2013
パネル・油彩
41.0 × 31.8
個人蔵

龍山
手習児
大正末・昭和初期
絹本着色、軸
132.0 × 49.6
星野画廊

ピアプロ
（ミクイラスト何点か）
クリプトン・フューチャー・メディア

KEI
初音ミク 公式イメージ
2007
クリプトン・フューチャー・メディア

KEI
『MIKUEXPO』メインビジュアル
2013
クリプトン・フューチャー・メディア

MONQ
『初音ミク『マジカルミライ 2014』』メインビジュアル
2014
クリプトン・フューチャー・メディア

智恵理
1/7 初音ミク Tony ver.（キャラクター・ボーカル・シリーズ 01 初音ミク）
2011
PCV、彩色
h:21.0
マックスファクトリー

マックスファクトリー・浅井真紀
figma014 初音ミク（キャラクター・ボーカル・シリーズ 01 初音ミク）
2008
PCV、彩色
h:14.0
マックスファクトリー

<p>マックスファクトリー・浅井真紀 figma100 初音ミク Append ver. (初音ミク・アペンド) 2011 PCV、彩色 h:13.5 マックスファクトリー</p>	<p>ZiR、ともよしおっさん、ナナミ、ppr てんと、白熱灯、魚月、有識、吉田ドンドリアン、yuma、N 人、七夕、猫犬 (きめら)、U35、星野キノラ、鳥越タクミ ピアプロ投稿 初音ミクイラスト クリプトン・フューチャー・メディア 制作：北田能士 (株式会社冬寂) 協力：(株) ストラタシス・ジャパン、さくらインターネット株式会社、デジタルハリウッド大学大学院 雪ミク 2014 衣装原案：dera_fury ぬり絵 プロジェクションマッピング 2014 ミクストメディア クリプトン・フューチャー・メディア</p>
<p>マックスファクトリー・浅井真紀 figma200 初音ミク 2.0 (キャラクター・ボカール・シリーズ01 初音ミク) 2013 PCV、彩色 h:14.5 マックスファクトリー</p>	<p>注 ※1 は前期展示、※2 は後期展示を示す。 前期展示：7月12日ー8月10日 後期展示：8月12日ー9月7日</p>
<p>マックスファクトリー・浅井真紀 figmaEX-003 初音ミク ライブステージ ver. (キャラクター・ボカール・シリーズ01 初音ミク) 2009 PCV、彩色 h:14.0 マックスファクトリー</p>	
<p>マックスファクトリー・浅井真紀 figmaEX-016 雪ミク 2014 PCV、彩色 h:14.0 マックスファクトリー</p>	
<p>マックスファクトリー・浅井真紀 figmaSP-036b レーシングミク 2011ver. (リターンズ レーシングミク) 2013 PCV、彩色 h:13.0 マックスファクトリー</p>	
<p>マックスファクトリー・浅井真紀 figmaSP-045 レーシングミク 2012ver. (レーシングミク 2012ver.) 2013 PCV、彩色 h:12.5 マックスファクトリー</p>	
<p>マックスファクトリー・浅井真紀 figmaSP-049 レーシングミク 2013ver. (レーシングミク 2013ver.) 2014 PCV、彩色 h:12.5 マックスファクトリー</p>	
<p>マックスファクトリー・浅井真紀 figmaSP-050 初音ミク セーラー服 ver. 2014 PCV、彩色 h:14.0 マックスファクトリー</p>	

掲載記事

読売新聞

2014年7月29日(火)
「美少女」に歴史あり 青森で企画展

朝日新聞

2014年8月16日(土)
美少女美術史展 入場者数2万人

河北新報

2014年6月11日(水)
江戸時代から現代まで、作家110人300作品
美少女 時を越え競演

東奥日報

2014年7月12日(土)
新旧「美少女」一堂に 県美 美術史展きょう開幕

2014年7月25日(金)
アートの散歩道 変化球で探る「表現とは」

2014年8月6日(水)
県立美術館企画展 美少女の美術史(上)
「少女とは何か」を問う 日本と現代 考察する鍵

2014年8月7日(木)
県立美術館企画展 美少女の美術史(中)
誤解にまみれたイメージ 女性的視点で問い直す

2014年8月8日(金)
県立美術館企画展 美少女の美術史(下)
「少女」という概念が持つ多様性 どこまでも理念的な存在

毎日新聞

2014年7月12日(土)
「美少女」ズラリ 作家100人が出展

2014年8月30日(土)
美少女展に3万人 1ヶ月半で達成

陸奥新報

2014年6月3日(火)
江戸時代の錦絵、昭和初期の漫画、現代アニメ…多ジャンル美少女集結

2014年7月12日(土)
時代彩る美少女集結 県美できょうから「美術史」展 錦絵からアニメまで

2014年7月26日(土)
「美少女」展が5,000人達成

2014年8月8日(金)
県立美術館 美少女展って…(上) 近現代を映すモチーフ

2014年8月15日(金)
県立美術館 美少女展って…(下) 日本文化を考える16の試み

デーリー東北

2014年7月12日(土)
江戸～現代の美少女作品 青森県立美術館きょうから企画展

生誕 100 年 昭和の版画家 関野準一郎 展

開催概要

会期：2014 年 10 月 4 日（土）－ 11 月 24 日（月・祝）

開催日数：49 日間

主催：関野準一郎展実行委員会（青森県立美術館、青森市教育委員会、みちのく銀行、青森放送、青森県観光連盟）

協賛：芝管工株式会社、丸大堀内株式会社、ハッピー・ドラッグ、竹中工務店、ヤマトロジスティクス株式会社

協力：青い森鉄道、青森高校同窓会

後援：朝日新聞青森総局、エフエム青森、河北新報社、産経新聞社青森支局、デーリー東北新聞社、東奥日報社、日本経済新聞社青森支局、NHK 青森放送局、毎日新聞青森支局、陸奥新報社、読売新聞青森支局、青森県教育委員会

助成：公益財団法人 ポーラ美術振興財団

観覧料：一般 900 円（700 円）、高大生 700 円、小中生無料

※（ ）内は前売りおよび 20 名以上の団体料金

入場者数

8,158 人

関連企画

（1）木版画制作ワークショップ ～多色摺りを体験してみよう～
葉書大の木版画を制作し、関野準一郎の技法を取り入れた多色摺りを行った。また、実際の制作を体験した後、展示室で関野準一郎作品を鑑賞した。

日時：10 月 4 日（土）10:00－16:30

会場：青森県立美術館ワークショップ A、展示室

講師：関野洋作

参加者数：10 人

（2）県美土曜ゼミ「生誕 100 年 昭和の版画家 関野準一郎展」
展示室会場を巡りながら、広く親しまれている傑作から、知られざる実験的な意欲作まで、その魅力と創作の秘密を、版木やスケッチなどの創作関連資料と合わせて解説した。

日時：10 月 25 日（土）13:30－15:00

会場：青森県立美術館ワークショップ A、展示室

参加者数：13 人

（3）銅版画制作ワークショップ ～銅版の線を描き出す～
関野準一郎が今純三から教わり多くの作品を制作した銅版画について学び、銅版を彫ってプレス機で摺る実習を行った。また、実際の制作を体験した後、展示室で関野準一郎作品を鑑賞した。

日時：11 月 8（土）、9 日（日）10:00－16:00

※ 2 日通しての開催

会場：青森県立美術館ワークショップ A、展示室

講師：戸村茂樹

参加者数：8 人

（4）学芸員によるギャラリートーク

日時：11 月 9 日を除く毎週日曜 13:30－

参加者数：88 人

展覧会カタログ

仕様：A4 判、232 頁

編集：青森県立美術館 菅野晶

デザイン：須藤一幸

発行：関野準一郎展実行委員会

内容：

あいさつ

謝辞

「関野準一郎の青森時代 関野の版画を築いた人々」対馬恵美子

「関野準一郎 一大正の少年から昭和の版画家へ」菅野晶

図版

プロローグ 大正の少年

第一章 版画を築いた人々

第二章 木版画の楽しみ

第三章 街道行旅

第四章 人間を彫る

第五章 珍本・奇本・稀観本

エピローグ ポプラと校舎

資料編

資料紹介「1950 年前後の関野準一郎 一 版画普及活動の側面から」菅野晶

年譜

文献目録

出品リスト



ポスター



展示風景

関野準一郎（1914-1988）は、故郷青森をはじめ、日本、そして世界各地の風景や人物を描いた版画作品で知られ、現在でも多くの人々に親しまれている。

大正の初めに生まれ、昭和の終わりに世を去った関野の画業は、江戸時代から続く浮世絵の伝統と、海外からもたらされる新しい技術や知識という、相対する二つの要素と向き合いつつ、時代にふさわしい表現を切り拓いていこうとしたものであり、それはまた、第二次世界大戦後に世界的な評価を確立する日本の近代版画の発展の一翼を担うものであった。

生誕100年を機に開催した本展では、木版画による代表作はもちろん、銅版画や石版画、さらにコラグラフなど多様な技法に精通していた関野の多彩な作品とともに、版木、摺り見本、スケッチ等、創作に関わる貴重な資料を展示し、彫りや摺りに工夫を凝らした版画ならではの表現技法の数々を紹介した。また、文筆もよくした関野が残した著書をはじめ、創作メモやスクラップ等豊富な文献資料の研究を取り入れた解説を充実させ、関野が作品に込めた想いを解き明かした。

さらに、歌川広重や川瀬巴水等の作品との比較から、浮世絵から続く伝統と関野がどのように向き合ったのかを探るとともに、関野が生涯慕い続けた今純三や棟方志功をはじめとする同郷の作家、上京後の恩地孝四郎の元での「一木会」や、戦後に東京、高円寺にあった関野の自宅で開催された銅版画研究会（通称「火葬町銅版画研究所」）など、創作版画運動をはじめとする多彩な作家たちとの交流も紹介しながら、60年近くに及ぶ関野の創作の軌跡を、同時代の版画をはじめとする美術との関わりとも併せて辿る初の本格的な回顧展として開催したものである。

展示は総数300点を超える作品と関連資料に基づいて、7つの章から構成し、各章のタイトルは関野の著作から引用した。

出品作品

プロローグ：大正の少年

今純三とそのアトリエ

1975

木版

青森県立美術館

今純三

関野氏の像

1933年頃

石版

青森県立郷土館

今純三

雪景色

1935

銅版

青森県立美術館

今純三

夜の自画像

1938

銅版

青森県立郷土館

堅氷中の大泊

1930年代

銅版

青森県立郷土館

碎氷場

1935

銅版

青森県立美術館

題名不詳（碎氷場と馬車）

1936

銅版

青森県立郷土館

河畔

1936

銅版

町田市立国際版画美術館寄託

埤頭裏

1937

銅版

青森県立郷土館

題名不詳（少年）

1937

銅版

青森県立郷土館

題名不詳（弘前城）

1937

銅版

青森県立郷土館

題名不詳（寺院）

1938

銅版

青森県立郷土館

題名不詳（人形）

1933

木版

個人蔵

『緑樹夢』第3号

1931

版画誌 緑樹夢社刊

個人蔵

『彫刻刀』第3号

1931

版画誌

個人蔵

『陸奥駒』第1号

1933

版画誌 創作版画研究会内夢人社刊

個人蔵

『青森版画』第1号

1939

版画誌 夢人社刊

青森県立郷土館

『青森版画』第2号

1939

版画誌 夢人社刊

青森県立郷土館

松下千春

『葉蔭 爬虫・両棲類』

1932年頃

木版 版画集 餘人社刊

青森県立美術館

『蟲』上之巻

1933

木版 書籍 夢人社刊

個人蔵

根市良三

『魚圖集』

1933

木版 書籍

個人蔵

福島常作

『むつの子たち』

1933

木版 書籍

個人蔵

題名不詳（狐の花魁）

1930年代

銅版 葉書 青森郵燈会刊

青森県立郷土館

『むつごま』第7号

1939

書籍 夢人社佐藤米次郎刊

個人蔵

第1章：版画を築いた人々

恩地孝四郎像

1952

木版等

青森県立美術館

題名不詳（アルルカン）

1940年代

木版等

個人蔵

題名不詳（裸婦）

制作年不詳

木版等

町田市立国際版画美術館

題名不詳（貝）

1940年代

木版

個人蔵

黒布貝

1942/43

木版

個人蔵

浴婦

1943

木版

青森市教育委員会

浦島草と猫

1944/43

木版

青森市教育委員会

柘榴

1946

木版

青森市教育委員会

如何なる星の下に

1945

木版

個人蔵

谷中安規像

1976

木版

青森市教育委員会

日本版画協会同人連作自刻画集

『日本民俗図譜』より<雪むろ>

1946

木版

青森県立美術館

日本版画協会同人連作

『日本女俗選』より<輪髪>

1946

木版

青森県立美術館

田河水泡像

1981

銅版（樹脂版）

青森市教育委員会

川口軌外

海水浴

1952年頃

銅版

個人蔵

浜口陽三

魚河岸の汽車

1951

銅版

青森県立美術館

浜田知明

初年兵哀歌（戦いのあと）

1951

銅版

個人蔵

菅野陽

ひとり

1955年頃

銅版

個人蔵

菅野陽

女II

1961年頃

銅版

町田市立国際版画美術館

駒井哲郎

束の間の幻影

1951

銅版

青森県立美術館

小林ドンゲ

酔う男 駒井哲郎頌

1955

銅版

個人蔵

小林ドンゲ

酔う男 関野準一郎頌

1955

銅版

個人蔵

宮下登喜雄

窓

1954

銅版

個人蔵

第2章：木版画の楽しみ

加納光於 植物 1954 銅版 町田市立国際版画美術館	題名不詳（『現代版画の技法』[ダヴィッド社、1956年2月]のための試作品） 1955年頃 銅版 町田市立国際版画美術館	版画集東京版画帖十連聚其五 『東京の窓』 1942 銅版 書籍 アオイ書房刊 町田市立国際版画美術館、個人蔵	水族館 1949 木版 青森県立美術館
加納光於 燐と花と 1960 インタリオ 個人蔵	詩集挿絵 1950年代 銅版 町田市立国際版画美術館	『一木集 I』より 扉絵（萬鉄五郎エッチングの模写） 千葉市美術館	蛙 1949 木版 青森市教育委員会
加納光於 untitled 1964 カラー インタリオ 個人蔵	飛ぶみみづく 1950年代 銅版 町田市立国際版画美術館	『一木集 I』より 似顔絵寄書 千葉市美術館	蛙（水三紋の内） 1950 木版 青森市教育委員会
野中ユリ 実験室 1952 銅版 個人蔵	耳鳴り（2枚組みの内右側） 1953 銅版 個人蔵	根市良三 『一木集 I』より 貝とバラ 木版 千葉市美術館	海のオブジェ 1953 木版等 青森県立美術館
ニコライ堂（聖堂） 1950 銅版 町田市立国際版画美術館寄託	翼ある墓石（2枚組みの内左側） 1950年代 銅版 個人蔵	加藤太郎 『一木集 I』より 四葉 木版 千葉市美術館	鯖 1955 木版、実物版 青森県立美術館
郊外の景 1948/50 銅版 町田市立国際版画美術館寄託	コレスロンの勝利 1953 銅版 個人蔵	杉原正巳 『一木集 I』より 馬鈴薯の花 木版 千葉市美術館	巴 1964/57 木版等 青森県立美術館
椿 1952年頃 銅版 町田市立国際版画美術館寄託	樹の下 1954 銅版 個人蔵	『一木集 VI』より 扉絵 千葉市美術館	鳥と遊ぶ兄妹 1956 木版 青森市教育委員会
朝の浴泉 1952年頃 銅版 町田市立国際版画美術館寄託	二羽の鳥 1963 銅版 青森市教育委員会	『一木集 VI』寄書 千葉市美術館	鳥の森 1957 木版、布版 青森県立美術館
雪の摺上川 1952 銅版 町田市立国際版画美術館寄託	サンマルコ 1976 銅版 青森県立美術館	『一木集 VI』より RADIO ACTIVITY IN MY ROOM 銅版 千葉市美術館	森の習作（II） 1957 木版 個人蔵
水晶の番人 1952 銅版 町田市立国際版画美術館寄託	或る追悼 1954 銅版 青森市教育委員会	『博物譜』 恩地孝四郎 / 編 1950 木版 書籍 青園荘刊 個人蔵	鳥と遊ぶ少女 1956/57 木版 個人蔵
赤い風車 新宿 1951 銅版 町田市立国際版画美術館寄託	小羊の追憶 1954 木版 個人蔵	柿崎卓治、根市良三より松下千春宛葉書 6通 1932-37 葉書 青森県立美術館	聖堂への道 1961/57 木版 個人蔵
生活の背景の花 1952年頃 銅版 町田市立国際版画美術館寄託	『螢の塔—武井武雄抄伝』 1983 木版 書籍 吾八書房刊 個人蔵	関野準一郎より根市謙次郎氏宛手紙 1947 封筒・便箋 青森県立郷土館	宮沢賢治『やまなし』より 5月 1954 銅版 個人蔵
	武井武雄 『地上の祭』 1938 銅版 書籍 アオイ書房刊 個人蔵		宮沢賢治『やまなし』より 12月 1954 銅版 個人蔵

宮沢賢治像 1953（75年改作） 木版 青森市教育委員会	砂丘 1961 木版、レリーフ・プリント 個人蔵	黄色い鳥 1959 木版 青森市教育委員会	鞆の浦 1983 木版 青森市教育委員会
宮沢賢治「夜だかの星」より 鷹 1955 木版 個人蔵	禁じられた遊び 1962 レリーフ・プリント 個人蔵	紫の鳥 1959 木版 青森市教育委員会	庄野「東海道五十三次 46」 1962 木版 青森市教育委員会
宮沢賢治「夜だかの星」より 梟 1955 木版 個人蔵	曼珠沙華 1963年頃 木版、銅版（樹脂版） 青森県立美術館	白黒の鳥 1959 木版 青森市教育委員会	天草崎津からゆきさん 1976 木版 青森市教育委員会
宮沢賢治「夜だかの星」より 星と鳥 1956 木版 個人蔵	曼珠沙華 1963年頃 木版、銅版（樹脂版） 青森市教育委員会	青い鳥 1960 木版 青森市教育委員会	高岡（驟雨）「奥の細道 51」 1985 木版 青森市教育委員会
宮沢賢治「夜だかの星」No.1 1963 コラグラフ 青森市教育委員会	稲 1961 木版、銅版（樹脂版） 青森県立美術館	ボルケンダムの少女 1960 木版 青森市教育委員会	笠島（年輪）「奥の細道 23」 1983/84 木版等 青森県立美術館
宮沢賢治「夜だかの星」No.2 1963 コラグラフ 青森市教育委員会	麦秋 1963 木版、銅版（樹脂版） 青森市教育委員会	夢 1965 木版 青森市教育委員会	清水寺 制作年不詳 木版等 青森県立美術館
宮沢賢治「夜だかの星」No.3 1963 コラグラフ 青森市教育委員会	画家の息子（青い少年） 1952 木版 青森県立美術館	赤い落葉 1960 木版 青森市教育委員会	京都「東海道五十三次 55」 1973 木版等 青森県立美術館
宮沢賢治「夜だかの星」No.4 1963 コラグラフ 青森市教育委員会	スワンと少女 1955 木版 青森市教育委員会	黄色い落葉 1960年頃 木版 青森市教育委員会	「陸奥の四季」より 青森駅 1980 木版等 青森県立美術館
宮沢賢治「夜だかの星」No.5 1963/65 コラグラフ 青森市教育委員会	オカリナ吹きとその娘 A 1955/52 木版 個人蔵	ぼたん雪 1960年頃 木版 個人蔵	飯坂（穴原）「奥の細道 22」 1984 木版等 青森県立美術館
宮沢賢治「夜だかの星」No.6 鳥落つ 1963 コラグラフ 青森市教育委員会	鶏と少年 1956/54 木版 青森県立美術館	ライン河畔の小さい町 1960 木版 個人蔵	新潟（北越雪原）「奥の細道 45」 1984 木版等 青森県立美術館
日本地獄風景 恐山（青） 1966 コラグラフ、銅版 青森市教育委員会	ミレーヌ 1959 木版 青森県立美術館	夜の新宿 1961 木版 個人蔵	西陣雪 1973 木版等 青森県立美術館
日本地獄風景 恐山（赤） 1966 コラグラフ、銅版 青森市教育委員会	猫と少女 1959 木版 青森市教育委員会		函館ハリストス 1976 木版等 青森県立美術館
雪の森 1960年代 レリーフ・プリント 個人蔵	赤い鳥（パリの少女） 1959 木版 青森市教育委員会		森 オレゴン 1974 木版等 青森市教育委員会

第3章：街道行旅

函館青柳町

1975

木版

青森市教育委員会

羽黒山（杉参道）「奥の細道 42」 1983 木版等 青森県立美術館	栃木（巴波川）「奥の細道 10」 1981 木版 青森県立美術館	原「東海道五十三次 14」 1964 木版 青森県立美術館	川瀬巴水 雪の増上寺 1922 木版 千葉市美術館
京細雨 1972/71 木版 青森県立美術館	永平寺（勅使門）「奥の細道 55」 1984 木版 青森県立美術館	赤富士 1976 木版 青森市教育委員会	川瀬巴水 新大橋 1926 木版 町田市立国際版画美術館
京の朝 1979 木版 町田市立国際版画美術館	恋猫 1957 木版 青森県立美術館	葛飾北斎 雷嶽三十六景 凱風快晴 1830 年頃 木版 公益社団法人 川崎・砂子の里資料館	棟方志功 赤富士の柵 1965 木版 青森県立美術館
京の昼 1980 木版 町田市立国際版画美術館	「薨十二題」フィレンツェの薨 1959/61 木版 青森県立美術館	初代歌川広重 東海道五十三次之内 庄野 1833 木版 公益社団法人 川崎・砂子の里資料館	
京の夕 1980 木版 町田市立国際版画美術館	戸塚「東海道五十三次 6」 1963 木版 青森県立美術館	初代歌川広重 東海道五十三次之内 蒲原 1833 木版 公益社団法人 川崎・砂子の里資料館	第4章：人間を彫る 中村吉右衛門像 1947 木版 青森県立美術館
京の夜 1980 木版 町田市立国際版画美術館	三千院 1980 木版 青森県立美術館	織田一磨 東京風景 本郷竜岡町 1917 石版 千葉市美術館	人形師の像 1949 木版 青森県立美術館
寂光院 1970 木版 青森県立美術館	墓とニューヨーク 1959 木版 青森県立美術館	織田一磨 東京風景 木場雪景 1917 石版 千葉市美術館	日夏耿之介像 1952 木版 青森県立美術館
四日市「東海道五十三次 44」 1972 木版 青森市教育委員会	墓とニューヨーク 1960 木版 町田市立国際版画美術館	織田一磨 松江大橋吹雪の夜 1931 石版 千葉市美術館	堀口大学像 1954 木版 青森県立美術館
「陸奥の四季」より 弘前城 1980 木版 青森市教育委員会	花とニューヨーク 1960 木版 青森県立美術館	川瀬巴水 塩原畑下り 1918 木版 千葉市美術館	佐藤春夫像 1965 銅版、石版 青森県立美術館
最上川（漣）「奥の細道 37」 1983 木版 青森市教育委員会	車とニューヨーク 1960/61 木版 個人蔵	川瀬巴水 東京十二ヶ月 三十間堀の暮雪 1920 木版 千葉市美術館	武者小路実篤像 1971 木版 青森市教育委員会
掛川「東海道五十三次 27」 1960 木版 青森県立美術館	金谷「東海道五十三次 25」 1965 木版 青森県立美術館	川瀬巴水 石版 青森市教育委員会	折口信夫像 1972 石版 青森市教育委員会
見附「東海道五十三次 29」 1961 木版 青森県立美術館	石部「東海道五十三次 52」 1967 木版 青森県立美術館	川瀬巴水 旅みやげ第二集 浜小屋（越中水見） 1921 木版 千葉市美術館	川端康成像 1974/75 木版 青森県立美術館
鼠ヶ関（柵）「奥の細道 44」 1981 木版 青森県立美術館	神奈川「東海道五十三次 4」 1967 木版 青森県立美術館		佐藤春夫像 1975 木版 青森県立美術館

斎藤茂吉像 1975 木版 青森県立美術館	銀波 1977/78 木版 青森市教育委員会	若乃花土俵入り 1979 木版 青森市教育委員会	阿修羅（永井路子著「炎環」装幀原画） 1978 木版 青森県立美術館
石坂洋次郎像 1975 木版 青森県立美術館	銀波（金バージョン） 1977 木版 個人蔵	朝潮太郎 1984 木版 青森市教育委員会	『絵本西遊記』 1943 合羽版 書籍 青園荘刊 個人蔵
太宰治像 1976 木版 青森県立美術館	ハートのA 1978 木版 青森市教育委員会	曼荼羅屏風 板画の鬼 1982 木版 二曲一隻屏風 個人蔵	『哺乳物語』 1943 銅版 書籍 青園荘刊 個人蔵
オゼック教授像 1977 木版 青森市教育委員会	アイヌ模様 1982 木版 青森市教育委員会	かじやの鬼コ 1977 木版 二曲一隻屏風 個人蔵	『雨月物語』 1944 銅版 書籍 青園荘刊 青森県近代文学館、個人蔵
夏目漱石像 1979 木版 青森県立美術館	伊豆の踊子 1986 木版 青森市教育委員会	棟方志功 鯉魚図 制作年不詳 水墨 個人蔵	『日本名作土俗玩具絵巻』 1944 肉筆、木版 書籍 関野準一郎刊 個人蔵
棟方志功像 1968 木版等 青森県立美術館	雪国 1987 木版 青森市教育委員会	棟方志功 題名不詳（鯉） 制作年不詳 銀地・水墨 短冊 個人蔵	『裸婦票』 1949 木版 書籍 青園荘刊 青森県近代文学館
《棟方志功像》摺り重ね見本 10枚 木版等 青森県立美術館	画家の妻 1972 石版 青森市教育委員会	淡谷のり子スケッチ コンテ、水彩、色鉛筆 スケッチブック 個人蔵	『古事記絵巻』 1949 合羽版 書籍 青園荘刊 青森県近代文学館、個人蔵
《棟方志功像》摺り見本 5枚 木版等 青森県立美術館	ワルワラ・ブブノワ像 1981 木版 青森市教育委員会		『ヴィナスの誕生』 1949 銅版、木版 書籍 関野準一郎刊 青森県近代文学館、青森市教育委員会
恩地孝四郎 『氷島』の著者 萩原朔太郎像 1943 木版 千葉市美術館	淡谷のり子像 1981/80 木版 青森市教育委員会	永井路子著「炎環」装幀原画 1964 木版水拓摺 個人蔵	『幽霊の書』 1950 木版 書籍 関野準一郎刊 青森県近代文学館
恩地孝四郎 《『氷島』の著者 萩原朔太郎像》色版 1949年頃 木版 個人蔵	雲と老婆 1975 木版 個人蔵	樋口一葉著『にこりえ・たけくらべ』装幀原画 1967 木版、銅版（樹脂版） 青森県立美術館	歌集『白梅抄』 加藤藤之助 / 関野準一郎 挿画 1950 木版 書籍 加藤藤之助刊 個人蔵
紅型 1975 木版 青森県立美術館	高見山像 1977 木版 青森市教育委員会	水上勉著『枯木の周辺』装幀原画 1970 木版 青森県立美術館	『雪国』 1951 木版 書籍 関野準一郎刊 個人蔵
花風を踊る佐藤太圭子像 1975/76 木版 青森市教育委員会	北の湖土俵入り 1978 木版 青森市教育委員会	永井路子著「炎環」装幀原画 1978 木版 青森県立美術館	『飛騨遊記』 1951 木版 書籍 関野準一郎刊 青森県近代文学館、個人蔵
金波 1977 木版 青森市教育委員会	輪島土俵入り 1978 木版 青森市教育委員会	草野心平像（草野心平著「小動物抄」装幀原画） 1978 木版 個人蔵	『又三郎異聞』 1952 木口木版 書籍 関野準一郎刊 青森県近代文学館、個人蔵

第5章：珍本・奇本・稀覯本

「蔵書票作品集」 1952 木口木版 書籍 吾八刊 個人蔵	「日本海」 1975 木口木版、銅版 書籍 大雅洞刊 青森市教育委員会、青森県立美術館	「ボプラと校舎」 1987 木版 書籍 木石洞刊 / 版三味の会頒布 青森市教育委員会、青森県立美術館	津軽金木 1976 木版 青森県立美術館
「黄楊季」 1954 木口木版 書籍 関野準一郎刊 個人蔵	「醫説 史記」 1975 木版彩色 書籍 木石洞刊 青森県近代文学館	エピローグ：ポプラと校舎	「陸奥の四季」より 岩木山 1976 木版 青森県立美術館
「驛」 1954 銅版、木口木版 書籍 関野準一郎刊 青森県立美術館	「醫説 史記」 1975 木版拓摺 書籍 木石洞刊 青森市教育委員会	肴倉氏父上 1938 木版 青森市教育委員会	堤川より八甲田 1976 木版 青森県立美術館
「母の日」 1955 木版 書籍 北海道豆本の会刊 個人蔵	「草の実とori」 1976 木版 書籍 木石洞刊 / ギャラリー吾八発行 青森県近代文学館、青森市教育委員会	肴倉氏母上 1938 木版 青森市教育委員会	恐山 1976 木版 青森県立美術館
「天目山荘」 1955 木版 書籍 関野準一郎刊 青森県近代文学館、青森県立美術館	「両面の鏡」 1977 木版 書籍 木石洞刊 / ギャラリー吾八頒布 青森県近代文学館、青森市教育委員会	肴倉弥八像 1981 木版 青森市教育委員会	「日本の四季」冬 日本海鯉ヶ沢 1976 木版 青森県立美術館
「外遊動物譚」 1962 木版 書籍 関野準一郎刊 青森県立美術館	「外遊土産」 1978 木版 書籍 木石洞刊 青森市教育委員会	福島常作像 1981 銅版（樹脂版） 青森市教育委員会	津軽養月 1977 木版 青森県立美術館
「招待教授」 1964 木版 書籍 青園荘刊 青森県立美術館	「祈願絵馬」 1979 木版 書籍 木石洞刊 青森市教育委員会	阿部合成像 1981 銅版（樹脂版） 青森市教育委員会	八戸港 1978/87 木版 青森市教育委員会
「改版 幽霊の書」 1965 木版 書籍 関野準一郎刊 青森市教育委員会	「十二支十二年」 1980 木版 書籍 木石洞刊 青森県立美術館	西村弘毅コンポー先生 1981 木版 青森市教育委員会	「陸奥の四季」より 奥入瀬深流 1980 木版 青森県立美術館
「いけにえ」 1967 木版拓摺 書籍 関野準一郎刊 青森市教育委員会	「故里民話」 1983 木版 書籍 木石洞刊 / ギャラリー吾八発行 青森市教育委員会	柿崎守忠スフィンクス先生 1981 木版 青森市教育委員会	「陸奥の四季」より 尻屋崎 1980 木版 青森県立美術館
「帰去来」 1968 木版 書籍 版画集 青森県 / 関野準一郎刊 青森市教育委員会、青森県立美術館	「裸婦と女優」 1984 木版、銅版 書籍 木石洞刊 青森県立美術館	南部コーチン画の先生 1981 木版 青森市教育委員会	「陸奥の四季」より 常盤八幡宮 1980 木版 青森県立美術館
「櫓太鼓」 1969 木版 書籍 中央公論社刊 青森市教育委員会	「小さな誕生」 1985 木版 書籍 木石洞刊 / 版三味の会頒布 青森県近代文学館、青森市教育委員会	佐久間漢文ナマズ先生 1981 木版 青森市教育委員会	小川原湖 1987 木版 青森県立美術館
「天のおん猿さま」 1970 木版、木口木版、銅版 書籍 大雅洞刊 青森市教育委員会	「ハイエナのエナ公」 1986 木口木版 書籍 木石洞刊 / 版三味の会頒布 青森県立美術館	橋本誠一ガマ先生 1981 木版 青森市教育委員会	オレゴン大学に於ける自画像 1963 銅版 個人蔵
「大正の少年」 1972 木版 書籍 関野準一郎 / ギャラリー吾八刊 青森市教育委員会、青森県立美術館		青森市柳町（朝市） 1975 木版 青森県立美術館	ハイウェーにて 1969 木版 個人蔵

二つの自画像
1972
石版
青森市教育委員会

糸満にての自画像
1975
木版
青森市教育委員会

シルクロードの自画像
1981
木版
青森市教育委員会

福島常作氏宛年賀状 59 通
1930 年頃 -1986
葉書
青森市教育委員会

出来もせぬ夜業の仕度し酒を飲む
制作年不詳
水墨 軸装
青森県立美術館

スケッチブック (酒の本)
1963 年頃
個人蔵

注
・作者名の記載がないものは関野準一郎
・各章毎に作品・資料・書籍・版画集の順で
掲載

掲載記事

東奥日報

2014 年 9 月 24 日 (水)
生誕 100 年 節目に大回顧展「昭和の版画家
関野準一郎」展 来月 4 月から県立美術館

2014 年 10 月 4 日 (土)
関野版画の軌跡 300 点 生誕 100 年記念展
きょう県美で開幕

2014 年 10 月 29 日 (水)
生誕 100 年 昭和の版画家 関野準一郎展(上)
「木目」の妙 模様生かし水面や空も

2014 年 10 月 30 日 (木)
生誕 100 年 昭和の版画家 関野準一郎展(中)
雷と雨 同じ版使い異なる情景

2014 年 10 月 31 日 (金)
生誕 100 年 昭和の版画家 関野準一郎展(下)
人物像 にじみ出る美と人間性

2014 年 11 月 21 日 (金)
「表現の進化を感じて」青森・関野準一郎展
次男の洋作さん語る

陸奥新報

2014 年 8 月 21 日 (木)
版画家・関野準一郎生誕 100 年記念 創作 60
年の軌跡たどる 10 月 4 日から県美で企画展

2014 年 10 月 10 日 (金)
初の本格的回顧展 県立美術館来月 24 日ま
で「関野準一郎展」

2014 年 10 月 17 日 (金)
昭和の版画家 生誕 100 年 関野準一郎(上)
純三と銅版画との出会い

2014 年 10 月 24 日 (金)
昭和の版画家 生誕 100 年 関野準一郎(中)
模索の時代から風景画へ

2014 年 10 月 31 日 (金)
昭和の版画家 生誕 100 年 関野準一郎(下)
もう一つのライフワーク

2014 年 11 月 8 日 (土)
県美「版画家 関野準一郎」展 5,000 人目

デーリー東北

2014 年 11 月 12 日 (水)
生誕 100 年 昭和の版画家 関野準一郎展
技巧凝らした作品一堂に

平成 26 年度常設展示

Permanent Exhibition 2014

通年展示

アレコホール マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の背景画

20世紀を代表する画家、マルク・シャガール(1887-1985)が制作した全4幕から成るバレエ「アレコ」の舞台背景画、第1幕、第2幕、第4幕を展示。

1942年、ユダヤ人であるシャガールは、ナチス・ドイツの迫害から逃れるために亡命していたアメリカの地で、バレエ・シアター(現:アメリカン・バレエ・シアター)から、バレエ「アレコ」の舞台美術の制作を委ねられる。4場から成るバレエ「アレコ」の舞台に合わせて、全4点制作された背景幕の内3点が青森県立美術館の所蔵となっており、現在、美術館の中心に位置する専用の大ホールに常設展示されている。

展示室 F 奈良美智

青森県弘前市出身の奈良美智(1959-)は、弘前市の高校を卒業後、東京と名古屋の大学で本格的に美術を学び、1980年代半ばから絵画や立体作品、ドローイングなど精力的に発表を続けている。当館では、1997年から奈良美智作品の収集をはじめ、現在その数は150点を超える。

《Hula Hula Garden》(1994年)と《ニュー・ソウルハウス》(2006-2008年)という2点のインスタレーション(空間設置作品)を中心に、奈良美智の世界を紹介。

第1期:斎藤義重「もの」、その存在をめぐる考察 工藤哲巳回顧展関連企画一父・工藤正義 ほか

2014年4月12日(土) - 6月8日(日)

開催日数:54日間

棟方志功展示室、展示室 N 棟方の色彩—油絵、板画の白と黒、裏彩色

1933年頃のある冬の日、棟方志功(1903-1975)は同郷の仲間とともに伊豆大島へと遊び、南国のような島で写生をしたり宴会をしたりして楽しく過ごした。当初目指していた油絵画家から板画家へと転向し始めたこの時期、大島での開放的な日々を経て画業に大きな見通しができ、「わたくしは、これからは、油絵は原色で混りっ気のないものを描こう、板画では、黒と白を生かしてゆこう」と決意し、以後、油絵でなければ表せない色彩、板画でなければ表現できない白と黒の美を追求していくこととなった。

板画では、「白と黒を生かすためには、自分のからだに墨を

たっぷり含ませて、紙の上をごろごろ転がまわって生み出すような、からだごとぶつけてゆく板画をつくってゆくほかはない」と、思いを新たにした棟方は、《二菩薩釈迦十大弟子》をはじめ、それまでの板画の常識を打ち破る数々の大作を生み出した。

墨一色で摺られた白黒板画こそが板画の基本と考えていた棟方だが、裏彩色を施した《宇宙頌》が1956年ヴェネツィア・ビエンナーレで高い評価を得たのを機に、後年彩色板画も多く手掛けるようになった。紙の裏から絵筆で絵の具をさす裏彩色の技法は、手軽にできるうえに、やわらかな色合いを出せるため、好んで使用していた。

色鮮やかな色彩で描かれた油絵、幻想的な白と黒の墨摺り板画、そして華やかな彩色板画の作品など19点を紹介。

展示構成:棟方志功記念館

展示室 OPQMKI 斎藤義重「もの」、その存在をめぐる考察 絵画や彫刻といったジャンル分けを超えた独自の表現を追求した斎藤義重(1904-2001)。

1960年代から電気ドリルを使って合板に線を刻むことで「物質性」を強く感じさせる連作を発表、やがて空間を志向するかのようになり平面からレリーフへと展開、1970年代末からは空間そのものを取り込んだ立体作品へと移行していった。1973年に戦災で焼失した作品の再制作を行った斎藤は、その過程で自身の造形が三次元の空間へと展開するものであることを認識し、壁かけの「絵画」から脱していった。

スプルス材、黑板塗料、合成樹脂といった素材を用いつつ、素材の持つ意味を剥奪したり、転倒させたりしながら、見る者に抽象的思考を喚起する斎藤の作品。晩年の立体作品では特に、「木」の素材感が打ち消された板が多様に重なり、また複雑に構成されることで、板と板との緊張感のある関係、そして板と空間との豊かな関わりが追求されている。何を示し、何を意味するのではなく、純粹なる「もの」として存在するこれらの作品は、受け手に思考と解釈を要求する。

今回の展示では、個人が所蔵する作品23点を紹介し、斎藤作品の芸術的特質を探った。

展示室 H 工藤哲巳回顧展関連企画一父・工藤正義

「反芸術」の旗手として活躍したアーティスト、工藤哲巳(1935-1990)の父、工藤正義(1906-1945)もまたすぐれた画家であった。東京美術学校に学び、小磯良平の知遇を得、兵庫県で教師をつとめた後、帰郷して1943年より青森師範学校の教授となった。新制作派協会に所属し、伸びやかな筆致で描かれたモダンな画風の作品を残し、当時の青森県美術界に新

風を吹き込んだが、終戦後まもなく死去した。

哲巳はエッセイ「私の好きな一点」（『現代の眼』362号、東京国立近代美術館、1985）で、父が母に残した最後の言葉が「息子を…」であり、それ以来、哲巳は画家・美術教師であった母から熱心な美術教育をうけたと述べている。母の没後、両親の「執念」を強く感じた哲巳は父の遺作を集め、1984年、弘前市立博物館で父の遺作展を開催する。前述のエッセイで哲巳は「…父が最後に残した言葉が源になって、余韻の波動が持続している事に思い至る。／延々と連なる余韻の連鎖の中を突き進む私は一体、粒子なのか？音波なのか？TOKYOのインテリがよく使うアイデンティティーという単語等ははらけてしまう。」と書いている。

インボ哲学から晩年の遺伝染色体をモチーフにした作品にいたるまで、工藤哲巳の思想の核には親から子へとつながる生命の連鎖、記憶の連鎖の中で人間の自由はあるのか、自己の存在意義はどこにあるのかといった問いがあるように思われる。両親とその「執念」との対峙は、工藤哲巳にとって大きなテーマの一つでもあった。

上述のような経緯をへて工藤哲巳が遺作展を開催し、弘前市立博物館に寄贈した工藤正義の作品12点を紹介。また、合わせて、のちに津軽塗のイメージが無意識のうちに表れたのではないかと工藤哲巳自らが述べた初期のスタイルの作品1点を展示した。

協力：弘前市立博物館

第2期：寺山修司×宇野亜喜良：ひとりぼっちのあなたに ほか
2014年6月14日（土）－9月7日（日）

開催日数：81日間

※以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

※棟方志功展示室、展示室MNOPQは「美少女の美術史 少女について考えるための16の事柄」展展示会場の一部として使用

展示室H 寺山修司×宇野亜喜良：ひとりぼっちのあなたに

本展では、これまでの寺山修司（1935-1983）と宇野亜喜良（1934-）の仕事を紹介。

1965年に発刊されたフォアレディース・シリーズ、宇野がアートディレクションを手がけ、その第一回目が寺山修司詩文集『ひとりぼっちのあなたに』だったことから出会った2人。その後、宇野亜喜良は、寺山が戯曲を提供した劇団人間座『アダムとイブーわが犯罪学』（1966年）、劇団人形の家『人魚姫』（1967年）、さらに寺山修司が主宰した演劇実験室・天井桟敷の演劇ポスターや舞台美術を手がける。1969年には『毛皮のマリー』のドイツ人俳優による上演の美術監督のため、寺山とドイツのエッセンに渡独。また、寺山の生前に出版された、宇野の装幀による寺山著作本は47冊にも上る。寺山修司没後も復刻される書籍の装幀を多数手がけ、近年も寺山作の演劇の構成・美術・衣裳など、寺山演劇作品に積極的に取り組んでいる。宇野の装幀による寺山の生前の著作本、『寺山修司抒情シリーズ（フォアレディース・シリーズ）』表紙・イラストレーショ

ンの原画、美術的評価も高い演劇実験室・天井桟敷をはじめとする演劇関連のポスター、チラシ、パンフレット、舞台美術プラン、そしてテラヤマ山車の原画など作品資料65点を展示した。

企画協力：テラヤマ・ワールド

協力：刈谷市美術館、三沢市寺山修司記念館

展示室G 棟方志功 棟方のヴィーナス

棟方志功の描く人物像の大半は神仏、そして女人図であった。

「裸體（ハダカ）の、マッパダカの顔の額の上に丸い星をつければ、もう立派な佛様になって仕舞うんだから、ありがたく、恭（かたじ）けない」と棟方は語り、神仏でありながら艶かしく、女性でありながら菩薩のような微笑をたたえた、神仏とも人間ともつかぬ人物像を数多く描いた。

1959年に初めて海外を訪れてからは、ポッティチェリの「ヴィーナスの誕生」はじめルーブル美術館で見たサモトラケのニケ像など、海外の女神をモチーフにした作品も制作している。女性を神仏のように神秘的な存在と崇める一方、力強い健康的な美を棟方は好み、生命力溢れる逞しい姿の女性像を描いた。また、1955年頃より、美人大首絵も数多く手がけている。ふくよかな顔に大きな切れ長の目と小さな口、赤い頬、そして額には星をつけた、棟方独特の大首絵には、慈愛溢れる母のイメージも投影されている。

棟方が描いた華やかなヴィーナス（美の女神）たちの作品10点を展示。

展示構成：棟方志功記念館

第3期：関野準一郎展関連企画 青森の版画・日本の版画・世界の版画 ほか

2014年9月13日（土）－11月24日（月・祝）

開催日数：77日間

※以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

棟方志功展示室、展示室N 棟方板画の世界一木の魂を生み出す
1942年、棟方志功は自らの版画作品をすべて「板画」と呼び表すことを宣言した。その理由を後年、次のように語っている。

「板画というものは板が生まれた性質を大事にあつかわなければならぬ、木の魂というものをじかに生み出さなければダメだと思ひましてね。」「ほかの人たちの版画とは別な性質から生まれていかなければいけない、板の声を聞くというのが、板という字を使うことにしたわけなんです。」「（花深処無行跡）昭和38年）

棟方にとって「板画」とは、絵を版にしたものではなく、油絵具を使用して描いた絵を油絵と呼ぶのと同様、「板を彫って生み出した画」であった。木版画に特別な想いをこめて「板画」と呼び表した棟方は、それまでの版画の常識を打ち破る数々の大作を生み出していった。

今回の展示では、『二菩薩釈迦十大弟子』はじめ神仏を描いた大作や、『運命頌』、『華狩頌』など、壁画のような大画面に

描いた作品、また、対照的に小説の挿絵として制作され、小さな画面の中に装飾的表現を凝らした《瘋癲老人日記板画屏風》などの作品 16 点を紹介した。

展示構成：棟方志功記念館

展示室 PQJMH I 青森の版画・日本の版画・世界の版画

青森出身の版画家、関野準一郎（1914-1988）の生誕 100 年展に合わせ、青森県立美術館が誇る版画コレクションを紹介。多くの優れた版画家を輩出してきた青森の美術館として、美術館準備室時代から青森、日本、そして世界の傑作版画を収集してきた。棟方志功から長谷川潔、恩地孝四郎、ピカソ、マチス、レンブラントまで、選りすぐりの名作 52 点を展示した。

協力：青森県立郷土館

出品作家：

恩地孝四郎、駒井哲郎、清宮質文、長谷川潔、浜口陽三、浜田知明、永瀬義郎、今純三、下澤木鉢郎、高木志朗

ウィリアム・ブレイク、ヴァシリー・カンディンスキー、パウル・クレー、マックス・クリンガー、ケーテ・コルヴィッツ、アンリ・マチス、パブロ・ピカソ、オディロン・ルドン、レンブラント・ファン・レイン

第 4 期：特別展示「青森 EARTH2014」ほか

2014 年 12 月 2 日（火）－ 2015 年 3 月 22 日（日）

開催日数：98 日間

※以下、展示替えの行われた展示室のみ記載

※「青森 EARTH2014」の詳細については、38－39 頁を参照

展示室 G 棟方志功 棟方のヴィーナス

「虚空の拡がりのように、どんなに進んでも、どんなに数えても限りの無い世界、問答無用に大きい世界、それは板画です。」
(棟方志功『板画の肌』1956 年)

板画の奥深さに魅せられ、板画の世界は無限であると感じていた棟方志功（1903-1975）は、スケールの大きい作品を数多く制作している。天井画として制作した板画《宇宙頌》では天界の守護神を華やかに描き表し、板画《鼓笛の柵》では舞い踊る天女に太陽と月を配し壮大な宇宙を表現した。

また、詩歌をもとに制作した連作板画《空海頌》、《山脈板画柵》では、雄大な自然を詠った詩の世界をリズムカルな文字とともに力強く描いている。

板画に無限の宇宙を見出し、天地を讃え、ダイナミックに表現した棟方板画 18 点を紹介した。

展示構成：棟方志功記念館

展示室 ABC 映像室 特別展示「青森 EARTH2014」

第 1 部＝追悼・豊島弘尚 彼方からの凝視

青森県出身で 2013 年に他界した画家・豊島弘尚の仕事について収蔵作品を中心に紹介。遺族に残された作家の構想スケッチや、イメージソースとなった実際の縄文の遺物なども合わせて

展示することで、北方の風景や極光（オーロラ）に着想を得、青森や縄文の風土と深い関わりをもちながら制作を行った画家の仕事の軌跡を追った。

展示室 HIJK 特別展示「青森 EARTH2014」

第 2 部＝縄目の詩（うた）、石ノ柵

展示室 H 吉増剛造

三内丸山遺跡出土の環状列石の一部を、古代の感性に多大な関心を寄せる詩人・吉増剛造の詩と映像と組み合わせて展示することで、現代のアーティストが環状列石と出会い、縄文と現代の交差する様相を改めて浮かび上がらせることを試みた。

展示室 IK 松江泰治

青森、秋田の土地を題材に撮影した写真シリーズ《JP-02》、《JP-05》を展示。全ての作品を一度に展覧する初めての機会となった。

展示室 J 菅谷奈緒、村上善男、松井茂＋王子直紀＋仲井朋子

石に託された風景と現代のアーティストの作品を並置し、その結果としてひらかれる風景を展覧した。具体的には事象の「観察」から出発し、従来とは異なる見方を提示するアーティストの作品や当館コレクションと組み合わせて展示し、従来とは少し位相の異なる青森という大地の地勢のあり方を浮かび上がらせることを試みた。

青森 EARTH2014

第1部＝追悼・豊島弘尚 彼方からの凝視

第2部＝縄目の詩（うた）、石ノ柵

開催概要

会期：2014年12月2日（火）－2015年3月22日（日）

開催日数：98日間

主催：青森県立美術館

会場：青森県立美術館

〔第1部〕展示室 A、B、C、映像室

〔第2部〕展示室 H、I、J、K

入場料：一般 510（410）円、高大生 300（240）円、

小中生 100（80）円

※（ ）内は 20名以上の団体料金

※心身に障がいのある方と付添者 1名は無料

入場者数

6,858人

関連展示

「The allegory for democracy, or the hidden dream / 民主主義のための寓意、あるいは隠蔽された夢」

出品作家の一人・菅谷奈緒が活動する「A.Y.K.K.Project」による、藁人形を用いて一般から集められた「呪いたい存在」についてのエピソードを上演する映像作品を展示。

会期：2014年12月16日（火）－28日（日）

会場：エネルギー館 あしたをおもう森ギャラリー

（青森県観光物産館アスパム2階）

出品作家：A.Y.K.K.Project + 菅谷奈緒

入場無料

関連企画

（1）県美土曜ゼミ「青森 EARTH2014」

担当学芸員が企画について語るトークイベントを開催。

日時：2015年1月10日（土）13:30－15:00

会場：青森県立美術館ワークショップ A

参加者数：8人

（2）わら人形劇ワークショップ「共に生きる」ためのささやかな実践

津軽伝統人形芝居「金多豆蔵（ぎんたまめじょ）」を主宰する木村巖氏と、「劇団 A.Y.K.K.Project + 菅谷奈緒」による人形劇観賞会、藁人形を用いた演劇制作を体験するワークショップを開催。

日時：2015年2月15日（日）

〔第1部〕人形劇鑑賞会 13:30－14:30

〔第2部〕藁人形劇制作 14:40－16:00

会場：青森県立美術館コミュニティホール

参加者数：〔第1部〕60人 〔第2部〕7人

（3）対談：吉増剛造×小澤實 「縄文と俳句」

詩人・吉増剛造と俳人・小澤實を迎え、東北の土地の多層性を切り口に、互いの創作と縄文との関わりなどについて語り合う対談企画を開催。

日時：2015年2月22日（日）14:00－16:00

会場：青森県立美術館スタジオ

話し手：

吉増剛造（詩人／青森 EARTH2014 出品作家）

小澤實（俳人／澤俳句会主宰）

参加者数：40人

（4）豊島重之＋モレキュラーシアター 舞台芸術公演

《スヴァールバル～種子の方舟 Svalbard Vault : Vehicle for Seeds》

八戸市を拠点に活動するパフォーマンスグループ「モレキュラーシアター」と同グループの演出家・豊島重之による、身体と言葉と映像が交錯する舞台公演を開催。

日時：2015年3月8日（日）14:00－15:30

会場：青森県立美術館シアター

参加者数：83人

（5）クロージングライブ 松井茂＋仲井朋子「時の声」

松井茂＋仲井朋子による音作品《時の声》のシステムを用いたライブエレクトロニクス作品を上演。

日時：2015年3月22日（日）

14:00－、16:00－ ※各回30分程度

会場：青森県立美術館展示室 J 周辺

出演：仲井朋子（ライブエレクトロニクス）＋松井茂（詩）

参加者数：28人

（6）担当学芸員によるギャラリートーク

日時：2014年12月6日（土）、20日（土）、

2015年1月17日（土）、31日（土）、2月7日（土）、14日（土）、

21日（土）

各日 14:00 から 30 分程度

場所：青森県立美術館展示室

※2月14日（土）は菅谷奈緒を迎えた特別版を開催。

参加者数：66人



ポスター



第一部 展示風景



第二部 展示風景

「青森 EARTH」は縄文に創造の原点を訪ね、青森の大地 (EARTH) に根ざしたアート (ART) の可能性を発掘・発信していくプロジェクト・シリーズ。2012年から継続して実施。2014年度は青森ゆかりの画家・豊島弘尚 (1933-2013) の追悼展となる「第1部＝追悼・豊島弘尚 彼方からの凝視」、青森の縄文を代表する遺構の一つ「環状列石 (ストーンサークル)」を切り口に、現代のアーティストの作品と美術館コレクションを組み合わせ、縄文と現代の接点のありかについて問う「第2部＝縄目の詩 (うた)、石ノ柵)」の二部構成として開催された。

第1部の参加作家・豊島弘尚は、身体の部分モチーフにした触知的な作品から出発し、北欧で目にした極光 (オーロラ) を「天と地の往復書簡」と表現し、土偶に自らのルーツを感じながら制作を行った画家。本展では自己の感覚を基点に置きながら、超自然的な眼差しを探求する画家の軌跡を、新規を含めた収蔵作品を中心に展覧した。

第2部の参加作家は菅谷奈緒 (アーティスト)、松井茂 (詩人) + 王子直紀 (写真家) + 仲井朋子 (作曲家)、松井泰治 (写

真家)、村上善男 (画家)、吉増剛造 (詩人) の4名と1組。縄文の環状列石を支える論理や世界観を参照項として、詩、写真、音楽、絵画、現代美術と、様々な芸術ジャンルによる作家たちの作品を展覧した。左記を通じて本展は、遠くかけ離れたように思われる縄文と現代が隣り合わせに存在し得るかを問い、今までとは異なる芸術観と、縄文に発する世界観の提示を試みるものであった。

身体、視線、飛躍する想像力など、共鳴する部分の多い二つの展覧会で構成された本企画は、青森の大地に血肉の備った地勢学的視座をもたらすことが意図されている。そして企画を通じて青森の大地から、これからの人間・文明・自然観を考える上で大切な視座の一つを培うことにつなげることが目指された。

また会期中は舞台公演「スヴァールバル～種子の方舟 Svalbard Vault: Vehicle for Seeds」を開催。その他市内別会場にて参加作家の関連展示や館内でのワークショップや対談企画、定期的なギャラリートーク、クローズングライブなどを開催、幅広い層の鑑賞者に展覧会を紹介することにつなげた。

出品作品

第1部 追悼・豊島弘尚 彼方からの凝視

豊島弘尚

ペダナンティックな我等の仲間の頭部

1963

油彩、鉛筆・キャンバス

162.1 × 130.3

豊島弘尚

複眼を持つ頭部 64-C

1964

油彩・キャンバス

162.0 × 130.3

豊島弘尚

ものみなねむれ (1)

1965

油彩・キャンバス

160.0 × 130.0

豊島弘尚

ものみなねむれ (2)

1965

油彩・キャンバス

162.0 × 130.3

豊島弘尚

ものみなねむれ (3)

1965

油彩・キャンバス

162.0 × 130.3

豊島弘尚

例えば嘲笑いの中で変容した頭部

1966

油彩・キャンバス

182.0 × 227.0

豊島弘尚

墓獅子舞 (B)

1968

油彩・キャンバス

194.0 × 259.0

豊島弘尚

その扉は開かれるか・その1

1969

油彩、アクリル・キャンバス

162.1 × 130.3

豊島弘尚

その扉は開かれるか・楕円

1970

油彩、アクリル・キャンバス

162.1 × 130.3

豊島弘尚

その扉は開かれるか・紡錘

1970

油彩、アクリル・キャンバス

162.1 × 130.3

豊島弘尚

[コラージュ作品 12点組]

八戸・墓獅子の舞い

1979

アクリル、水彩、コラージュ・紙

49.5 × 65.0

<Sweden より愛をこめて> 北山崎

1979

シルクスクリーン、アクリル、インク、鉛筆、

水彩、コラージュ・紙

49.5 × 65.0

MORIOKA 又は HACHINOHE 響き

1979

アクリル、インク、水彩、コラージュ・紙

65.0 × 49.5

三陸の夏

1979

アクリル、水彩、コラージュ・紙

65.0 × 49.5

海を見つめる

1979

シルクスクリーン、アクリル、インク、水彩、

コラージュ・紙

65.0 × 49.5

ストックホルムより八戸へ

1979

アクリル、インク、水彩、コラージュ・紙

65.0 × 49.5

“再び頭部”へ又は三陸の Selene、又は海鳴

り à Morioka et Hachinohe

1979

アクリル、水彩、インク、コラージュ・紙

65.0 × 49.5

HACHINOHE

1979

シルクスクリーン、アクリル、インク、鉛筆、

水彩、コラージュ・紙

65.0 × 49.5

北の闇より

1979

シルクスクリーン、アクリル、コラージュ・

紙

65.0 × 49.5

極北・磁場・霊場・白昼の星

1979

シルクスクリーン、アクリル、鉛筆、水彩、

コラージュ・紙

65.0 × 49.5

三陸の春

1979

シルクスクリーン、アクリル、インク、鉛筆、

水彩、コラージュ・紙

65.0 × 49.5

三陸冬將軍

1979

シルクスクリーン、アクリル、鉛筆、水彩、

コラージュ・紙

65.0 × 49.5

豊島弘尚

花屍の湿り (円・A)

1973-74

油彩、鉛筆・キャンバス

227.3 × 181.8

豊島弘尚

花屍の湿り (円・B)

1973-74

油彩、鉛筆・キャンバス

227.3 × 181.8

豊島弘尚

メディテーション 空に播く種子 No. 1

1977

セリグラフ・紙

91.0 × 63.0

豊島弘尚

メディテーション 空に播く種子 No. 2

1977

セリグラフ・紙

91.0 × 63.0

豊島弘尚

メディテーション 空に播く種子 No. 3

1977

セリグラフ・紙

91.0 × 63.0

豊島弘尚

メディテーション 空に播く種子 No. 4

1977

セリグラフ・紙

91.0 × 63.0

豊島弘尚

メディテーション 空に播く種子 No. 5

1978

セリグラフ・紙

76.0 × 56.0

豊島弘尚

メディテーション 空に播く種子 No. 6

1978

セリグラフ・紙

76.0 × 56.0

豊島弘尚

赤道 A

1980

油彩、鉛筆・キャンバス

227.3 × 181.8

豊島弘尚

赤道 B

1980

油彩、鉛筆・キャンバス

227.3 × 181.8

豊島弘尚

大地 (アトランティス) 82-3

1982

油彩・キャンバス

182.0 × 307.0

豊島弘尚

複眼をもつ種子

1997

油彩・キャンバスに銀箔

182.0 × 227.0

豊島弘尚

空に播く種子 (振り返る縄文)

1997

岩絵具、油彩・キャンバスに銀箔

117.0 × 91.0

豊島弘尚

空に播く種子 (縄文)

1997

墨、油彩・キャンバスに銀箔

117.0 × 91.0

豊島弘尚

空に播く種子 (アルタの宙)

1998

墨、岩絵具、油彩・キャンバスに銀箔、木板

144.5 × 206.0

豊島弘尚

空に播く種子 (アルタの星冠)

1998

墨、岩絵具、油彩・キャンバスに銀箔、木板

144.5 × 206.0

豊島弘尚

・・・その轟き、いま奈落の闇より走りくる

1999

墨、岩絵具、油彩・キャンバスに銀箔

182.0 × 910.0

豊島弘尚

縄文の卵・I

1999

墨、岩絵具、油彩・キャンバスに銀箔、木板

144.0 × 207.5

豊島弘尚

縄文の卵・II

1999

墨、岩絵具、油彩・キャンバスに銀箔、木板

144.0 × 207.5

豊島弘尚

朱の臥待月、森光る

2001

墨、岩絵具、油彩、アクリル、キャンバスに

銀箔

194.0 × 521.2

豊島弘尚 黒の森と臥待月 (9月11日) 2001 墨、岩絵具、油彩、アクリル、鉛板・キャンバス 194.0 × 162.1	スケッチブック < 13 > * 1999-2000 14.5 × 19.0 個人蔵	吉増剛造 エン (『王』偏に『爰』) (『オシリス、石ノ神』より) 1984 詩作品 サイズ可変 作家蔵	村上善男 R系の試行 U74-11 1975 アクリル、麻布 162.0 × 112.01
豊島弘尚 もんでりうすべーげん 2005 墨、岩絵具、油彩・キャンバス 194.0 × 259.1	スケッチブック < 14 > * 1999-2001 14.5 × 19.0 個人蔵	三内丸山遺跡出土遺物 縄文時代中期後葉 石柱 140.0 × 32.0 × 20.0 青森県教育庁文化財保護課	村上善男 9月9日の気象 1976 アクリル、麻布 112.0 × 145.0
豊島弘尚のスケッチブック	スケッチブック < 15 > * 2000-2001 14.5 × 19.0 個人蔵	松江泰治 《JP-02》全 57 点 2012 - 2013 type C print 44.7 × 56.3 個人蔵	注 所蔵先の記載がないものは全て青森県立美術館蔵
※作家がスケッチブックの表紙に番号を記している場合は、< > 内にその番号を記した。1997 年以降のスケッチブックからあらたに番号がふられている。それら新番号には * を添えた。	スケッチブック < 16 > * 2000-2001 14.5 × 19.0 個人蔵	松江泰治 《JP-05》全 53 点 2008 - type C print 44.7 × 56.3 個人蔵	
スケッチブック < 1 > 1991 14.5 × 19.0 個人蔵	スケッチブック < 17 > * 2001-2002 14.5 × 19.0 個人蔵	菅谷奈緒 days 2011 ビデオインスタレーション、DVD、液晶モニター、スピーカー、天気図、資料 サイズ可変 作家蔵	
スケッチブック < 4 > 1992 14.5 × 19.0 個人蔵	スケッチブック < 18 > * 2002 14.5 × 19.0 個人蔵	松井茂 (詩) + 仲井朋子 (サウンドデザイン) 時の声 2014 ライブエレクトロニクス サイズ可変 作家蔵 協力：東京藝術大学芸術情報センター	
スケッチブック < 7 > 1993-1994 14.5 × 19.0 個人蔵	スケッチブック < 23 > * 2005 14.5 × 19.0 個人蔵	松井茂 (詩) + 王子直紀 (撮影) 『時の声』より 7 点組 時の声 音響清掃 重荷を食いすぎた男 恐怖地帯 マンホール 69 待ち受ける場所 深淵 2014 ビッグメントプリント 24.0 × 36.0 作家蔵	
スケッチブック < 8 > 1995 14.5 × 19.0 個人蔵	スケッチブック < 28 > * 2010 14.5 × 19.0 個人蔵		
スケッチブック 1996 25.5 × 33.5 個人蔵	スケッチブック < 29 > * 2011 14.5 × 19.0 個人蔵		
スケッチブック < 3 > * 1997 14.5 × 19.0 個人蔵	■特別出品 塚ノ下遺跡出土土偶 紀元前 2000 年 土 23.8 × 13.1 × 5.7 大館郷土博物館		
スケッチブック < 5 > * 1997 14.5 × 19.0 個人蔵			
スケッチブック < 6 > * 1997-1998 14.5 × 19.0 個人蔵			
スケッチブック < 7 > * 1997-1999 14.5 × 19.0 個人蔵			
	第 2 部 縄目の詩、石ノ柵		
	吉増剛造 恋する石たち、青森のかげ 2014 映像、原稿用紙、ペン、インク サイズ可変 作家蔵		
		村上善男 Occluded Front 1974 アクリル、麻布 145.5 × 112.0	

学芸

美術資料収集

美術資料貸出状況

作品保存修復

凡例

- 1 「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ×縦×横、cm）、技法、収集区分の順に記した。
- 2 「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

美術資料収集

平成 26 年度収集美術資料

豊島弘尚 ペダテンティックな我等の仲間の頭部 1963 162.1 × 130.3 油彩、キャンバス 寄贈	豊島弘尚 縄文の卵・Ⅱ 1999 144.0 × 207.5 墨、岩絵具、油彩、キャンバスに銀箔、木板 寄贈
豊島弘尚 複眼をもつ種子 1997 182.0 × 227.0 油彩、キャンバスに銀箔 寄贈	豊島弘尚 森から来る船 2000 182.0 × 227.3 墨、油彩、鉛板、キャンバス 寄贈
豊島弘尚 空に播く種子（振り返る縄文） 1997 117.0 × 91.0 岩絵具、油彩、キャンバスに銀箔 寄贈	豊島弘尚 朱の臥待月 森光る 2001 194.0 × 521.2 墨、岩絵具、油彩、アクリル、キャンバスに 銀箔 寄贈
豊島弘尚 空に播く種子（縄文） 1997 117.0 × 91.0 墨、油彩、キャンバスに銀箔 寄贈	豊島弘尚 黒の森と臥待月（9月11日） 2001 194.0 × 162.1 墨、岩絵具、油絵具、アクリル、鉛板、キャンバス 寄贈
豊島弘尚 空に播く種子（アルタの宙） 1998 144.5 × 206.0 墨、岩絵具、油彩、キャンバスに銀箔、木板 寄贈	豊島弘尚 わななきの黒の森に棲む・Ⅰ 2002 180.0 × 280.0 油彩、油彩、岩絵具、鳥の子紙に銀箔 寄贈
豊島弘尚 空に播く種子（アルタの星冠） 1998 144.5 × 206.0 墨、岩絵具、油絵具、キャンバスに銀箔、木板 寄贈	豊島弘尚 地の吐息・自像 2003 259.1 × 194.0 墨、アクリル、油彩、キャンバス 寄贈
豊島弘尚 ・・・その轟き、いま奈落の闇より走りくる 1999 182.0 × 910.0 墨、岩絵具、油彩、キャンバスに銀箔 寄贈	豊島弘尚 もんでりうすべーげん 2005 194.0 × 259.1 墨、岩絵具、油彩、キャンバス 寄贈
豊島弘尚 縄文の卵・Ⅰ 1999 144.0 × 207.5 墨、岩絵具、油彩、キャンバスに銀箔、木板 寄贈	

- ・成田亨「ザラガス」
- ・成田亨「ザラガス」
- ・成田亨「ザラブ星人」
- ・成田亨「ザンボラー」
- ・成田亨「シーボーズ」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル2号試作」
- ・成田亨「ビートル、s号ドッキング案」
- ・成田亨「シャドー星人イラスト」
- ・成田亨「シャプレー星人初稿」
- ・成田亨「シャプレー星人初稿」
- ・成田亨「ジャミラ」
- ・成田亨「ジラース」
- ・成田亨「スカイドン」
- ・成田亨「スフラン」
- ・成田亨「ゼットン」
- ・成田亨「ゼットンイラスト」
- ・成田亨「ゼットンイラスト」
- ・成田亨「セミ人間」
- ・成田亨「セミ人間」
- ・成田亨「セミ人間頭部」
- ・成田亨「セミ人間頭部」
- ・成田亨「ゾフィーイラスト」
- ・成田亨「ダダ」
- ・成田亨「ダダAイラスト」
- ・成田亨「ダダBイラスト」
- ・成田亨「ダダCイラスト」
- ・成田亨「ダダ頭部（2点）」
- ・成田亨「チブル星人」
- ・成田亨「フレズドン」
- ・成田亨「ドドンゴ」
- ・成田亨「ドドンゴ初稿」
- ・成田亨「ドラコ決定稿」
- ・成田亨「ドラコ初稿」
- ・成田亨「にせウルトラマン」
- ・成田亨「ネロンガ決定稿」
- ・成田亨「ネロンガ初稿」
- ・成田亨「バゴス」
- ・成田亨「バゴス」
- ・成田亨「バゴス頭部」
- ・成田亨「バド星人」
- ・成田亨「バド星人頭部デザイン」
- ・成田亨「バニラ」
- ・成田亨「バラージ『ノアの神』神殿セット」
- ・成田亨
「バラージの青い石 神殿正面の壁画」
- ・成田亨「バルタン星人決定稿」
- ・成田亨「バルタン星人初稿」
- ・成田亨「バルンガ」
- ・成田亨「ピーター決定稿」
- ・成田亨「ピーター初稿」
- ・成田亨「ビートル2号」
- ・成田亨「ビット星人」
- ・成田亨「ビット星人」
- ・成田亨「ヒドラ」
- ・成田亨「ピラ星人決定稿」
- ・成田亨「ブラコ星人」
- ・成田亨「ブラチク星人」
- ・成田亨「ブルトン」
- ・成田亨「ブルトン」
- ・成田亨「ベガッサ星人」
- ・成田亨「ベスター」
- ・成田亨「ベスター」
- ・成田亨「ベムラー」
- ・成田亨「ベムラー（ウルトラマン）初稿」

- ・成田亨「ベル星人」
- ・成田亨「ベル星人」
- ・成田亨「ポール星人」
- ・成田亨「ポスタング」
- ・成田亨「ポスタング」
- ・成田亨「ポスタングの卵」
- ・成田亨「マグマライザー」
- ・成田亨「ミイラ人間」
- ・成田亨「ミクラス」
- ・成田亨「メトロン星人」
- ・成田亨「メフィラス星人」
- ・成田亨「ヤマトン」
- ・成田亨「ユートム」
- ・成田亨「ラゴン」
- ・成田亨「ラゴン」
- ・成田亨「レッドキング」
- ・成田亨「レッドキング」
- ・成田亨「ワイアール星人」
- ・成田亨「ワイルド星人」
- ・成田亨「雲怪獣」
- ・成田亨
「ウルトラ警備隊セット(ホーク1号発進口)」
- ・成田亨「科学特捜隊基地セット」
- ・成田亨「人工生命M1号決定稿」
- ・成田亨「人工生命M1号初稿」
- ・成田亨「人工生命M1号初稿」
- ・成田亨「地底人」
- ・成田亨「特殊潜航艇s号（3面図）」
- ・成田亨「『南海の怒り』登場予定怪魚」
- ・成田亨「『南海の怒り』登場予定怪魚」
- ・成田亨「『南海の怒り』登場予定怪魚」
- ・成田亨「『南海の怒り』登場予定怪魚」
- ・成田亨「『南海の怒り』登場予定怪魚」

特別企画展「名画の花束」

貸出先

・弘前市立博物館

展示施設（会期）

・弘前市立博物館（2014/9/27 - 11/16）

貸出点数：4

作品名

・棟方志功「花矢の柵」

・奈良美智「Rainy Days」

・奈良美智「Top of the World」

・奈良美智「Become to Thinker」

一こころの軌跡ー

祈りの人 棟方志功展

貸出先

・南砺市立福光美術館

展示施設（会期）

・南砺市立福光美術館（2015/3/7 - 5/10）

貸出点数：1

作品名

・棟方志功「御三尊像図」

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

普及プログラム

スクールプログラム

サポートスタッフ

メンバーシッププログラム

平成 26 年度 普及プログラム

1 こども（親子）プログラム

（1）美少女展「親子ギャラリーツアー」

「美少女展を楽しむ」をテーマに、美少女展を親子で鑑賞する親子ギャラリーツアーを行った。また、青森県立美術館の建物やシンボルマークについても解説し、展覧会だけではなく、当館そのものの魅力も案内した。

講師：青森県立美術館スタッフ及び鑑賞サポーター

開催日時：8月2日（土）、3日（日）、9日（土）、10日（日）
16日（土）、17日（日）、23日（土）、24日（日）
各日 14:00 - 14:30

場所：青森県立美術館企画展示室ほか

参加者数：63人

（2）なりきりワークショップ

開催中の展覧会に関する作家や時代を取り上げ、その作家の特徴や思考、技法などを取り入れながら、作家になりきって創作を行った。

①美少女になりきる

美少女展の担当学芸員によるレクチャーの後、思い思いの衣装に身を包んで「美少女」に変身し、身も心も「美少女」になりきって展示室に移動し、作品鑑賞と写真撮影を行った。

講師：青森県立美術館スタッフ

日時：8月10日（日）13:30 - 16:30

場所：青森県立美術館ワークショップA・B、企画展示室

参加者数：11人

②関野準一郎展「銅版画制作ワークショップ～銅版の線を描き出す～」

銅版画の基本的な手法を実際に体験することで、銅版画制作を始めたばかりの関野準一郎が味わった感動や、作品完成への熱い思いを感じ取り、そしてさらには、作家たちと同じ作業を体験しながら鑑賞することで、これまでガラス越しに見ただけで受けとめてきた銅版画の魅力をより具体的に実感した。

講師：戸村茂樹（版画家）

日時：11月8日（土）- 9日（日）各日 10:00 - 16:00

場所：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：7人

③青森 EARTH2014 ワークショップ「共に生きる」ためのささやかな実践

青森 EARTH2014 出品作家である菅谷奈緒氏と青森に伝わる伝統の人形劇一座「金多豆蔵人形一座」をお招きし、第一部「人形劇鑑賞会」と第二部「藁人形劇制作」の二部構成でワークショップを行った。第一部では、津軽伝統人形芝居「金

多豆蔵」の人形劇と、菅谷奈緒氏の制作した藁人形劇をもとにした映像作品を上演し、第二部では自分の日常生活のなかで起こったエピソードをもとに、参加者自身で短い人形劇（1～2分程度）を制作し鑑賞した。

日時：2015年2月15日（日）13:30 - 16:00

〔第1部〕人形劇鑑賞会 13:30 - 14:30

〔第2部〕藁人形劇制作 14:40 - 16:00

場所：青森県立美術館コミュニティホール

参加者数：〔第1部〕60人、〔第2部〕7人



なりきりワークショップ②銅版画制作ワークショップ

2 一般プログラム

（1）県美土曜ゼミ

美術作品の解説に止まらず、社会のあらゆるジャンルとの関わり、様々な視点から「美術とは何か」を参加者と美術館スタッフがディスカッションを重ね、考えるゼミ形式の講座を6月から2月まで月1回開催した。

時間：各日 13:30 - 15:00

- ① 6月21日（土）青森県立美術館入門
- ② 7月13日（日）美少女って何？
- ③ 8月9日（土）宇野亜喜良の女性美
- ④ 9月13日（土）プロジェクト PHASE と八角堂
- ⑤ 10月25日（土）生誕100年 昭和の版画家 関野準一郎展
- ⑥ 11月8日（土）棟方志功と太宰治
- ⑦ 12月13日（土）今和次郎と東北
- ⑧ 2015年1月10日（土）青森 EARTH 2014
- ⑨ 2015年2月14日（土）成田亨 美術／特撮／怪獣

参加者数：129人



県美土曜ゼミ⑤「生誕100年 昭和の版画家 関野準一郎展」

3 創作支援プログラム

(1) オープンアトリエ

青森県立美術館のアトリエスペースであるワークショップ室を開放し、ワークショップ室にある材料や自分で持ち込んだ材料を使い、自由に制作することができる場を設けた。

開催日時：7月27日（日）－8月10日（日）

※休館日（7月28日）を除く

各日 10:00－16:00（12:00－13:00 休憩）

場所：青森県立美術館ワークショップB

参加者数：447人

4 展覧会関連プログラム

(1) 工藤哲巳展シンポジウム「縄文の構造＝天皇制の構造＝現代日本の構造」

大阪万博「お祭り広場」の建築家として知られるだけでなく、前天皇制の研究や特異な縄文論で知られる上田篤氏（京都精華大学名誉教授）と工藤哲巳展を担当した島敦彦氏（国立国際美術館学芸課長）をお招きし、「縄文」や「天皇」をテーマに掲げるようになった80年代の「工藤哲巳」について語った。

パネリスト：

上田篤（京都精華大学名誉教授）

島敦彦（国立国際美術館学芸課長）

飯田高誉（青森県立図書館近代文学館総括副参事）

モデレーター：池田亨（青森県立美術館美術企画課長）

日時：4月12日（土）13:00－14:30

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：51人

(2) 工藤哲巳展トークセッション「工藤哲巳と津軽」

少年期と80年代を青森で過ごし、晩年津軽や縄文をモチーフに取り上げるようになった工藤哲巳。彼と交流のあった青森の作家・太田美知氏をお招きし、担当学芸員とともに工藤哲巳にとって青森はなんだったのかを考察した。

講師：太田美知

日時：4月27日（日）13:00－15:00

場所：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：38人

(3) 工藤哲巳展映画上映「脱皮の記念碑」

工藤哲巳が1969年に鋸山（千葉県房総）で岩壁モニュメントを製作した際の記録映画を上映した。

日時：4月29日（火・祝）13:30－

会場：青森県立美術館シアター

参加者数：40人

(4) 工藤哲巳展ギャラリートーク

担当学芸員が、工藤哲巳展において作品等の解説を行った。

講師：池田亨（青森県立美術館美術企画課長）

日時：4月19日（土）、29日（火・祝）、5月3日（土）、10日（土）、17日（土）、24日（土）、31日（土）、6月7日（土）

各日 14:00－15:00（ただし4月29日は14:30－15:30）

場所：青森県立美術館企画展示室

参加者数：115人

(5) 美少女展 ob 公開制作

美少女展出展作家の現代美術家 ob 氏によるライブペインティングイベントを1ヶ月にわたりエントランスで行い、最後にねぶた囃子による完成イベントを行った。

期間：7月1日（火）－7月31日（木）

場所：青森県立美術館1Fエントランスギャラリー

(6) 美少女展 コスプレパフォーマンスステージ「6HP」

美少女展に展示される村上隆の「6HP」（シックス・ハート・プリンセス）に関連したコスプレイヤーによる演劇、ダンス、ショーケースからなるパフォーマンスステージ及び村上隆氏、mebae氏、乾たつみ氏、中川大地氏、美矢知子氏によるトークショーを開催した。

日時：7月12日（土）

15:00－16:00（トークショー）

16:00－17:00（パフォーマンスステージ）

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：220人

(7) PHASE2014 PART1 ワークショップ「樹脂粘土で変身しよう！」

PHASE2014 PART1 の出展作家である宮川慶子氏の作品を鑑賞したあと、鏡に樹脂粘土を貼り、鏡に映った自分の体を「変身」させた。制作終了後には作家による講評と質疑応答を行った。

講師：宮川慶子（PHASE2014 出展作家）

日時：8月17日（日）13:30－16:30

場所：青森県立美術館ワークショップA、八角堂

参加者数：12人

(8) PHASE2014 PART2 アーティスト・トーク

PHASE2014 PART2 の出展作家である伊藤早樹子氏の作品を

鑑賞し、当館学芸員とともに今回の展示に込めた思いなどを語り合った。

話し手：

伊藤早樹子 (PHASE2014 出展作家)

工藤健志 (青森県立美術館学芸主幹)

日時：10月5日(日) 13:30 - 15:00

場所：青森県立美術館ワークショップA、八角堂

参加者数：10人

(9) PHASE2014 PART3 ワークショップ「300と60、そして5日のカレンダー」

PHASE2014 PART3 の出展作家である永井天陽氏の作品を鑑賞したあと、来年のカレンダーに記された暦や、添えられた絵や写真などを自由に切り貼りし、消したり増やしたり入れ替えたりし、再び1年が365日になるように構成することで、少し変わった参加者それぞれの来年のカレンダーを制作した。

講師：永井天陽 (PHASE2014 出展作家)

日時：11月23日(日) 13:30 - 16:00

場所：青森県立美術館ワークショップA、八角堂

参加者数：7人

(10) PHASE2014 座談会

PHASE2014 の参加アーティスト3名とディレクターの奈良美智氏をお招きし、それぞれの展示について自由に語り合った。

参加者：宮川慶子、伊藤早樹子、永井天陽、奈良美智

日時：10月18日(土) 14:00 - 15:30

場所：青森県立美術館スタジオ

参加者数：73人



座談会の様子

(11) 関野準一郎展関連「木版画制作ワークショップ～多色摺りを体験してみよう～」

葉書大の木版画を制作し、関野準一郎の技法を取り入れた多色摺りを行い、白黒の版画とはまた違った多色摺りの版画の魅力を親子で体験した。版画制作の後には、関野洋作氏の解説により展示室で関野準一郎作品を鑑賞した。

講師：関野洋作 (版画家・関野準一郎氏ご子息)

日時：10月4日(土) 10:00 - 16:30

場所：青森県立美術館ワークショップA、展示室

参加者数：10人

(12) 関野準一郎展ギャラリートーク

担当学芸員が関野準一郎展において作品等の解説を行った。

講師：菅野晶 (青森県立美術館学芸主幹)

日時：10月5日(日)、12日(日)、19日(日)、26日(日)、
11月2日(日)、16日(日)、23日(日)

各日 13:30 - 14:30

場所：青森県立美術館企画展示室

参加者数：88人

(13) 常設展ギャラリートーク

当館職員が奈良美智、シャガール等の当館主要コレクションや建築・シンボルマークといった青森県立美術館ならではの魅力を20分程度で解説した。

日時：10月11日(土)、25日(土)、11月8日(土)、22日(土)、
12月13日(土)、27日(土)、2015年1月10日(土)、
24日(土)、2月14日(土)、28日(土)、3月14日(土)

各日 13:30 - 13:50

場所：青森県立美術館常設展示室他

参加者数：46人

(14) 青森 EARTH 2014 ギャラリートーク

担当学芸員が特別展示「青森 EARTH2014」において作品等の解説を行った。

講師：奥脇嵩大 (青森県立美術館学芸員)

日時：12月6日(土)、20日(土)、2015年1月17日(土)、
31日(土)、2月7日(土)、21日(土)、3月7日(土)、
21日(土)

各日 14:00 - 14:30

場所：青森県立美術館常設展示室

参加者数：66人

(15) 青森 EARTH 2014 ギャラリートーク (特別版)

担当学芸員によるギャラリートークに加え、青森 EARTH 2014 出品作家の菅谷奈緒氏をお招きし、展覧会第二部で展示している出品作についてお話いただいた。

講師：

菅谷奈緒 (青森 EARTH 2014 出品作家)

奥脇嵩大 (青森県立美術館学芸員)

日時：2015年2月14日(土) 14:00 - 14:30

場所：青森県立美術館常設展示室

参加者数：5人

(16) 青森 EARTH 2014 対談：吉増剛造×小澤實「縄文と俳句」

青森 EARTH 2014 出品作家である詩人・吉増剛造氏と、俳人・小澤實氏による「縄文と俳句」をテーマとした対談を行った。また、対談の中で、gozocine 新作《恋する石たち、青森のかげ》(青森 EARTH2014 出品) に吉増剛造氏の語りを交えた特別上

映も行った。

話し手：

吉増剛造（詩人／青森 EARTH2014 出品作家）

小澤實（俳人／澤俳句会主宰）

日時：2015年2月22日（日）14:00 - 16:00

場所：青森県立美術館スタジオ

参加者数：40人

(17) 青森 EARTH 2014 豊島重之+モレキュラーシアター舞台芸術公演

《スヴァールバル～種子の方舟 Svalbard Vault : Vehicle for Seeds》

八戸市を拠点に活動するパフォーマンスグループ「モレキュラーシアター」と同グループの演出家・豊島重之氏による、身体と言葉と映像が交錯する舞台公演を行った。

日時：2015年3月8日（日）14:00 - 15:30

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：83人

(18) 青森 EARTH2014 クロージングライブ「時の声」

青森 EARTH2014 出品作家である仲井朋子の電子音響システムと松井茂の詩の共演を通じて、過去・現在・未来に遍在する時のかたちを顕す試みを行った。

出演：仲井朋子（ライブエレクトロニクス）+松井茂（詩）

日時：2015年3月22日（日）① 14:00 - ② 16:00 -

場所：青森県立美術館展示室 J 周辺

参加者数：28人

平成 26 年度 スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会、鑑賞教材開発等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体の来館受入れ

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切に、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視したギャラリートークに力を入れている。

メニュー：

鑑賞プログラム（ギャラリートークコース、自由鑑賞コース）、鑑賞＋遺跡見学プログラム、オリジナルプログラム（学校連携プログラム）

月	常設展 (人)	企画展 (人)	団体数				
			合計	小	中	高	特
4月	297	0	5	4	0	0	1
5月	634	148	11	10	0	1	0
6月	777	77	17	12	2	1	2
7月	635	69	12	2	4	1	5
8月	220	220	8	3	3	2	0
9月	487	74	12	6	4	2	0
10月	384	238	11	3	6	0	2
11月	280	280	8	4	3	0	1
12月	229	0	2	2	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	31	0	1	1	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	3,974	1,106	87	47	22	7	11

※ 人数は常設展及企画展各々の延べ人数

合計 5,080 人

出前講座

県内各地の学校に出向き、当館の紹介、鑑賞教材「アートカード」を使ったゲーム（「○○美術館をつくろう」）や、ギャラリートーク体験（当館の所蔵作品のパネルを使用）といった鑑賞活動を通じ、来館の難しい学校の児童生徒等に対して美術に親しむ機会を提供した。

実施日	学校名	人数
10月27日	中泊町立小泊小学校	19
11月6日	大間町立大間小学校	39
11月10日	青森市立浪岡野沢小学校	25
11月14日	つがる市立富苑小学校	39
11月18日	青森市立合浦小学校	41
11月19日	弘前大学教育学部附属特別支援学校	26
11月20日	南部町立南部小学校	28
11月25日	藤崎町立明德中学校	65
11月26日	黒石市立牡丹平小学校	24
11月27日	五所川原市立松島小学校	31
11月28日	むつ市立大畑小学校	46

合計 383 人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

また、平成23年度には県内10地区の小学校教育研究会図工部会にアートカードを提供し、利用促進を図っている。

貸出し実績：3件

貸出施設一覧

施設・機関名	所在地	電話番号
青森県立美術館	青森市安田字近野 185	017-782-1919 fax 783-5244
青森県総合学校教育センター	大矢沢字野田 80-2	017-739-1251 fax 739-1279
青森市教員研修センター	青森市栄町 1-10-10	017-743-4900 fax 743-4919
つがる市生涯学習交流センター「松の館」	つがる市木造若緑 52 (つがる市教育委員会指導課)	0173-42-5532 fax 42-5542
五所川原市立図書館	五所川原市字栄町 119	0173-34-4334 fax 34-3256
弘前市教育研究所	弘前市末広 4-10-1	0172-26-4802 fax 26-2250
十和田市現代美術館	十和田市西 2 番町 10-9	0176-20-1127 fax 20-1138
むつ市立図書館	むつ市中央 2-3-10	0175-28-3500 fax 28-3400
八戸市美術館	八戸市番町 10-4	0178-45-8338 fax 24-4531

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導法（アートカードの活用、ギャラリートーク演習等）などをテーマに、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工及び美術等教科研究会との連携講座を実施した。

主催	月日	研修講座の名称	会場	人数
県・市町村教育委員会と共催	8月7日(木)	青森県総合学校教育センターと共催 初任者研修(小・中学校) 教職一般研修講座	県立美術館	73
	10月8日(水)	青森県総合学校教育センターと共催 図画工作・美術科教育講座【鑑賞】	県立美術館	17
教育研究団体等と共催	7月31日(木)	西北美術教育研究会 夏季研修会	県立美術館	23
	8月6日(水)	西北中学校教育研究会美術部会 夏季研修会	県立美術館	6
	11月7日(金)	青森市中学校教育研究会 美術部会研修	県立美術館	17
	12月25日(木)	上北地方小学校教育研究会 図画工作科部会 冬季研修会	十和田市立南小学校	15
	1月5日(月)	青森市小学校教育研究会 図画工作科研究部会 冬季研修会	県立美術館	49

合計 200 人

職場体験

美術館の教育普及活動、学校連携、キャリア教育推進等の観点から、各学校の要望を踏まえながら、中学校・高等学校等からの職場体験、見学等を積極的に受け入れ、美術館の公共施設・観光施設としての役割や仕事を、体験を通じて学ぶ機会を提供した。

受入実績：19校 240人

鑑賞サポーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導にあたる鑑賞サポーター（平成22年度までの「ファシリテーター」を呼称変更。）を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。

平成26年度3月末現在：16人



学校団体の来館受入れ



出前講座



教員研修

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるよう常に工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。

その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

なかでも、県美コンシェルジュ活動は、青森県立美術館のコンテンツの理解を促したり、来館者に寄り添って多角的なサポートを提供し、来館者の満足度向上に寄与している。

募集概要

募集期間：2014年2月3日－3月20日

募集人数：50人程度

応募条件：

- ・満18歳以上（2014年4月1日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び活動する意欲のあること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：49人（26年度末現在）

※このうち県美コンシェルジュ活動希望者25人

活動内容

1 研修

第1回研修会 4月26日（土）9:30－16:00

内容：平成25年度事業実施概要及び平成26年度活動内容説明

- ・常設展「斉藤義重展」及び企画展「工藤哲巳回顧展」鑑賞
- ・コンシェルジュとは（コンシェルジュ活動希望者のみ対象）

2 サポート活動

(1) 学芸（企画展関連イベント運営補助）

活動日数：8日

参加人数：延べ46人

(2) 教育普及（おはなし会、レクチャー、ワークショップの運営補助）

活動日数：17日

参加人数：134人

(3) 舞台芸術（コンサート、おはなしフェスタの運営補助）

活動日数：17日

参加人数：52人

(4) 運営管理（資料整理等）

活動日数：30日

参加人数：159人

(5) 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）

活動日数：25日

参加人数：449人

(6) 自主企画イベント実施（自主企画コンサート）

活動日数：3日

参加人数：22人

(7) 県美コンシェルジュ活動

活動日数：79日

参加人数：166人

対応客数：7,650人



サポート活動 県美コンシェルジュ（研修会）



サポート活動 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）

メンバーシッププログラム

概要

当館では、芸術をより多くの人に身近に楽しんでいただけるような環境づくりを進めるため、会員制度「青森県立美術館メンバーシッププログラム」を設けている。

入会した会員に対して、当館で開催する展覧会やパフォーミングアーツ事業への招待・優待などの特典付与、会員への情報提供などを行うものであり、本年度展開した事業内容は以下のとおりである。

会員証は奈良美智氏と、当美術館のシンボルマーク、ロゴタイプなど、ヴィジュアル・アイデンティティ（VI）を考案した菊地敦己氏のコラボレーションによるもの。

会員カテゴリ及び年会費

一般会員：3,000円

学生会員：2,000円（学生のためのプログラム）

こども会員：500円（小・中学生のためのプログラム）

特別会員：10,000円（一般会員をさらにすすめたプログラム）

コーポレート会員A：50,000円

コーポレート会員B：30,000円

※10月以降入会の場合は各半額

会員数（2015年3月31日現在）

一般会員：99人

学生会員：0人

こども会員：6名

特別会員：14人

コーポレート会員B：1人

計 120人

事業内容

（一般会員・学生会員・こども会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を2枚配付するほか、いつでも前売料金で観覧可
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待

（特別会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を6枚配付するほか、いつでも前売料金で観覧可

- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待（コーポレート会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 会員証の提示により5名（B会員については3名）まで無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を20枚配付
- ・館内及びホームページに法人名を掲示（A会員のみ）
- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待（A会員のみ）

会員への情報提供

- ・年に3～4回、美術館スケジュール等の案内を送付

特典

- ・館内ミュージアムショップでの商品購入 5%割引（一部商品を除く）
- ・館内カフェでの飲食代 5%割引（一部商品を除く）

その他事業

- ・研修視察旅行その1
岩手県立美術館外を訪ねる日帰り鑑賞・研修ツアーを実施した。
参加者数：34人
- ・研修視察旅行その2
八戸クリニック街かどミュージアムを訪ねる日帰り鑑賞・研修ツアーを実施した。
参加者数：21人



研修視察旅行（八戸クリニック街かどミュージアム）

パフォーミングアーツ

演劇

ダンス

音楽

映画

演劇

美術館まると小劇場展開事業

1 事業概要

未来を担う子ども達に芸術に親しむ機会を提供し、豊かな心を育むことを目的に、県内各地域で活動している読み聞かせ団体の連携と人材養成を行うため、平成25年度の八戸市での開催に続き、平成26年度は「おはなし研修 in 弘前」を実施した。

また、読み聞かせ団体と青森県立美術館舞台芸術部門が協力し、「秋のおはなし美術館2014」を実施した。

2 公演等詳細

(1) おはなし研修 in 弘前

読み聞かせ活動従事者を対象として、ドラマリーディングの手法を取り入れた読み聞かせ及び手遊びの研修会を実施。翌日には「なつよ こいこい おはなし会」と題し、研修成果の発表のほか、絵本作家・長野ヒデ子氏と長野麻子氏による絵本ライブ・講演会を開催した。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

助成：公益財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

コーディネーター：秋田敏博（親子ふれあい読書アドバイザー）

プロデュース担当：小笠原真理子

①研修会

手遊び班・ドラマリーディング班の2班に分かれ研修を実施した。

日時：2014年7月12日（土）9:30 - 16:00

会場：弘前文化センター（1階ホール、2階第2・第3会議室）

手遊び班講師：秋田敏博

ドラマリーディング班講師：田邊克彦

参加団体数：8団体・個人（16人）

②「なつよ こいこい おはなし会」

日時：2014年7月13日（日）

13:00 - 13:30 研修成果発表

13:50 - 15:20 絵本ライブ・講演会

会場：弘前文化センター（1階ホール）

料金：無料（事前申込による予約制）

観客動員数：284人

・研修成果発表

上演作品：

『なつのおとずれ』（PHP出版）作・絵：かがくいひろし

『おぼけとモモちゃん』（講談社）作：松谷みよ子、絵：武田美穂

『たちねぶたくん』（株式会社KADOKAWA）作：中川ひろたか、

絵：村上康成

『まほうの夏』（岩崎書店）作：藤原一枝、はたこうしろう、

絵：はたこうしろう

出演団体：8団体・個人（16人）

・絵本作家 長野ヒデ子と長野麻子

絵本ライブ&講演会「エホン ごほん ぱっくん」



①研修会（手遊び班）



②「なつよ こいこい おはなし会」絵本ライブ・講演会

(2) 秋のおはなし美術館 2014

青森県立美術館シアターを主会場に、県内各地域の読み聞かせ団体が出演するドラマリーディング形式での絵本の読み聞かせの上演、昔語り等を実施した。

また、本年度は午前・午後で「未就学児」「小学校低～中学年」「小学校高学年」「大人向け」と上演内容を対象年齢に分け、観客が参加しやすい環境を整えた。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

助成：公益財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

協力：青森県書店商業組合

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

コーディネート：秋田敏博（親子ふれあい読書アドバイザー）

プロデュース担当：小笠原真理子

① 「おはなし団体交流会」

参加団体の地域間交流の推進のため、発表会による相互鑑賞、情報交換会を実施した。

日時：2014年9月14日（日）13:00 - 16:00

会場：青森県立美術館シアター

参加団体：13団体（57人）

② 「秋のおはなし美術館 2014」

日時：2014年9月15日（月・祝）、20日（土）、21日（日）
各日とも10:00 - 15:30

会場：青森県立美術館シアター、屋外エントランス

出演団体：25団体・個人（182人）

料金：無料（事前申込による予約制）

観客動員数：1,478人



秋のおはなし美術館シアター会場

3 広報宣伝、営業概要

宣材物としてチラシ・ポスターを作成、県内文化施設・教育機関・観光施設・書店等を中心に配布、掲示を依頼した。また、PA顧客等へのダイレクトメールの配布を実施した。

「なつよ こいこい おはなし会」では、弘前市周辺の小学校、

幼稚園、保育園等に全児童・園児分のチラシを送付、また、「秋のおはなし美術館 2014」では、県内小学校、幼稚園、保育園、児童館に全児童・園児分のチラシを送付した。

宣伝：

・「なつよ こいこい おはなし会」チラシ（A4版／白黒）
25,000部

・「秋のおはなし美術館 2014」チラシ（B4版／カラー二つ折り）
120,000部、ポスター（B2版／カラー）100部

広報：

・新聞各社において当日の公演の様態を掲載。

・各テレビ局のニュースで当日の公演の様態が放送。

記録：

全ての公演について記録写真撮影し、「なつよ こいこい おはなし会」、「秋のおはなし美術館 2014」シアター上演については記録映像を収録した。



公演開催チラシ

ドラマリーディングクラブ事業

1 事業概要

青森県立美術館に県民が積極的に参加できる環境を舞台芸術企画部門からアプローチする。

「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ」を軸として、参加意欲のある県民を募り、舞台芸術に関わる機会を提供し、公演を実施している。平成26年度は、「定期公演」の実施のほか、「子ども」に視点を置いて舞台芸術の活性化を図るため、県内中学校への「出前公演」を実施。また「秋のおはなし美術館」にて、子供・大人向けの演目をそれぞれ上演した。

運営主体：

青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

2 ドラマリーディングクラブ

(1) 設立

2009年度

(2) 参加条件

- ・青森県立美術館での稽古に参加できること
- ・年齢、経験不問（未成年者は保護者の同意が必要）
- ・年間に最低1公演には参加できること
- ・交通費や食費等活動に際して個人に係るものは全て自己負担

(3) 活動場所

青森県立美術館施設内を基本とする

(4) 募集期間

募集定員に達するまで随時募集

(5) 定員

50名（欠員が出た場合は補充）

(6) 参加料

無料（交通費・食費等の個人に係るものは全て自己負担）

(7) 選考方法

書類選考とし、書類受理後に随時面談を行う

(8) 稽古内容・日程

- ・青森県立美術館パフォーミングアーツ専門スタッフの指導のもと、オリジナルの戯曲や既成の詩・小説、その他の文章を使い、空間を意識しつつ朗読する
- ・定期公演に向けた稽古を実施する
- ・青森県立美術館企画サポート公演に向けた稽古を実施する
- ・その他公演に向けた稽古を実施する
- ・週1回の稽古を基本とする
- ・公演1週間前は毎日稽古を行う

3 公演詳細

(1) 定期公演

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ公演

『桜』を巡って～小説・詩・短歌・俳句・エッセイ～

上演作品：

『桜』 作：岡本かの子

『春昼（しゅんちゅう）』 作：太宰治

『お花見雑感』 作：泉鏡花

『桜の樹の下には』 作：梶井基次郎

『西行 他』

『桜（a fragmentary passage）』 作：長谷川孝治

『桜の森の満開の下』 作：坂口安吾

日時：2014年7月4日（金）19:00開演

5日（土）18:00開演

※開場は開演30分前

会場：青森県立美術館シアター（1公演180席）

料金：前売一般1,000円／前売学生500円

※当日各200円増し

作・構成・演出：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

プロデュース担当：小笠原真理子

舞台監督：野村眞仁

舞台美術：田邊克彦

宣伝美術：木村正幸

出演：ドラマリーディングクラブ員 10人

「津軽」語りリスト 3人

協力：「津軽」語りリスト

観客動員数：153人



上演風景（『西行 他』）

(2) 出前公演

次代を担う多くの子ども達に舞台芸術への理解を深めてもらうことを目的に、県内各小中高等学校へのドラマリーディング出前公演を行っている。

本年度も、学校側より上演希望があったことから出前公演を実施した。

五所川原市立金木中学校

日時：2014年11月14日（金）13:25 - 15:15

会場：五所川原市立金木中学校体育館

演目：太宰治『お伽草子』より2作品（『浦島さん』『かちかち山』）

構成・演出：田邊克彦

出演：ドラマリーディングクラブ員 7人

観客動員数：240人（生徒・教職員・保護者）



上演風景（『浦島さん』）

（3）「秋のおはなし美術館 2014」上演

上演作品：

『まほうの夏』（岩崎書店）作：藤原一枝、はた こうしろう、

絵：はた こうしろう

構成：田邊克彦

『おばけとももちゃん』（講談社）作：松谷みよ子、絵：武田

美穂

構成：田邊克彦

『桜』作：岡本かの子

構成：長谷川孝治

『西行 他』

構成：長谷川孝治

日時：2014年9月21日（日）

10:00 - 12:00 [未就学児向け]

13:00 - 15:30 [大人向け]

会場：青森県立美術館シアター

プロデュース担当：小笠原真理子

演出：田邊克彦

出演：ドラマリーディングクラブ員 8人

※「秋のおはなし美術館 2014」については、60 - 61 頁「まると小劇場展開事業」を参照。



上演風景（『おばけとももちゃん』）

（4）その他

各舞台芸術企画公演へのスタッフ参加及び「Aleko2014 ～青函ソウルヴァージョン～」への出演を行った。

4 広報宣伝、営業概要

宣材物として、チラシ・ポスターを作成し、県内文化施設・教育機関等・観光施設を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内の劇団公演への折り込み、PA顧客等へダイレクトメールの配布を実施した。県内新聞等へ告知・取材の依頼、県内ラジオ局・青森市内ケーブルテレビ局へ番組上での告知を実施。

宣伝：

「定期公演」チラシ（A4版／カラー）5,000部、ポスター（B2版／カラー）30部

記録：各公演とも、記録映像収録を実施。



公演開催チラシ

ダンス

アレコ青函ソウル共感力創造事業

ダンサー・俳優・演奏家による Aleko2014 青函ソウルヴァージョン

1 事業概要

北海道道南地域を視野に北海道新幹線開業効果を獲得するための基盤の一つとして舞台芸術を通じた地域間交流、及び、日本と韓国の舞台芸術を担う若手人材の育成と交流を促進し、青函・ソウルの強い信頼関係の醸成を図るため、青森及び函館での公演を実施した。

構成・演出：田邊克彦

原作：アレクサンドル・プーシキン「ジプシー」／訳：蔵原惟人
主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

共催：公益財団法人函館市文化・スポーツ振興財団、一般財団
法人青森市文化スポーツ振興公社

助成：一般財団法人地域創造

後援：公益財団法人北海道文化財団

協力：HanPAC(Korea Performing Arts Center)、豊田児童セン
ター一輪車クラブ、青森ケーブルテレビ、函館ケーブルテレビ、
NPO あおもりラジオくらぶ、FM 青森、青森放送、みちのく
銀行 ※順不同

2 あらすじ

ロシアの青年貴族アレコは、文明社会に嫌気がさし、自由を求めて「ジプシー」の一団に加わった。そこで「ジプシー」の娘、ゼムフィーラと恋に落ちる。しかし、幸せな時間は長く続かず、奔放なゼムフィーラは別の若いジプシーへと心移してしまう。それを知ったアレコは、嫉妬から悪夢に苛まれ、何も信じられなくなり…。アレコの中に潜む文明人の傲慢と「ジプシー」が体現する真の自由。その二つの矛盾が、静かな草原に悲劇をもたらす。

※「ジプシー」は民族について、現在では彼らが自称する「ロマ」（または単数形の「ロム」）という呼称を用いることが一般的となっていますが、原作であるプーシキンの詩『ジプシー』の作品題名に則し「ジプシー」という語を用いています。

3 公演詳細

本公演では、函館地域のダンサー選抜・振付を振付家である清水フミヒト氏に、また韓国のダンサー選抜には韓国アルコ芸術

劇場にそれぞれ協力を依頼し、若手ダンサーの選抜を行った。韓国・函館・青森のジャズ・モダン・コンテンポラリー・日本舞踊・一輪車など多種多様なダンサー、そして俳優・演奏家が言葉と音楽と身体を駆使し舞台を創作した。他ジャンルの出演者が同じ作品で共演することにより、「互いの違いを認め合うこと」という本作品のテーマがより一層引き立つものとなり、また、キャスト・スタッフを含め、居住地域・言語・表現ジャンル・創作環境など違う人々が集まることにより、今後の創作活動に繋がる相互理解・新たなネットワークの構築を行うことができた。

(1) 青森公演

日時：2014年12月11日（木）

開場 18:00（受付開始 17:30）／開演 18:30（終演 20:00）

会場：リンクモア平安閣市民ホール（青森市民ホール）

観客動員数：473人

(2) 函館公演

日時：2014年12月16日（火）

開場 18:00（受付開始 17:30）／開演 18:30（終演 20:00）

会場：函館市芸術ホール（ハーモニー五稜郭）

観客動員数：226人

出演：

[ダンサー]

アレコ／ソン・ナイエ

若いジプシー／イ・ジヒョン

黒子（アレコ・ゼムフィーラ）／中村登世之丞、中村登茂千寿

ジプシー達／石岡類、佐々木貴仁、紫竹康太、相馬千尋、竹

内翠、前山綾乃

草原の風・幻影／豊田児童センター一輪車クラブ

[演奏家]

トリオ「Interno」(pf: 矢野雄太／vn: 藤原晶世／vc: 藤原秀章)

[俳優]

アレコ／林久志

ゼムフィーラ／庭田育美

ゼムフィーラの父／下川原久恭

語り1／會津悦子

語り2・若いジプシー・老人（若い頃）／田澤京子

スタッフ：

プロデューサー／小笠原真理子

舞台監督／野村眞仁

舞台補助／本多大公、鈴木徳人

照明デザイン／佐藤牧人、神照一、大川陽子
 音響／工藤敢司、寺山紀幸
 プロジェクション／齋藤耕平
 投影画像作成／木村正幸
 函館ダンスパート振付／清水フミヒト
 劇中曲（「SE ダンス」）作曲／友次和也
 調律／小笠原貞夫（青森）、馬場悦朗（函館）
 函館ダンサー衣裳製作／本柳里美、岩戸洋一
 韓国語翻訳・通訳／石川樹里
 函館制作協力／函館市芸術ホール

4 入場料金・チケット販売

料金：前売一般 3,000 円／前売学生 2,000 円／前売高校生以下 1,000 円

※当日は各 500 円増し

※青森県内・函館市近郊の小学生（4-6 年）・中学生・高校生各公演先着 60 名まで無料招待

前売チケット販売場所：

- ・全 国 ローソンチケット
- ・青森市 サンロード青森、成田本店しんまち店、青森県立美術館ミュージアムショップ、リンクモア平安閣市民ホール（青森市民ホール）
- ・弘前市 弘前大学生協、ヒロ口
- ・八戸市 八戸ポータルミュージアムはっち
- ・函館市 函館市芸術ホール（ハーモニー五稜郭）、函館市民会館、松柏堂ブレイガイド（十字街店・大門店・五稜郭店・美原店・テーオー店）

5 広報宣伝、営業概要

宣材物として、共通のチラシ・ポスターを作成し、県内文化施設・教育機関や、県内音楽教室・ダンス教室を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地のコンサート等への折り込み、PA 顧客等へダイレクトメールの配布を実施した。そのほか、小・中・高校生無料招待を周知するため、県内小学校・青森市内中学校・吹奏楽部のある県内の高等学校へチラシを送付、対象の児童・生徒へのチラシ配布を実施した。

宣伝：

チラシ（A4 版／カラー）13,000 部

ポスター（B2 版／カラー）200 部

広報：

テレビ、ラジオでの告知の他、インターネットでオリジナル番組を制作し、稽古の生中継を実施。新聞各社において告知・公演開催の様子の取材。



公演開催チラシ

6 出演者等プロフィール

田邊克彦（構成・演出）

1997 年より青森市内を拠点に演劇活動を始める。自らユニットを立ち上げ、脚本・演出・俳優をし、県内外で公演を行うほか、地元タレントとして活躍。また、演劇活動のほか、映像作品の制作にも積極的に取り組み、2005 年には、第 14 回青森映画祭インディーズムービーの祭典「AIR2005」ショートショート部門で大賞を受賞。2008 年、青森県立美術館日韓演劇交流事業「青森の雨」オーディション通過を機に弘前劇場に所属し、俳優の他、舞台美術や舞台監督などを多才にこなす。2012 年、愛知県長久手市で開催の「劇王 IX」本選へ出場。中国、韓国等の国内外の様々な舞台芸術制作を行うほか、一般県民を対象とした青森県立美術館ドラマリーディングクラブへの脚本、演出も実施。2014 年、弘前劇場を退団し、フリーランスでの劇作、演出、俳優で活動する、青森県で最も注目する若手演劇人。（青森県立美術館の舞台アレコ作品演出は、本作品が最初となる。）

ソン・ナイエ（Son Naye） - 韓国・ソウル -

2014.9 新村大学文化祝祭 アスファルトスタジオ「Hand in Hand」振付・出演

2014.6 仁川アートプラットフォーム「移動する重心」振付・出演

2014.5 MODAFE ファン・スジョン振付「小説化する体」出演

2014.4 コラボレーション art space Pool

展示名：2014 pool プロダクション「灰色の外」

演出：チャ・ミヘ、振付・出演：ソン・ナイエ「顔のない顔」

2013.10 第 7 回ソウル・ダンスコレクション キム・ウジン振付「二つの間」出演（振付賞受賞作）

2013.5 TAGE TANZ POTSDAM 2013(in Berlin) 出演

2013.2 福岡ダンスフリンジフェスティバル 招請公演「タイムスケジュール」振付・出演

2012.12 Kore-A-Moves イム・ジノ振付「I go」出演（ヨーロッパ・ツアー公演）

2012.10 第 6 回ソウル・ダンスコレクション受賞「タイムスケジュール」振付・出演

2012.5 MODAFE ミナ・ユ振付「Exiles」出演

2011.5 「Trouble Travel」振付・出演 ソウルタンツステーション

ン ショーケース

2011.2 横浜ダンスコレクション招請作 キム・ジュンギ振付
「Skin」出演

2010.10 第4回ソウル・ダンスコレクション

<Better Together> 振付・出演

ほか多数。

イ・ジヒョン (Lee Jihyun) - 韓国・ソウル -

2014 国民大学総合芸術大学院 ダンスシアター専攻卒業

2013 福岡ダンスフリンジフェスティバル「タイムスケジュール」
出演 (振付 ソン・ナイエ)

2013 ソウルダンスプラットフォーム「タイムスケジュール」
出演 (振付 ソン・ナイエ)

2012 ソウルダンスコレクション「タイムスケジュール」出演
(振付 ソン・ナイエ)

中村登世之丞 (なかむら とよのじょう) - 青森 -

18歳まで初代家元、坂本晴江に地唄舞の手ほどきを受け、名取として「黒髪」「鐘が岬」を踊る。現在は中村流師範として、十世家元七代目中村虎治のもとで歌舞伎舞踊の研さんを積み、舞台公演を行う。ピアニストでもあり、ジュリアード音楽院修士課程、マンハイム音楽大学を修了し、ソロリサイタルを中心に国内外で演奏活動を行う。

中村登茂千寿 (なかむら ともちづ) - 青森 -

むつ市出身。4歳より中村登茂寿に師事。後に上京して八世六代目中村虎治の内弟子となる。青森に戻り各地で後進の指導にあたりと共に県民文化祭、国民文化祭等に出演。現在十世七代目中村虎治の元で更なる研さんを積んでいる。中村流師範、日本舞踊協会会員。

竹内翠 - 函館 -

9歳より函館にてジャズダンスを始める。島崎啓子氏に師事。2003年よりフリーダンサー兼フリーインストラクターとして活動。ジャズダンス、ヒップホップ、ヨガ、ピラティス、ズンバ等、多岐に渡り指導。2009年、JADE Dance Crew を立ち上げ、自主公演の他、函館市内・近郊に於いて多数の舞台やイベントへ振り付け・出演。2014年、函館市石川町に JADE Dance Studio を構え、ダンサーの育成に力を注ぐ傍ら、自身も現役ダンサーとして舞台への出演・客演等活動中。

佐々木貴仁 - 函館 -

北海道教育大学函館校卒業。在学中、モダンダンスクラブに所属。2005年、2006年、清水フミヒト主催公演『ハートフルダンスシリーズ・真珠の月かげ』に出演。帯広、北見、札幌、函館にて開催。函館バレエアカデミー主催公演『ドン・キホーテ』に出演。全日本高校大学ダンスフェスティバル in 神戸にて神戸市長賞 (3位相当) を受賞。2007年、全日本高校大学ダンスフェスティバル in 神戸にて特別審査員賞を受賞。ダンス・プロジェクト・ハコダテ主催、函館市民文化祭『STEP BY STEP』に出演。

2011年、モダンダンスクラブ卒業生とともに自主公演『ねどいはどい』を開催。函館芸術ホール主催市民参加型、オープンギャラリー事業にて構成、演出、出演。2014年、函館芸術ホール主催、ハコダテライブステージ 2014『五稜郭街舞台』パフォーマンス編にて、最優秀賞とオーディエンス賞を受賞。現在は、函館ダンスアカデミーに在籍し、モダンクラスのインストラクター。教育大モダンダンスクラブの卒業生たちとチーム『モダン・ピース』を結成し、活動中。

紫竹康太 - 函館 -

4歳より函館にてバレエを始める。岡田佳子に師事 2009年より久富淑子バレエ研究所へ移籍。久富淑子に師事、2011年北海道バレエコンクールジュニア A 入賞1位、審査員特別賞受賞、第31回、第32回、第33回全道バレエフェスティバル出演。2012年ロイヤルアカデミーオブダンス Intermediate 合格。2013年ロイヤルアカデミーオブダンス Advanced 1 合格。現在は函館にてフリーダンサーとして活動。

相馬千尋 - 函館 -

北海道教育大学教育学部函館校在籍。大学でダンスを始める。同校モダンダンスクラブにて活動中。2013年 第26回全日本高校大学ダンスフェスティバル神戸特別賞受賞。

前山綾乃 - 函館 -

3歳より小泉のり子バレエスタジオにてバレエを始める。小泉のり子に師事。1997年、2004年ポリショイバレエ学校サマースクールに参加。2005年、2007年ロシア国立ノボシビルスクバレエ学校留学。全道バレエフェスティバル「コッペリア」、「ドン・キホーテ」、「くるみ割り人形」、「ラ・シルフィード」に出演。小泉のり子バレエスタジオ定期公演にて「海賊」グラン・パ・ド・ドウ、「眠れる森の美女」よりフロリナ王女、オーロラ姫、「ライモンダ」よりライモンダ、「ドン・キホーテ」よりキトリ、「白鳥の湖」よりパ・ド・トロワを踊る。2014年 ダンスワークス・リュミエール公演出演。

石岡類 - 函館 -

北海道教育大学教育学部函館校在籍。大学でダンスを始める。同校モダンダンスクラブにて活動中。2013年 第26回全日本高校大学ダンスフェスティバル神戸特別賞受賞。

豊田児童センター一輪車クラブ - 青森 -

1984年に遊びとして一輪車を導入、1986年から本格的に一輪車の活動が始まり、1988年演技技術の進歩に伴い、全日本一輪車大会に挑んでみたところ、初参加ながら団体演技で総合優勝を成した。以後、6回連続日本一となり、日本の一輪車演技の変革を成した。また、国際一輪車大会においても4度の団体優勝を飾るなど、優秀な成績を収め、世界的にも表現豊かな演技は注目されている。現在60名のクラブ員が在籍し、通算12回の日本一を成し遂げている。

トリオ [Interno]

矢野雄太 (pf)

1992年生まれ。埼玉県出身。6歳よりピアノを始める。2001、2007年、ポーランド国立クラクフ室内管弦楽団と共演、2009年、第33回ピティナピアノコンペティション G級金賞併せて東京都知事賞、読書新聞社賞、洗足学園前田賞、王子賞、ヒノキ賞受賞。2011年、バルセシアモンテローザ若い音楽家の為のコンクール(イタリア)大賞受賞、第20回ABC音楽振興会主催「ABC新人コンサート・オーディション」合格、青森県立美術館主催「2011年チャイコフスキー・ピアノトリオ・オーディション」優勝。2012年、チェルカスキー国際コンクール(イタリア)にて、チェルカスキー特別賞受賞。2013年学内にて藝大クラヴィア賞受賞、藝大フィルハーモニアと共演、イタリア、スイスにて、ルーマニア国立バカウ交響楽団と共演。2010年度(財)ヤマハ音楽振興会音楽支援奨学生、2013年度宗次エンジェル基金/新進演奏家国内奨学金奨学生、2014年度公益財団法人青山財団奨学生。これまでに、永瀬まゆみ、中井恒仁、二宮裕子、黒田亜樹、角野裕、ヴィンチェンツォ・バルツァーニ、ブルーノ・メッツェーナの各氏に師事。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科4年在学中。

藤原晶世 (vn)

1991年山梨県出身。第56回、第57回全日本学生音楽コンクール小学生の部東京大会入選。第58回、第59回、第60回全日本学生音楽コンクール中学生の部東京大会入選。13歳の時、小林研一郎指揮日本フィルハーモニーと共演しNHKで放送される。第1回東京芸術センター記念バイオリンコンクール第1位。2011年、チャイコフスキー・ピアノトリオ・オーディション優勝。ウィーンベートーベン国際コンクール2012第2位。平成24年度日本学生支援機構 優秀学生顕彰 文化芸術部門 大賞受賞。第20回おきでん新人オーディション第1位。東京音楽アカデミー2012、ジュリアーノカルミニョーラマスタークラスにて優秀賞受賞。東京文化会館で行われたファイナルコンサートに出演。小澤征爾音楽塾2012、2013に参加。2014年度より宗次エンジェル基金/日本演奏連盟奨学生。これまでに川原千真、鈴木共子、篠崎功子、木野雅之、清水高師の各氏に師事。東京藝術大学附属高校を経て東京芸術大学卒業。

藤原秀章 (vc)

1994年山梨県南アルプス市生まれ。2009年、第9回泉の森ジュニアチェロコンクール中学生の部 銀賞。2011年、第9回東京音楽コンクール弦楽部門 入選、本選において新日本フィルハーモニー交響楽団と共演。第65回全日本学生音楽コンクールチェロ部門高校の部 奨励賞。2011年、チャイコフスキー・ピアノトリオ・オーディション 優勝。2012年、第12回泉の森ジュニアチェロコンクール高校生以上の部 銀賞。第17回コンセルマロニエ21弦楽器部門 第3位。2013年、第67回全日本学生音楽コンクールチェロ部門大学の部 第1位。これまでに、古川展生、ダニエルゴギュラン、堤剛、ルイスクラレットの各

氏のマスタークラスを受講。桑田歩、山崎伸子、中木健二の各氏に師事。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、現在同大学2年在学中。平成26年度宗次エンジェル基金/日本演奏連盟奨学金制度奨学生。

林久志 -青森-

2006年、青森県立美術館開館記念公演 演劇「津軽」(青森県立美術館会場)のオーディションに合格し、俳優活動を始める。青森県の他、首都圏等で数々の公演に出演。現在は、フリーで俳優活動を続ける。

下川原久恭 -青森-

1972年、芸術祭参加レコードにて「日本民謡を唄うフォークソングの若者達」に、フォークバンド唐変木の一員として参加。以来音楽活動を続ける。2008年 太宰治生誕100年記念公演演劇「津軽」に俳優として出演を契機として、青森県を中心に数々の舞台に出演する。

清水フミヒト -函館-

一瞬にして舞台の空気を変える存在感、足の先から指の先まで全てを使い表すその表現力は高く評価され、ジャンルを超えた様々な舞台でゲストソロダンサーとして活躍。豊かな感受性と踊りに対する情熱を源に、長い手足からあふれ出る動きは繊細かつ大胆。軽やかに宙を舞い、時には鳥肌が立つほど鋭く突き刺す演技は決して一つの型にはまることはなく変幻自在。大きな身体から溢れ出るダイナミックな演技と少年のようなナイーブな感性で舞台に挑んでいる。平成20年度新進芸術家海外留学制度1年派遣研修員としてニューヨークで活動。ソロ作「FLOWER」発表。矢沢永吉コンサートツアー 2006、五木ひろし日本歌謡史100年-昭和編-国立劇場大劇場、平成19年度文化庁芸術団体人材育成支援事業 現代舞踊公演「告白色」(新国立劇場中劇場)、名倉ジャズダンススタジオ「CAN'T STOP DANCIN」(青山劇場)、深沢和子作品「罪と罰」「赤と黒」「異邦人」「王女マルガリータ」、花岡陽子フラメンコ公演「求め塚」「うないおとめ」「pasa la vida 時は過ぎゆく」台本、振付、演出、よしもとクリエイティブ・エージェンシー主催 品川プリンスホテル「style」振付、人形劇団ひとみ座、片岡昌氏「埋もれし時」コラボレーション作品発表、青森県立美術館、寺山修司、土方巽展展示室でのパフォーマンス、様々な音楽家とのライブパフォーマンス、東京コレクションなどのファッションショーやヘアショー、中国広州でのモーターショーの演出振付も行う。

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ

(會津悦子、田澤京子)

これまで県立美術館が実施してきた、県民参加型演劇等を発展させ、県立美術館から先駆的な舞台芸術を発信するため、2009年に発足。ドラマリーディングを中心に県立美術館の他、県内の小中学校等で公演を実施している。



函館ダンサー



トリオ「Interno」



豊田一輪車クラブ：(中央・俳優 林久志)

音楽

アレコホール定期演奏会 2014 「舞台背景画アレコが招き寄せた5人の演奏家」

1 事業概要

パフォーミングアーツ県民参加活性化事業の一環として、マルク・シャガール作の舞台背景画「アレコ」が展示されているアレコホールでの演奏会を本年度も開催した。

本年度は「舞台背景画アレコが招き寄せた5人の演奏家」と題し、東北出身の演奏家の中から、ピアノ・オーボエ・ヴィオラの演奏家を招聘、全3回の公演を行った。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会

2 入場料金・チケット販売

料金：

前売一般 2,000 円／前売学生 1,000 円

※当日は各 500 円増し

ペア券 3,000 円 ※前売のみの販売

通し券一般 4,000 円／学生 2,000 円

※事務局での予約販売のみ

チケット販売場所：

- ・全国 ローソンチケット
- ・青森市 サンロード青森、成田本店しんまち店、青森県立美術館ミュージアムショップ
- ・弘前市 弘前大学生協、ヒロロ
- ・八戸市 八戸ポータルミュージアムはっち

※県内の小・中・高校生を各回先着 60 名まで無料招待

3 広報宣伝、営業概要

宣材物として、チラシ、ポスターを作成し、県内の文化施設、教育機関等、道の駅、音楽教室、音楽団体、各商店街等を中心に配布し、掲示を依頼した。また、県内各地のコンサート等への折り込み、PA 顧客等へダイレクトメールの配布を実施したほか、小・中・高校生無料招待を周知するため、県内小学校（各市内）、県内全中学校・高等学校へチラシを送付。対象の児童・生徒全員へのチラシ配布を実施した。

宣伝：

- ・チラシ（A4 版／カラー）70,000 部
- ・ポスター（B1 版／カラー）10 部
- ・ポスター（B2 版／カラー）50 部

広報：

- ・新聞各社において告知・公演開催の様態を取材依頼。
- ・県内ラジオにおいて告知。



公演開催チラシ

4 来場者サービス

- ・無料託児サービス

各公演の開場から終演までの間、託児サービスを実施。（ただし、1 歳から）

- ・シャトルバス代行タクシーの運行

演奏会終演後、無料で青森県立美術館から青森駅までの無料送迎を実施。

- ・カフェ「4 匹の猫」臨時営業

演奏会公演日は、開場時間まで延長営業を実施。

5 各公演詳細

会場：青森県立美術館アレコホール

席数：200 席（全席自由）

（1）第 1 回 日本のピアノ音楽の夕べ

日時：2014 年 5 月 17 日（土）

17:00 受付開始 17:30 開場 18:00 開演

演奏者：赤城眞理（ピアノ）

演奏曲目：

本間雅夫／クロス・モード（1978）

一柳慧／ピアノ・ポエム（2003）

伴谷晃二／風の環礁（1993）

武満徹／雨の樹 素描（1982）

北爪道夫／様々な距離 II（2006）

本間雅夫／サウンド・シフト第 1 番（1986）

観客動員数：151 人

(2) 第2回 香りを響きに託して

日時：2014年9月20日(土)

18:00 受付開始 18:30 開場 19:00 開演

演奏者：戸田智子(オーボエ)、宇根美沙恵(ピアノ)

演奏曲目：

レイナルド・アーン／クロリスに

Reynaldo Hahn / A Chloris

マルセル・ビッチ／17世紀の主題によるフランス組曲

Marcel Bitsch / Suite française pour Hautbois et Piano

I Pavane

II Gaillarde

III Gigue

IV Rigaudon

セルゲイ・ラフマニノフ／ヴォカリーズ

Sergei Rachmaninov / Vocalise

フランソワ・クープラン／「趣味の融合、または新しいコンセール集」よりコンセール第10番

François Couperin / Concert No.10 from [Les Gouts reunis ou Nouveaux Concerts]

I Prelude

II Air tendre et Loure

III Plainte pour 2 Instrumente a l'unison

IV La Tromba

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト／オーボエ協奏曲 ハ長調 KV.314 より第1楽章

Wolfgang Amadeus Mozart / Konzert für Oboe und

Orchester C-Dur KV.314、I .Allegro Aperto

マリーナ・ドラニシニコワ／ポエム

Marina Dranishnikova / Poem

モーリス・ラヴェル／水の戯れ(ピアノソロ)

Maurice Ravel / Jeux d'eau

シャルル・カミーユ・サン＝サーンス／オーボエ・ソナタ Op.166

Charles Camille Saint-Saëns / Sonate pour Hautbois avec accompagnement de Piano Op.166

I Andantino

II Allegretto

III Molto allegro

観客動員数：111人

(3) 第3回 魂の詩

日時：2014年10月11日(土)

17:00 受付開始 17:30 開場 18:00 開演

演奏者：須藤三千代(ヴィオラ)、浅野清(ピアノ)

演奏曲目：

ヨハン・セバスチャン・バッハ／無伴奏チェロ組曲 第6番 二長調 BWV1012

Johann Sebastian Bach / Suite Nr.6 für Violoncello solo

D-Dur BWV1012

Prélude

Allemande

Courante

Sarabande

Gavotte I-II-I

Gigue

フランツ・シューベルト／アルペジオーネ・ソナタ D821

Franz Schubert / Sonate für Arpeggione und Klavier D821

Allegro moderato

Adagio

Allegretto

ドミートリイ・ドミートリエヴィチ・ショスタコーヴィチ／ヴィオラ・ソナタ 作品147

Dmitrii Dmitrievich Shostakovich / Sonate für Viola und Klavier op.147

Moderato

Allegretto

Adagio

観客動員数：207人

6 演奏家プロフィール

赤城眞理(ピアノ)

仙台市生まれ。9歳で渡米。米国オハイオ州ハイデルベルグ大学音楽科卒業(ピアノ・理論)。クリエヴァンド音楽院大学院修了(ピアノ)。帰国後、仙台を中心にソロおよび室内楽の演奏活動始める。現在まで、主に現代曲や新作初演を中心に多数のコンサートに出演。新作初演は60作品を超える。その他、日本フィル、山形響、仙台フィルなどと共演。「現音・秋の音楽展」「日本の音楽展」「仙台アジア音楽祭」「アジア作曲家フォーラム・仙台」「ISCM 世界音楽の日々2001 横浜大会」などに出演。米国などでの招待演奏・レクチャー多数。宮城県芸術選奨新人賞、宮城県芸術選奨受賞。現在、宮城学院女子大学音楽科非常勤講師。

戸田智子(オーボエ)

1987年、岩手県生まれ。ボリビアに住んでいた父の影響で、幼少期よりアンデス地方の民俗音楽に親しむ。12歳よりオーボエ始める。盛岡白百合学園高校、弘前大学教育学部卒業。2014年3月、東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程修了。第18回日本クラシック音楽コンクール全国大会木管部門大学生の部第2位。第28回日本管打楽器コンクールオーボエ部門入選。藝大定期第40回室内楽演奏会に、トリオダンシュで出演。これまでにオーボエを鈴木繁、小畑善昭、和久井仁、池田昭子の各氏に師事。O・ヴィンター、H・シェレンベルガー、D・ヨナス、S・シーリ、T・インディアミュレ、R・ワン各氏のレッスンを受ける。室内楽を小畑善昭、岡本正之、日高剛の各氏に師事。2014年4月より、東京藝術大学管弦楽研究部非常勤講師(藝大フィルハーモニアオーボエ奏者)。

宇根美沙恵(ピアノ)

横浜雙葉高等学校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ

専攻卒業。その後同大学同学部楽理科卒業。PTNA ピアノオーディション、日本ピアノ教育連盟オーディション、かながわ音楽コンクールで入賞、入選。第16回 JILA 音楽コンクール室内楽部門第1位。主にアンサンブルピアニストとして様々な共演者と各地で幅広く活動している。現在、東京藝術大学管打楽科非常勤講師。(伴奏助手)

須藤三千代 (ヴィオラ)

青森県弘前市出身。東京藝術大学附属高校を経て同大学入学。同大学院に進む。在学中藝大オーケストラとバルトークのヴィオラ協奏曲を共演。1984年西ドイツ政府交換留学生としてハンブルク国立音楽大学に留学。ハンブルク国立歌劇場管弦楽団で活躍。1987年ディプロマ修得。1993～2000年にかけてエレオノーレ弦楽四重奏団ヴィオラ奏者としてドイツ各地で演奏、さらに津田ホールにてベートーヴェン全曲演奏を行った。浅妻文樹、深井碩章の両氏に師事。上野学園大学音楽学部非常勤講師。東京フィルハーモニー交響楽団首席ヴィオラ奏者。

浅野清 (ピアノ)

1981年マンハイム音楽大学演奏科を首席で卒業。ドイツ各地、パリでソロ及び室内楽の演奏会、シュヴェービッシュ・シンフォニーオーケストラとの共演等で好評を博し、有力紙等で絶賛される。カイゼルスラウテルン市立音楽学校専任講師、マンハイム音楽大学講師を務め、1984年帰国。リサイタルはもとより、大野一雄の舞踏公演を始め東京バレエ団や世界のトップバレリーナのためにも演奏を行い、以来数多くの器楽・声楽・映画の伴奏並びに室内楽リサイタルやオーケストラとの共演を重ねているほか、二度のベートーヴェン「32のソナタ」全曲演奏(1989～90、2006～07)、ドイツで行われた「フリッツ・ヴンダーリッヒ没後25年追悼演奏会」、ルーマニアの「国際現代音楽祭」で招待演奏をするなどソロリサイタルを中心に国内外で精力的に活躍している。

平成6年度青森県芸術文化奨励賞受賞。

米国テネシー大学マーチン校客員教授(1997年)。

弘前大学教育学部教授。

日韓パフォーミングアーツ新コンテンツ戦略事業

青森県立美術館テジョンコンサート

「青森県立美術館ピアノトリオコンサート」

～舞台背景画アレコが招き寄せた三人の音楽家～

1 事業概要

青森県立美術館では「青森県の個性豊かな芸術を世界に発信」するため、これまで「韓国」を中心にオリジナル作品、日韓共同制作演劇「ソウルの雨」「青森の雨」の創作・上演をし、過去2回、ソウル国際公演芸術祭へ招待されたほか、「全ての芸術の融合を目指す美術館」として、マルク・シャガールの描いた舞台背景画「アレコ」を背景とした韓国民族音楽コンサートなどを展開するなど韓国と深いつながりを持っている。

これらの実績の成果として韓国の文化芸術の中心である「大田(テジョン)文化芸術の殿堂」(大韓民国大田広域市)と青森県立美術館との共同制作・アーティスト交流により、大田文化芸術の殿堂での青森県立美術館コンサートを実施した。

2 公演詳細

開催日時：2014年8月1日(金) 19:30 開演

会場：大田(テジョン)文化芸術の殿堂(大韓民国大田広域市)

観客動員数：400人

出演者：

トリオ「Interno」(2011年青森県立美術館チャイコフスキーピアノトリオオーディション通過者)

矢野雄太 pf

藤原晶世 vn

藤原秀章 vc

演奏曲目：

チャイコフスキーピアノトリオ 偉大なる芸術家の思い出に



パンフレット

3 出演者プロフィール

67頁「ダンサー・俳優・演奏家による Aleko2014 青函ソウルヴァージョン」「6 出演者等プロフィール」を参照。

アレコホール演奏会

「冬の物語～韓国演奏家による～」

1 事業概要

韓国テジョン文化芸術の殿堂との共同主催により、平成26年度日韓舞台芸術交流事業として開催した。

この演奏会では、隣国である韓国からオーディションで選考された才気あふれる若き演奏家を青森県立美術館に招聘し、当館所蔵のマルク・シャガール作の舞台壁画「アレコ」が展示されているアレコホールにて、演奏を披露した。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館、韓国テジョン文化芸術の殿堂

監修：浅野清

韓国コーディネーター：石川樹里

プロデューサー：小笠原真理子

2 公演詳細

開催日時：2015年1月31日（土）18:00 開演

会場：青森県立美術館アレコホール

観客動員数：240人

演奏者及び演奏曲目：

(1) P.I. チャイコフスキー「ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35」より

P.I. Tchaikovsky / First movement from “Violin Concerto in D major, op.35”

第一楽章 Allegro moderato ～ Moderato assai

ヴァイオリン：澤田柊

ピアノ：浅野清

(2) F. リスト／超絶技巧練習曲 第12番 変ロ短調 「雪かき」

F. Liszt / Transcendental Étude No. 12 in B flat minor “Chasse-Neige”

ピアノ：ヤン・ユニ

(3) F. ショパン／「舟歌」嬰へ長調 作品60

F. Chopin / Barcarolle in F sharp major, op.60

ピアノ：ヤン・ユニ

(4) P.I. チャイコフスキー／カプリッチョ風小品 口短調 作品62

P.I. Tchaikovsky / Pezzo capriccioso op. 62

チェロ：クオン・ヒョンジン

(5) A. グラズノフ／吟遊詩人の歌 作品71

A. Glazunov / Chant du ménestrel op.71

チェロ：クオン・ヒョンジン

(6) A. ヴィヴァルディ／「四季」より「冬」

A. Vivaldi / the four Seasons

ヴァイオリン：チャン・ジンソン

(7) H. ハルヴォルセン／ヘンデルの主題による パッサカリヤ

H. Halvorsen / Passacaglia

ヴァイオリン：チャン・ジンソン

チェロ：クオン・ヒョンジン

(8) A. アレンスキー／ピアノ三重奏曲 第1番 二短調 作品32

A. Arensky / Piano Trio No.1 in D minor, op.32

Allegro moderato

Allegro molto

Adagio

Allegro non troppo

ピアノ：ヤン・ユニ

ヴァイオリン：チャン・ジンソン

チェロ：クオン・ヒョンジン

3 入場料金・チケット販売

料金：前売一般2,000円／前売学生1,000円／ペア券3,000円

※ペア券は前売りのみ販売

※当日は各500円増し

チケット販売場所：

・全国 ローソンチケット

・青森市 サンロード青森、成田本店しんまち店、青森県立美術館ミュージアムショップ

・弘前市 弘前大学生協、ヒロロ

・八戸市 八戸ポータルミュージアムはっち

※県内の小・中・高校生を先着60名様まで無料招待

4 来場者サービス

・無料託児サービス

演奏会の開場から終演までの間、キッズルームにて無料で託児サービスを実施。(ただし、1歳から)

・終演後の送迎サービス

演奏会終演後、青森駅までの無料送迎を実施。

・カフェ「4匹の猫」臨時営業

演奏会当日は、開場時間まで延長営業。

5 広報宣伝、営業概要

宣材物として、共通のチラシ・ポスターを作成し、県内文化施設・教育機関や、県内音楽教室・ダンス教室を中心に配布、掲示を依頼した。また、県内各地のコンサート等への折り込み、PA顧客等へダイレクトメールの配布を実施した。

そのほか、小・中・高校生無料招待を周知するため、県内小学校・青森市内中学校・吹奏楽部のある県内の高等学校へチラシを送付、対象の児童・生徒へのチラシ配布を実施した。

宣伝：

チラシ (A4版／カラー) 50,000部

ポスター (B2版／カラー) 30部

広報：

- ・新聞各社において告知・公演開催の模様を取材依頼。
- ・県内ラジオにおいて告知。



公演開催チラシ

6 出演者プロフィール

ヤン・ユニ (ピアノ)

ピアニスト、ヤン・ユニはソウル芸術高校を経てソウル大学音楽大を卒業後、ハンズ・アイスル口国立音大 (ドイツ) 専門演奏者過程 (Diplom) に首席入学および最優秀卒業、ハンブルグ国立音大 (ドイツ) 最高演奏者過程 (Konzertexamen) に首席入学して現在ドイツに居住、ヨーロッパで演奏活動を展開している。

彼女はすでに韓国内のさまざまなコンクールに入賞して頭角を現し、ドイツ Wiesbaden 国際コンクール 1 位、ハンブルグ Elise-Meyer コンクール 1 位、イタリア Giuliano Pecar 国際コンクールで 1 位なしの 2 位、および F. Chopin 特別賞、イタリア Luciano Gante 国際コンクール第 3 位および最高女性演奏者賞、スイス Clara Haskil 国際コンクール決選、フィンランド Helsinki Maj Lind 国際コンクール準決勝、ベルギー Queen Elisabeth 国際コンクール本戦など、海外の有名コンクールで高く評価された。こうした演奏は TV とラジオを通じてヨーロッパ全域に放送され、イギリスのグラモフォン・マガジンなど有名メディアにも取り上げられて、素晴らしい演奏力と卓越した音楽性を兼ね備えたピアニストとして実力を認められた。

サンタンデル国際音楽フェスティバル (スペイン)、フランス Musique en Vallee du Tarn フェスティバル、モンテプルチアーノ (イタリア) Montepulciano "Palazzo Ricci" 音楽フェスティバルなど、さまざまな舞台に独奏および室内楽演奏者として招かれ、演奏しただけでなく、ソウル大学全額奨学金とドイツ政府奨学金 (DAAD)、Oscar und Vera-Ritter Stiftung を授与された。

現在、ハンブルグ国立音大 (ドイツ) で学業を続ける一方、ピアノ実技講師 (Lehrbeauftragte) として教えている。オ・ユンジュ、チェ・ヒヨン、Michael Endres、Fabio Bidini、Evgeni Koroliy に師事。

クオン・ヒョンジン (チェロ)

深みのある音楽性で優雅な旋律を奏でるチェリスト、クオン・ヒョンジンは、わずか 10 才でオーケストラと共演した

のを皮切りに、韓国内の数多くのコンクールで受賞を果たし、Kronberg Cello Camp (ドイツ) に参加、Summer Music Camp でチャイコフスキー・コンクールの 1 位受賞者である Kirill Rodin 教授に抜てきされてロシアに留学した。2007 年、M.Yelsky International String Bow Instruments Contest で第 1 位受賞、Project Emil Gilels and Leonid Kogan 主催・若い音楽家のためのコンサート・オーディションに抜擢されて数回演奏したほか、2011 年、Ippolitov Ivanov International Competition 第 2 位、2012 年 Shabyt Astana International Competition では第 1 位を獲得した。また、Yuri Bashmet が音楽監督を務めるニュー・ロシア・オーケストラと共演したほか、2014 年 Turgenev Museum 招請独奏会とテジョン芸術の殿堂 Summer New Artist Concert に抜擢されて独奏会を開いた。キム・ヒョンシル、パク・ギョンオク、Kirill Rodin に師事し、現在、モスクワ音楽大学院過程に在学中。

チャン・ジンソン (ヴァイオリン)

ヴァオリニスト、チャン・ジンソンは、テジョン芸術高等学校、ソウル大学音大を経て、Lubeck (ドイツ) の Musikhochschule Lubeck に入学し、世界的な演奏者であり指導教授である Feng Ning の格別の関心と信頼のうちに Bachelor of Musik 課程を卒業した。その過程でしっかりした基本技と多様なテクニック、繊細な表現技法を身につけ、華やかで華麗なテクニックを持つ演奏者としての評価に加え、熱い情熱と音楽的な深みを持つ演奏者として成長をとげた。以来現在まで、フランクフルト・アム・マイン に位置する Hochschule für Musik und Darstellende Kunst において Susanne Stoodt に師事している。

ソウル・シンフォニー・オーケストラなど、数多くのオーケストラと共演し、多彩な演奏活動と国内外でのさまざまな音楽キャンプ、大関嶺国際音楽祭などへの参加により実力を認められている。現在はドイツの音楽大学が主催する各種演奏会で演奏しており、マインツの Schott Verlag が主催した Hindemith Konzert に招かれて演奏するなど、将来が囑望される若い音楽家として経験を積み、演奏を磨いている。

澤田柊 (ヴァイオリン)

2002 年生まれ。4 歳より熊谷啓幸氏にヴァイオリンを師事。「第 14 回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール」本選 入選、「第 9 回パッハホール音楽コンクール」加美町教育長賞受賞、「第 22 回日本クラシック音楽コンクール」全国大会 入選。これまでに村山弘氏、水野佐智香氏にレッスンを受ける。2010 年「amf オープンクラス」にて瀬川光子氏のヴァイオリンクラス受講。2013 年「国際音楽祭 NIPPON」にて諏訪内晶子氏のマスタークラス修了。現在 弘前大学教育学部附属中学校 1 年生。弘前市在住。

浅野清 (ピアノ)

71 頁「アレコホール定期演奏会 2014『舞台背景画アレコが招き寄せた 5 人の演奏家』」「6 演奏家プロフィール」を参照。

映画

映画上映「特集・高倉健」

1 事業概要

近年、舞台芸術部門では、東アジアにおける青森県立美術館の地位確立を目指し、中国、韓国との事業を積極的に進めているほか、2017年開通の青函を繋ぐ北海道新幹線の開業効果を獲得するため青函交流等に力を入れている。

今年度の映画事業では、中国や青函に関する作品に注目し、県民の芸術文化に対する意識向上も視野に、日本を代表する俳優・高倉健の主演作品「八甲田山」「海峡」をはじめ、それに関連する作品を連続上映した。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会
上映協力：東宝株式会社、角川映画株式会社、株式会社シナノ企画、株式会社フジテレビジョン、青森映研、株式会社シネマ英雄（順不同）

2 入場料金・チケット販売

料金：

前売一般 1,000円 / 前売学生 500円 / 前売 60歳以上 800円

※当日は全て 200円増し

団体料金 500円（10名以上）

※事務局での予約販売のみ。

全作品通し券 4,000円（すべての作品・上映回で入場可能）

※事務局での予約販売のみ。

チケット販売場所：

- ・全国 ローソンチケット
- ・青森市 サンロード青森、成田本店しんまち店、青森県立美術館ミュージアムショップ
- ・弘前市 弘前市まちなか情報センター
- ・五所川原市 ELM インフォメーション
- ・八戸市 八戸ポータルミュージアムはっち

3 広報宣伝、営業概要

上映会宣材物として、チラシ・ポスターを作成し、青森県内映画館、PA顧客等へダイレクトメールの配布を実施した。

また、青森市内と近隣市町村の老人クラブ、青森市内の飲食店へ集中的にチラシ配布を実施した。

宣伝：

- ・チラシ（B5版／カラー）30,000部
- ・ポスター（B2版／カラー）200部

広報：

- ・新聞各紙において公演情報・チケットプレゼント記事の掲載
- ・テレビ、ラジオ番組において公演情報の告知
- ・各市町村発行の広報誌への情報掲載
- ・青森県内コンビニエンスストア（ローソン・ファミリーマート）でのチラシ掲示 等



公演開催チラシ

4 公演詳細

会場：青森県立美術館シアター

席数：200席（全席自由）

上映作品（全8作品）：

- ・「あ・うん」
（1989年 カラー 114分 35ミリフィルム上映）
- ・「夜叉」
（1985年 カラー 128分 35ミリフィルム上映）
- ・「君よ憤怒の河を渉れ」
（1976年 カラー 151分 デジタル上映）
- ・「野性の証明」
（1978年 カラー 143分 デジタル上映）
- ・「八甲田山」
（1978年 カラー 169分 DVD 上映）
- ・「南極物語」
（1983年 カラー 145分 デジタル上映）
- ・「海峡」
（1982年 カラー 142分 35ミリフィルム上映）
- ・「単騎、千里を走る。」
（1982年 カラー 108分 35ミリフィルム上映）

上映日時：

2014年6月28日（土）

10:30開演「あ・うん」…①

14:00 開演「夜叉」…①

2014年6月29日(日)

10:30 開演「夜叉」…②

14:00 開演「あ・うん」…②

2014年10月12日(日)

10:30 開演「君よ憤怒の河を渉れ」…①

14:00 開演「野性の証明」…①

2014年10月13日(月・祝)

10:30 開演「野性の証明」…②

14:00 開演「君よ憤怒の河を渉れ」…②

2014年10月18日(土)

10:30 開演「八甲田山」…①

14:30 開演「南極物語」…①

2014年10月19日(日)

10:30 開演「南極物語」…②

14:30 開演「八甲田山」…②

2014年10月25日(土)

10:30 開演「海峡」…①

14:00 開演「単騎、千里を走る。」…①

2014年10月26日(日)

10:30 開演「単騎、千里を走る。」…②

14:00 開演「海峡」…②

※各回開演の20分前開場

観客動員数：708人(全16上映)

作品名	上映①	上映②	計
「あ・うん」	77	33	110
「夜叉」	45	67	112
「君よ憤怒の河を渉れ」	38	44	82
「野性の証明」	21	46	67
「八甲田山」	57	44	101
「南極物語」	39	28	67
「海峡」	55	48	103
「単騎、千里を走る。」	30	36	66
計	362	346	708

2015 青森県立美術館シアター 映画フィルム上映

1 事業概要

今年度の映画事業では中国や青函に関する作品に注目し、県民の芸術文化に対する意識向上も視野に日本を代表する俳優・高倉健の主演作品の特集上映を2014年6月から10月にかけて実施した。

一方で、文化庁と東京国立近代美術館フィルムセンターでは、広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供するため、日本各地の公立文化施設と連携・協力して、所蔵映画フィルムの巡回上映を全国の会場で実施している。

上映可能作品の中に高倉健主演作品が含まれることと、この「優秀映画鑑賞推進事業」の趣旨に賛同し、全作品35ミリフィルムでの映画上映会を開催した。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、

文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター

協賛：松竹ブロードキャスティング株式会社

協力：株式会社オーエムシー

2 広報宣伝、営業概要

上映会宣材物として、チラシ・ポスターを作成し、青森県内映画館、PA顧客等へダイレクトメールの配布を実施した。

宣伝：

- ・チラシ (B5版/カラー) 10,000部
- ・ポスター (B2版/カラー) 30部

広報：

- ・6月、10月に開催した映画上映時(「特集・高倉健」)に、観客へのチラシ配布
- ・新聞各紙において公演情報記事の掲載
- ・テレビ・ラジオ番組において公演情報の告知
- ・各市町村発行の広報誌への情報掲載
- ・青森市内と近隣市町村の老人クラブへのチラシ発送
- ・青森市内ショッピングセンター・スーパーマーケットでのポスター掲示



公演開催チラシ

3 公演詳細

会場：青森県立美術館シアター

席数：200席（全席自由）

料金：1作品につき500円（前売・当日とも同額。各回入替制）

上映作品（全4作品）：

- ・「不知火検校」
（1960年 白黒 91分 35ミリフィルム上映）
- ・「次郎長三国志」
（1963年 カラー 102分 35ミリフィルム上映）
- ・「網走番外地」
（1965年 白黒 91分 35ミリフィルム上映）
- ・「人生劇場 飛車角と吉良常」
（1968年 カラー 109分 35ミリフィルム上映）

上映日時：

① 2015年1月10日（土）

- 10:30 開演 「網走番外地」
- 13:00 開演 「人生劇場 飛車角と吉良常」
- 15:30 開演 「不知火検校」
- 18:00 開演 「次郎長三国志」

② 2015年1月11日（日）

- 10:30 開演 「人生劇場 飛車角と吉良常」
- 13:00 開演 「網走番外地」
- 15:30 開演 「次郎長三国志」
- 18:00 開演 「不知火検校」

③ 2015年1月12日（月・祝）

- 10:30 開演 「不知火検校」
- 13:00 開演 「次郎長三国志」
- 15:30 開演 「網走番外地」
- 18:00 開演 「人生劇場 飛車角と吉良常」

※各回開演の20分前開場

観客動員数：283人（全12上映）

作品名	上映①	上映②	上映③	計
「不知火検校」	23	8	15	46
「次郎長三国志」	15	14	13	42
「網走番外地」	44	44	22	110
「人生劇場 飛車角と吉良常」	52	26	7	85
計	134	92	57	283

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム

博物館実習

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (148.76㎡)	2,180 円	3,480 円	1 時間 870 円
B (60.47㎡)	900 円	1,440 円	1 時間 360 円
C (131.30㎡)	1,930 円	3,080 円	1 時間 770 円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 コミュニティギャラリーの1室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーが使用できない場合があります。

■ 企画展示室

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (182.70㎡)	2,550 円	4,080 円	1 時間 1,020 円
B (140.39㎡)	2,050 円	3,280 円	1 時間 820 円
C (389.51㎡)	5,650 円	9,040 円	1 時間 2,260 円
D (228.06㎡)	3,330 円	5,320 円	1 時間 1,330 円
E (105.91㎡)	1,530 円	2,440 円	1 時間 610 円
映像室 (70.38㎡)	1,030 円	1,640 円	1 時間 410 円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 企画展示室の使用については、県立美術館との共催事業に限ります。

② シアター等を使用する場合

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)
シアター [220 席] (348.20㎡)	1 時間 2,460 円
映写室 (36.36㎡)	1 時間 260 円
アナウンスブース (6.35㎡)	1 時間 50 円
ワークショップ A (124.38㎡)	1 時間 920 円
ワークショップ B (185.28㎡)	1 時間 1,330 円
暗室 (22.45㎡)	1 時間 160 円
スタジオ (100.98㎡)	1 時間 740 円
映像編集室 (24.77㎡)	1 時間 180 円
スタジオ映写室 (28.88㎡)	1 時間 210 円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 暗室は、ワークショップ A を利用する場合、又はワークショップ A が利用されていないとき使用できます。
- ※ 3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できます。
- ※ 4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できます。

(3) 使用期間

① 展示施設

- ・コミュニティギャラリーは原則として月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。
- ・企画展示室については1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。

② シアター等

- ・1時間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き10日を超えることはできません。

③ 美術館のすべての施設

- ・美術館の休館日は、使用できません。(準備、撤去作業の場合は除く。)
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとします。

(4) 使用時間

① 美術館の施設使用時間は、美術館の開館時間〔9時30分から17時まで(6月-9月は、9時から18時)〕とします。なお、施設使用上やむを得ない理由があると認められる場合には、閉館後、1時間単位で21時(シアター利用に限り22時)まで延長することができます。開館時間前の使用については、ご相談ください。

② 施設使用時間には、展覧会等の準備の時間及び撤収の時間も含まれます。(延長した場合であっても21時(シアターについては22時)には撤収が完了していなければなりません。)

③ 展示施設は、9時30分から12時、13時から17時の使用区分とし、それ以外は1時間単位での使用とします。

④ シアター等は、1時間単位での使用とします。

■コミュニティギャラリー

(単位：人)

使用期間	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
3/28-4/6	サッポロ未来展実行委員会	サッポロ未来展 in Sapporo & Aomori	A B C ワークショップA	503
5/18-5/19	(株)パディーズ	コタスタイリストアワード2014	A B C シアター	100
6/22	青森朝日放送(株)	マサックのスーパー実験室ロケ	A	10
6/27-6/29	(株)田名部組	未来をのぞく住宅展	A B C	69
8/19-8/29	青森県(観光交流推進課)	韓国 チョ・セヒョン青森写真展	A B C ワークショップA	900
8/30-8/31	住友生命保険相互会社	第38回スミセイこども絵画コンクール	A B C	50
9/1-9/3	一般財団法人青森県文化振興会議	県展2014(審査)	A B C	30
9/9-10/28	青森放送(株)	篠山紀信展 写真力	A B C シアター	18,209
9/22-9/23	大学生観光まちづくりコンテスト運営協議会	大学生観光まちづくりコンテスト2014 北日本ステージ(本選)	シアター 映写室 ワークショップA B	280
10/30-11/2	柳谷俊彦	作品展 RECEPTOR	B	120
11/7-11/9	(株)協同	住まいの博覧会	A B C	70
11/11-11/13	一般財団法人青森県文化振興会議	県展2014	A B C	1,431
11/28-11/30	MOA美術館青森児童作品展実行委員会	第26回MOA美術館青森児童作品展	A B C シアター	1,075
12/5-12/7	青森県高等学校文化連盟写真部	第36回青森地区高等学校写真展	A B C	100
12/11-12/14	ニコールクラブ青森支部	第19回ニコールクラブ青森支部写真展	A	230
12/20-12/21	東津軽郡小学校教育研究会	第46回東郡児童美術展	A	329
12/26	(株)リーベルリータ	女性の美しさを高めるプロテオグリカン対談	B	8
1/17-1/18	社会福祉法人 平舘福祉会	エコル作品展	A	78
1/22-1/26	協同組合 日専連青森	第24回日専連全国児童版画コンクール青森地区展覧会	A B C	1,267
1/27	長谷川正之	青森県写真館協会 2015新春セミナー	C	30
2/6-2/9	すまいのエコロジー展実行委員会	第5回すまいのエコロジー展	A B C ワークショップB	300

■シアター・映写室

(単位：人)

使用期間	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
6/15	(株)サムライスピリッツ クリエイティブ	映画上映 復興ドキュメンタリー映画 「僕らはここで生きていく」	シアター 映写室	60
6/22	青森映研	「こびと劇場3」	シアター 映写室	210
7/19-20、10/11	環境生活部県民生活文化課長	映像クリエイション講座	スタジオ	68
8/7-9	(有)弘前劇場	弘前劇場公演2014「四人目の黒子」	シアター 映写室	257
11/14-11/15	ひろさき芸術舞踊実行委員会	こども達と共に成長する舞台2014	シアター 映写室	161
2/10-2/11	NPO弘前劇場	ドラマリーディングの公演	スタジオ	80
2/21-2/22	県民生活文化課	映像クリエイション講座	シアター スタジオ	127
3/10	青森大学演劇団「健康」	青森大学演劇団「健康」自主公演	シアター スタジオ	40

合計 26,192人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

また、図書室所蔵の絵本を利用し、当館キッズルームでおはなし会を開催するなど、当館の美術教育普及事業の支援機関としての機能も担っている。

設備：来館者用パソコン端末 2台、図書閲覧席 20席

開館日・開室時間：美術館開館日の10:00 - 16:00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1～3を理解するために必要なものを購入および寄贈により収集した。

蔵書数（平成26年度3月末現在）

- ・美術図書 4,412冊
- ・デザイン・建築関係図書 414冊
- ・写真関係図書 389冊
- ・絵本・イラスト関係図書 1,285冊
- ・民俗・歴史関係図書 411冊
- ・音楽・映画・舞台関係図書 787冊
- ・展覧会カタログ 11,513冊
- ・その他（自然科学、文学など） 1,663冊
- ・雑誌（60タイトル）9,862冊 ※継続購入は20タイトル

サービス

図書資料閲覧

所蔵美術作品、蔵書のデータベース検索

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

美術に関するポスターやチラシの設置

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：312日

利用者数：4,607人

レファレンス利用件数：13件

	入室者数（人）			レファレンス（件）	
	月計	月計	1日平均	月計	1日平均
4月	23	249	10.8	0	0.0
5月	29	451	15.6	0	0.0
6月	24	331	13.8	0	0.0
7月	29	536	18.5	0	0.0
8月	29	1,152	39.7	4	0.1
9月	24	577	24.0	2	0.1
10月	29	517	17.8	1	0.0
11月	23	180	5.4	3	0.1
12月	25	106	4.2	0	0.0
1月	26	140	5.4	0	0.0
2月	26	186	7.2	2	0.1
3月	25	237	9.5	1	0.0
計	312	4,662	14.8	13	0.4

事業

1 美術館事業への支援・事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。

また、当館キッズルームで行ったおはなし会に所蔵絵本を活用した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、約500冊の絵本をはじめとして、スイスのnaef（ネフ）社製やおもり木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木やお絵かきを自由に楽しめる空間となっている。

また、当館サポートスタッフによる「おはなし会」を定期的に開催し、絵本の読み聞かせや美術体験などを通じて美術や美術館への関心を高める活動を行っている。

利用実績

開室時間：土日祝日及び企画展開催時の平日 10:00 - 15:00

平成26年度キッズルーム利用実績

	開室日数(日)		入室者数(人)		月計	平均
	月計	子ども	おとな	月計		
4月	19	60	75	135	7.1	
5月	29	86	115	201	6.9	
6月	14	65	72	137	9.8	
7月	20	102	111	213	10.7	
8月	29	387	369	756	26.1	
9月	15	144	130	274	18.3	
10月	26	128	152	280	10.8	
11月	23	98	98	196	8.5	
12月	9	35	34	69	7.7	
1月	11	34	48	82	7.5	
2月	9	64	71	135	15.0	
3月	9	52	72	124	13.8	
計	213	1,255	1,347	2,602	12.2	

「キッズルームおはなし会」実施状況

未就学児とその保護者を主な対象に、美術や美術館に親しみを持つきっかけ作りの場として、絵本読み聞かせ、美術体験などを行う「おはなし会」を開催した。

企画運営は、当館職員及びサポートスタッフが担当した。

- (1) 5月24日(土) 10:30 - 11:30 びりびりとあそぶ
- (2) 6月28日(土) 10:30 - 11:30 ぐるぐるとあそぶ
- (3) 7月26日(土) 10:30 - 11:30 びちょびちょとあそぶ
- (4) 8月23日(土) 10:30 - 11:30 ぬるぬるとあそぶ
- (5) 9月27日(土) 10:30 - 11:30 ぱたぱたとあそぶ
- (6) 10月25日(土) 10:30 - 11:30 ぼろぼろとあそぶ
- (7) 11月22日(土) 10:30 - 11:30 ふわふわとあそぶ
- (8) 12月20日(土) 10:30 - 11:30 クリスマス特別版

(9) 2015年1月24日(土) 10:30 - 11:30

あかるいくらいとあそぶ

(10) 2015年2月28日(土) 10:30 - 11:30 ゆきとあそぶ

全10回開催 参加者：851人



絵本読み聞かせ



美術体験「あかるいくらいとあそぶ」

博物館実習

概要

博物館法施行規則第1条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2014年8月18日（月）－8月22日（金）

実習指導：青森県立美術館職員他

実習生：8名

秋田公立美術大学（1名）、岩手大学（1名）、
実践女子大学（1名）、筑波大学（1名）、東京学芸大学（1名）、
新潟大学（1名）、宮城学院女子大学（1名）、弘前大学（1名）

プログラム

平成26年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第1日目 8月18日（月）

- ・オリエンテーション
- ・青森県立美術館の概要
- ・学芸員の仕事
- ・美術館の施設およびサイン計画（＋施設見学）
- ・美術館におけるパフォーマンス活動
- ・実習日誌作成

第2日目 8月19日（火）

- ・コレクションの形成
- ・作品の保存・管理
- ・作品の取扱いおよび調書作成（日本画、油彩画、立体、紙作品）
- ・地域に根ざした美術館の役割（世界・イギリスの事例を参考に）
- ・地域の芸術文化の発信（国内・青森県立美術館の取組を参考に）
- ・実習日誌作成

第3日目 8月20日（水）

- ・展覧会の企画と実施①（「美少女の美術史」展見学）
- ・展覧会の企画と実施②（常設展見学）
- ・展示デザイン（展示方法、造作、照明、キャプション等）
- ・館長講話
- ・美術館の教育普及活動
- ・実習日誌作成

第4日目 8月21日（木）

- ・来館者対応と美術館のホスピタリティについて
- ・作品監視の体験および報告会
- ・展覧会の運営および広報活動（参考：「美少女の美術史」展）

- ・[演習] 展覧会を企画してみよう①
（テーマの設定、作品リストの作成）
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう②（普及活動の設定）
- ・実習日誌作成

第5日目 8月22日（金）

- ・[演習] 展覧会を企画してみよう③（展示プランの作成）
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう④
（展示上の留意点について整理）
- ・[演習] 企画した展覧会を発表してみよう
- ・実習日誌作成

資料

広報

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

広報

県の広報媒体を活用した広報活動や、Twitter・Facebook等のソーシャルメディアネットワークによる活動を展開した。また、今年度からスマートフォン・タブレット端末に対応するホームページの運用を開始した。

(1) 県広報による実績

- ・ABA「メッセージ」
- ・ATV「こんにちは、県庁です」
- ・RAB ラジオ「広報タイム」
- ・エフエム青森「あおもり・ふぁん」
- ・メルマガあおもり
- ・東奥日報、デーリー東北、陸奥新報「広報あおもりけん」
- ・県民だより

(2) ソーシャルメディアネットワーク

- ・Twitter
アカウント：aomori_museum_of_art@aomorikenbi
- ・Facebook
アカウント：https://www.facebook.com/aomori.museum
- ・Youtube
アカウント：http://www.youtube.com/user/aomorikenbi

(3) ホームページ

URL：http://www.aomori-museum.jp（PC版）
http://www.aomori-museum.jp/ja_mobile（モバイル版）
年間アクセス数（2014.4 - 2015.3）：497,647件

(4) 雑誌等掲載実績（主なもの、順不同）

- ・美術手帖
- ・美術の窓
- ・rakra
- ・じゃらん
- ・まっぶるマガジン
- ・るるぶ
- ・ことりっぷ
- ・JAL 機内誌 skyward
- ・Casa BRUTUS
- ・オズマガジン
- ・和楽
- ・walker Plus
- ・FINE BOYS ほか多数

広聴

青森県立美術館運営諮問会議

青森県立美術館の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため設置。

知事の諮問に応じて美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べるほか、美術館の運営に関する助言を行う。

青森県立美術館運営諮問会議委員：

青木淳氏（青森県立美術館設計者）

奈良美智氏（本県出身アーティスト）

熊倉純子氏（東京芸術大学音楽学部教授）

開催状況

第 14 回

開催日：2014 年 11 月 27 日（木）

会場：青森県立美術館

県民のための美術館づくり懇話会

県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的に設置。

平成 26 年度

懇話会委員

座長：長尾慶子（青森市立橋本小学校前校長）

副座長：新渡戸常憲（十和田市立新渡戸記念館館長）

委員：江川静英（青森大学経営学部教授）

委員：野坂佳孝（十和田市立南小学校教諭）

委員：北川ちや子（青森県立美術館サポートスタッフ）

委員：小倉学（八戸クリニック街かどミュージアム学芸員）

委員：鷹山ひばり（青森県立美術館館長）

開催状況

開催日：2015 年 3 月 7 日（土）

会場：青森県立美術館

入館者数

(単位：人)

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度①	26年度②	増減(②-①)
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	190,672	233,192	141,904	177,266	179,793	73,541	△ 106,252
	スクールプログラム	12,685	6,968	6,668	9,098	11,574	6,777	5,798	3,712	3,845	133
	常設展計	206,186	96,197	116,277	199,770	244,766	148,681	183,064	183,505	77,386	△ 106,119
企画展	シャガール展	192,918									
	縄文と現代展	14,894									
	工藤甲人展	1,680	10,950								
	旅順博物館展		30,065								
	舞台芸術の世界展		6,282								
	棟方志功・崔榮林展		4,156								
	寺山修司展			9,533							
	大ナボレオン展			46,609							
	小島一郎展			8,660							
	ウィーン展				36,884						
	(特別展 太宰治と美術展)				(23,191)						
	馬場のぼる展				25,464						
	ラブラブショー				5,160						
	ローマ展					45,622					
	ロボット展					25,076					
	芸術の青森展					3,530					
	印象派展						105,758				
	今和次郎展						4,807				
	フィンランド展							31,876			
	Art and Air 展								18,267		
	奈良美智展								80,275		
	種差展									16,807	
	横尾忠則展									10,516	
日本の民家展									5,115		
工藤哲巳展										5,056	
美少女展										33,866	
関野準一郎展										8,158	
企画展計	209,492	51,453	64,802	67,508	74,228	110,565	130,418	32,438	47,080	14,642	
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	9,242	7,087	7,272	7,368	6,310	5,792	4,214	△ 1,578
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	886	718	11,365	2,565	2,744	1,575	△ 1,169
	お出かけ講座	1,196	1,587	1,122	1,119	537	1,250	1,022	1,245	383	△ 862
	展示関係プログラム			625	1,526	7,546	1,328	909	1,738	932	△ 806
	その他	500		464	266	399	387	351	136	200	64
	教育普及計	22,771	13,640	14,326	10,884	16,472	21,698	11,157	11,655	7,304	△ 4,351
パフォーマンス アート	演劇	2,170	1,821	1,516	1,333	1,085	2,962	3,468	5,255	2,258	△ 2,997
	ダンス			1,419	1,089	520			339	699	360
	音楽	1,559	471	1,583	1,959	970	979	1,133	810	469	△ 341
	映画	975	1,954	1,584	685				240	991	751
	パフォーマンスアート計	4,704	4,246	6,102	5,066	2,575	3,941	4,601	6,644	4,417	△ 2,227
貸館	10,268	26,481	194,807	104,625	144,520	20,735	33,410	126,284	26,192	△ 100,092	
図書室	2,552	7,727	12,910	10,012	7,864	6,561	10,688	6,818	4,662	△ 2,156	
キッズルーム		2,850	3,690	3,127	3,555	20,501	15,889	4,267	2,602	△ 1,665	
合計	455,973	202,594	412,914	400,992	493,980	332,682	389,227	371,611	169,643	△ 201,968	

※ キッズルームは平成19年4月28日からオープン

※ 特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数に含む

運営予算・決算

平成 26 年度 一般会計予算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	41,111	使用料及び手数料	168,939	職員費	人件費
	1,670	財産収入			
	21,454	繰入金	439,824	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ県民参加活性化事業 他
	102,675	諸収入			
	457,271	一般財源	15,418	公園管理費	三内丸山遺跡等管理費、青森県総合運動公園維持補修費
合計	624,181		624,181		

平成 26 年度 一般会計決算額

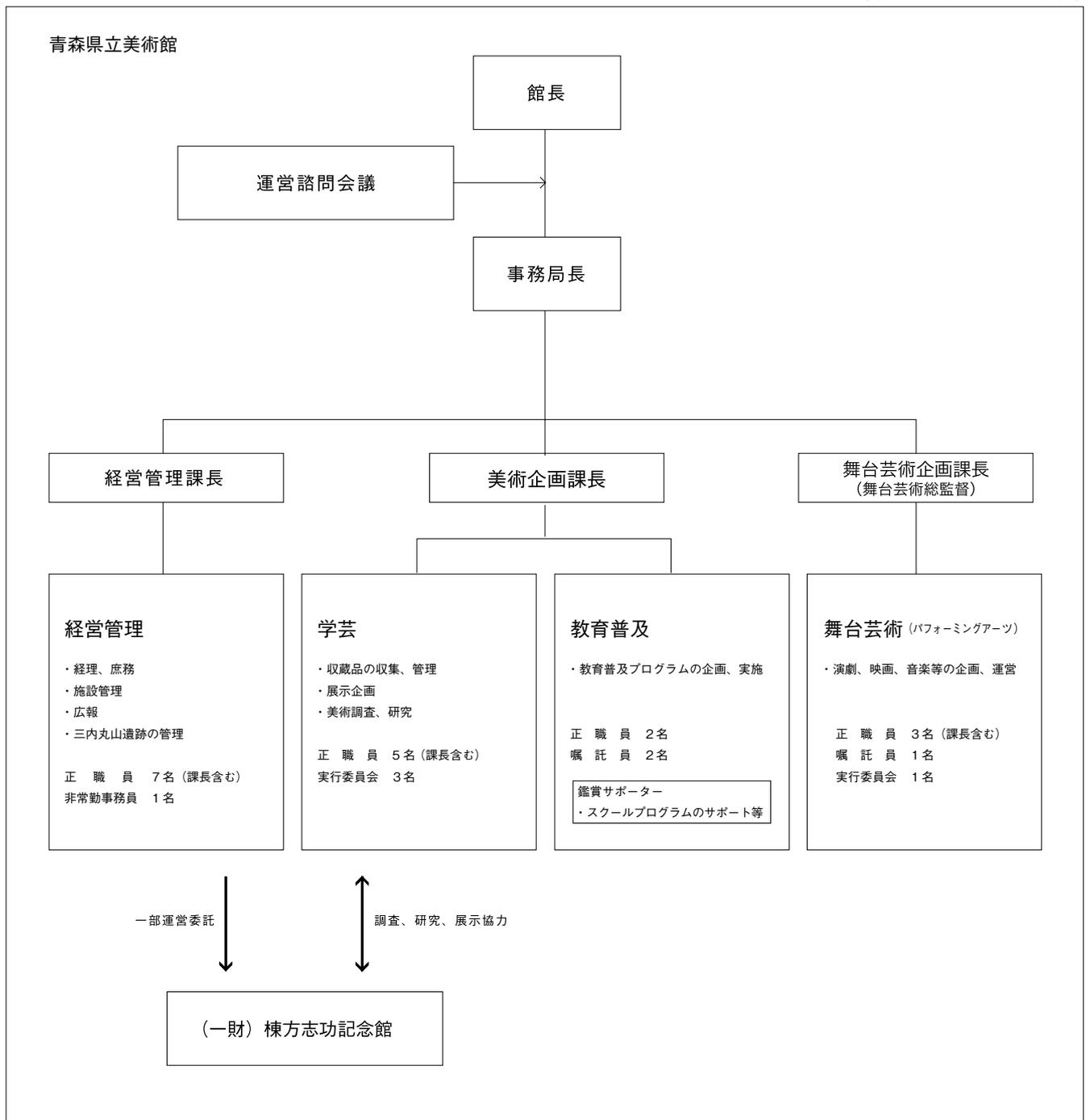
(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	33,510	使用料及び手数料	163,575	職員費	人件費
	626	財産収入			
	69,157	繰入金	386,208	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ県民参加活性化事業 他
	17,790	諸収入			
	443,384	一般財源	14,684	公園管理費	三内丸山遺跡等管理費、青森県総合運動公園維持補修費
合計	564,467		564,467		

組織

- 県立美術館の運営は、運営諮問会議からの助言を得ながら行っている。
 - 文化観光の拠点形成を図る観点から、三内丸山遺跡（縄文時遊館を除く）との一体運営を行っている。
 - このために館長、県職員 18 人、嘱託員及び非常勤事務員 4 人の計 23 人が美術館運営にあっている。
- このほか、企画展実行委員会職員 3 名、パフォーミングアーツ実行委員会職員 1 名が配置されている。

(平成 26 年 4 月 1 日現在)



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則

この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から十二時まで	十三時から十七時まで	九時三十分以前、十二時から十三時まで及び十七時以降（一時間につき）
コミュニティギャラリーA	二千八百八十円	三千四百八十円	八百七十円
コミュニティギャラリーB	九百円	千四百四十円	三百六十円
コミュニティギャラリーC	千九百三十円	三千八十円	七百七十円
展示室A	二千五百五十円	四千八十円	千二十円
展示室B	二千五十円	三千二百八十円	八百二十円
展示室C	五千六百五十円	九千四十円	二千二百六十円
展示室D	三千三百三十円	五千三百二十円	千三百三十円
展示室E	千五百三十円	二千四百四十円	六百十円
映像室	千三十円	千六百四十円	四百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合 イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百六十円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップA	九百二十円
ワークショップB	千三百三十円
暗室	百六十円
スタジオ	七百四十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合 イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十五万八千六百円
売店施設	六十八万四千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の事務局長は（以下「事務局長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

（休館日等）

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二、第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日にあたるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 事務局長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外に休館することができる。

（使用の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該申込者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 事務局長は、美術館を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限する

ことができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、事務局長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 事務局長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特殊教育諸学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条

第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。） 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）

使用料の全部の額
五 前各号に掲げるもののほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第1号、第2号及び第5号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第4号様式）を事務局長に提出しなければならない。

3 事務局長は、条例別表第2号又は第3号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 事務局長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となって、美術館と共催し使用するとき 使用料の2分の1に相当する額を基本として事務局長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、事務局長が特別の理由があると認めるとき 事務局長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第5号様式）を事務局長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第7条 事務局長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第8条 事務局長は、別に定めるところにより美術資料の寄託

又は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第9条 事務局長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第6号様式）を事務局長に提出しなければならない。

附則

この規程は、平成18年7月13日から施行する。

この規程は、平成19年6月25日から施行する。

青森県立美術館運営諮問会議設置要綱

（趣旨）

第1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）の使命に基づく運営の実現に向けて、芸術文化に造詣のある者から指導及び協力を受けるため、青森県立美術館運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

（所掌事務）

第2 諮問会議は、次に掲げる事項を所掌する。

（1）青森県立美術館長（以下「館長」という。）の諮問に依りて、美術館の運営に関する重要事項について審議し、意見を述べること。

（2）その他美術館の運営に関して助言を行うこと。

（組織等）

第3 諮問会議は、委員をもって組織する。

2 委員は、所掌事務に関して学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

（任期）

第4 委員の任期は、委嘱をした日から当該委嘱をした日の属する年度の翌年度の3月31日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

（会議）

第5 諮問会議は、館長が招集する。

2 諮問会議の進行は、青森県立美術館事務局長が務める。

3 諮問会議には、委員の同意により必要に応じて委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

（庶務）

第6 諮問会議の庶務は、青森県立美術館経営管理課において処理する。

（その他）

第7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、青森県立美術館事務局長が別に定める。

附則

1 この要綱は、平成17年12月1日から施行する。

2 第4第1項の規定にかかわらず、当初の委員の任期は、委

嘱をした日から平成 19 年 3 月 31 日までとする。

附 則

この要綱は、平成 21 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 25 年 3 月 21 日から施行する。

県民のための美術館づくり懇話会設置要綱

(趣旨)

第 1 県民に親しまれ、愛される美術館づくりを推進するため、県民の意見・要望を美術館づくりに反映させることを目的とし、県民のための美術館づくり懇話会（以下、「懇話会」という。）を設置する。

(構成)

第 2 懇話会は、10 名以内の委員をもって構成する。

(任期)

第 3 委員の任期は、年度最初の懇話会開催から 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第 4 懇話会には、座長及び副座長を置く。

2 懇話会は、座長が招集する。

3 座長は、会議の進行を行う。

4 副座長は、座長を補佐し、座長が会議に出席できないときは、座長の職務を代理する。

5 座長は、必要に応じ委員以外の者を出席させることができる。

(報酬等)

第 5 委員の報酬は無償とする。

(庶務)

第 6 会議の庶務は、青森県立美術館が行う。

(補則)

第 7 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、座長が別に定める。

附則

この要綱は、平成 19 年 9 月 13 日から施行する。

施設設備概要

建設概要

施設名称	青森県立美術館
所在地	青森市大字安田字近野 185
主用途	美術館
事業主体	青森県
設計管理	青木淳建築計画事務所 構造：金箱構造設計事務所 設備：森村設計 音響：永田音響設計 土系素材：I N A X
施 工	竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体 強電：きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体 弱電：奈良・高田特定建設工事共同企業体 空調：高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体 衛生：芝管・五戸特定建設工事共同企業体 昇降機：三菱電機株式会社
面 積	敷地面積：129,536.37㎡ 建築面積：7,223.07㎡ 延床面積：21,222.19㎡ 地下2階：4,736.15㎡ 地下1階：3,965.11㎡ 1階：5,339.02㎡ 2階：2,403.81㎡ 3階（機械エリア）：4,778.10㎡ 建ぺい率：5.58% 容積率：16.38%
階 数	地下2階 地上3階
寸 法	最高高：16,160 mm 軒高：15,150 mm 階高：地下2階 2,300 - 19,000 mm 地下1階 2,500 - 7,500 mm 1階 2,700 - 11,000 mm 2階 2,500 - 4,000 mm 主なスパン：3,000 mm × 3,000 mm
地域・地区	都市計画区域内 市街化区域
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造（地下1・2階） 鉄骨造（地上1 - 3階） 杭・基礎：杭基礎（PHC-ST 杭）600φ・700φ、 （PHC 杭）600φ

空調設備	A H U ・定風量単一ダクト方式、一部F C U、空冷パッケージ方式 熱源：冷温水発生機（320USRt、280USRt）、加温用蒸気ボイラ
照明設備	スポットライト及び蛍光灯（調光設備・紫外線カット付）
消火設備	屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒素）消火、加圧式粉末 ABC 消火器 設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備（開放型、予作動型）、窒素ガス消火設備（一部展示室、収蔵庫、熱源機械室）
排煙設備	機械排煙設備（3系統）
防犯設備	開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場内に監視員を置く。展示室内には監視カメラを設置し、監視室にて監視。
衛生設備	給水：受水槽（42 t）+加圧給水ポンプユニット方式 給湯：局所式（電気温水器）、ガス湯沸器（厨房） 排水：ポンプアップ排水
電気設備	受電方式：高圧電力3φ3W 6,600 V 1回線受電（業務用電力+融雪電力） 設備容量：2,650 kVA 契約電力：660 kW 予備電源：非常用発電設備 500 kVA、直流電源設備（非常照明用） 設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設備、動力設備、電灯設備、展示調光設備、避雷設備、外構設備、電話設備、情報設備、インターホン設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、監視カメラ設備、機械警備設備、放送設備、中央監視設備、外構設備、演出照明設備（シアター、スタジオ）、演出音響設備、映写設備（シアター）
昇 降 機	荷物用エレベータ 1 台 乗用エレベータ 8 台
設計期間	1999 年 12 月 - 2002 年 3 月
施工期間	2002 年 12 月 - 2005 年 9 月
外部仕上げ	屋根：ウレタン塗膜防水 外壁：煉瓦+アクリルシリコン塗装 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ
内部仕上げ	展示室（白）

床：カラーモルタル金こて押え t = 20 mm + 防塵
防汚塗装

壁：合板 t = 15 mm × 2 + プラスターボード t = 12
mm + 全面寒冷紗バテ処理 + EP

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ EP

展示室（土）

床：タタキ t = 50 mm

壁：版築 t = 200 mm

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ EP

コミュニティホール

床：クリフローリング t = 15 mm

壁：プラスターボード 12 mm × 2 + スタッコ

天井：人工木材ローズウッド練り付け

シアター

床：フェルト t = 8 mm + カーペット t = 7 mm

壁：プラスターボード t = 15 mm + グラスウール
ボード + エキスパンドメタル t = 6 mm（樹
脂コーティング処理）

天井：グラスウール + プラスターボード t = 15 mm
+ エキスパンドメタル t = 6 mm（樹脂コー
ティング処理）

オフィス

床：システム根太ユニット 600 mm × 600 mm +
コンパネ t = 12 mm + クリフローリング t =
15 mm

壁：プラスターボード t = 12 mm × 2 + EP

天井：プラスターボード t = 12 mm + 吸音板 t = 12
mm + EP

アクセス

- JR 新青森駅から車で約 10 分
- 青森駅から車で約 20 分
- 青森空港から車で約 20 分
- 東北縦貫自動車道青森 I.C. から車で約 5 分
- (八戸方面から) 青森自動車道青森中央 I.C. から車で約 10 分
- 市営バス青森駅前 6 番バス停から三内丸山遺跡行き「県立美術館前」下車 (所要時間約 20 分)
- ルートバスねぶたん号新青森駅東口バス停から乗車「県立美術館前」下車 (所要時間約 10 分)



青森県立美術館年報

平成 26 年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野 185 038-0021

017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2016 年 1 月